

2024年度 授業概要

学 科 : 看護科

科目名 (英)	形態機能学Ⅰ (概論・循環器・運動器)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	※1 松本 澄久(8) ※2 岡部 幸司(7)
	Functional Morphology I	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30	実務経験	※1○ ※2○
コース					1	開講区分	前期
						曜日・時限	※1.水・1・2 ※2.月・4

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

人間の健康に関わる職種では、人間の体(人体)と心に関する知識が必要とされる。高校までは、植物と動物についての一般的な知識を生物学として学んだ。本科目では将来健康科学に関する仕事をするために必要な、人体に関する生物学的知識を学ぶのが形態機能学(解剖学・生理学)である。形態機能学Ⅰでは人体と心に関する知識のうち、概論、循環器・血管・運動器について学習する。

※1松本澄久…自衛隊病院において29年間歯科医師として勤務した実績がある

※2岡部幸司…歯科医師としての実務経験があり、福岡歯科大学にて20年以上の教育・指導経験と10年の教授としての実績がある

【到達目標】

人体の構造と機能(循環器・血管・運動器)について系統的に学び生命のメカニズムに関した生理機能を説明できる

<具体的目標>

目標①形態機能学の学習の必要性について理解し積極的に授業に参加することができる

目標②血管系の仕組みについて説明できる

目標③循環の働きについて仕組みと関連付ける

目標④人体の骨格を作る骨と関節の仕組みについて説明できる

目標⑤人体の筋肉の働きについて仕組みと関連付ける

授業計画・内容

1回目	解剖学・生理学とは(P14~16) (目標①)解剖学と生理学の対象、解剖学と生理学の関連を述べることができる 解剖学的用語(P17~24) (目標①)人体内の四つの腔所名と内部の臓器名を挙げることができる
2回目	ホメオスタシス(恒常性)(P25) (目標①)ホメオスタシスの意味を説明できる フィードバック機構(P26~29) (目標①)人体におけるフィードバック機構の役割を説明できる
3回目	細胞(P30~50) (目標①)細胞の構造と機能を述べることができる
4回目	人体を構成する4種に組織(P51~61) (目標①)4種の主要な組織(上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織)について、その特徴を述べるができる
5回目	心臓(P102~110) (目標②)心臓の位置と各部位の名称を挙げることができる
6回目	血管と循環(P111~124) (目標②)血液が体内を循環する経路を心臓を中心に述べるができる
7回目	心臓、血管の成長と老化(P125) (目標②)血圧を調整する因子を挙げることができる
8回目	リンパ系(P126~131) (目標③)主要な動脈と静脈の名称を述べるができる
9回目	骨と骨格の構造と機能(P278~283) (目標④)骨格系の機能を3つ以上挙げることができる 頭蓋、体幹の骨格の構造と機能(P284~289) (目標④)頭蓋の骨の名称を挙げることができる
10回目	四肢の骨格の構造と機能(P290~295) (目標④)脊柱を構成する椎骨の名称を挙げることができる
11回目	関節の構造と種類(P296~300) (目標④)4種類の関節の名称を挙げることができる
12回目	骨格の成長と老化(P301~303) (目標④)屈曲、伸展、外転、内転、回内、回外の言葉を説明できる 筋の種類(304~306) (目標⑤)3種類の筋組織の特徴、存在する臓器名を述べるができる
13回目	筋の機能(P307~310) (目標⑤)神経接合部とアセチルコリンの作用を説明できる 身体の運動と骨格筋(P311) (目標⑤)骨格筋の収縮に関連して、活動電位、等張性収縮、等尺性収縮を説明することができる
14回目	骨格筋の解剖生理(P312~321) (目標⑤)体表面に近い主要な筋の名称を、顔面、頸部、胸部、腹部、背部、上肢、下肢について述べるができる
15回目	筋系の成長と老化(P322~325) (目標⑤)年齢と筋肉量の変化について説明できる
準備学習 時間外学習	専門用語が多いので、事前にわからない言葉を調べておくと授業中の理解が進みます。わからないことはそのままにせず、その都度質問するように心がけましょう。
評価方法	筆記試験(100%) ※1(50%) ※2(50%)
受講生への メッセージ	はじめての専門用語などで難しい気持ちをもつと思いますが、看護師として必要な知識です。少しずつ粘り強くがんばりましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
<教科書> ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学 : 林正 健二 <メディカ出版>	

2024年度 授業概要

学 科 : 看護科

科目名 (英)	形態機能学Ⅳ (血液・腎・泌尿器)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	※1 松本 澄久(8) ※2 河野 啓助(7)
	Functional Morphology Ⅳ	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	実務経験	※1○ ※2○
コース						開講区分	前期
						曜日・時限	※1 水・1・2 ※2 木・2

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

人間の健康に関わる職種では、人間の体(人体)と心に関する知識が必要とされる。高校までは、植物と動物についての一般的な知識を生物学として学んだ。本科目では将来健康科学に関する仕事をするために必要な、人体に関する生物学的知識を学ぶのが形態機能学(解剖学・生理学)である。形態機能学Ⅳでは人体と心に関する知識のうち、血液・腎・泌尿器について学習する。

※1松本澄久…自衛隊病院において29年間歯科医師としての実績がある

※2河野啓助…大学病院および地域の病院において、腎臓専門医として20年以上の実績がある。

【到達目標】

人体の構造と機能(血液・腎・泌尿器)について系統的に学び生命のメカニズムに関する生理機能を説明できる

<具体的目標>

目標①形態機能学の学習の必要性について理解し積極的に授業に参加することができる

目標②血液の構造と機能について説明できる

目標③体液の調節と尿の生成の仕組みと働きについて説明できる

授業計画・内容

1回目	血液の機能と成分(血液とは・血液の働き) (目標①)血漿と血清の違いを説明できる
2回目	血液の機能と成分(血液の成分) (目標②)血球と血漿の成分を挙げることができる
3回目	血液とその機能(赤血球・白血球) (目標②)血球の名称と機能を説明できる
4回目	血液とその機能(血小板と血液凝固及び血栓の線溶) (目標②)造血にかかわるサイトカインを挙げることができる
5回目	血液型と輸血(ABO式血液型・Rh式血液型) (目標②)ABO式、Rh式の血液型について説明できる
6回目	血液と輸血(輸血に際しての交差適合試験) (目標②)止血のメカニズムを説明できる
7回目	血液と輸血(ヒト組織適合性白血球抗原) (目標②)輸血について説明できる
8回目	血液の発生 (目標②)造血について説明できる
9回目	腎臓(腎臓の構造と機能) (目標③)ネフロンを述べることができる
10回目	腎臓(尿の生成・血液成分の調節) (目標③)糸球体の濾過と尿管の再吸収、分泌により尿が再生される過程を述べることができる
11回目	尿管 (目標③)尿に含まれる物質を挙げることができる
12回目	膀胱 (目標③)無尿、乏尿、多尿を定義することができる
13回目	尿道 (目標③)アルドステロンが腎臓に及ぼす影響について説明できる
14回目	排尿の生理 (目標③)排尿の機構を述べることができる
15回目	泌尿器系の成長と老化 (目標③)尿道の構造について男性と女性の差を説明できる

準備学習
時間外学習 専門用語が多いので、事前にわからない言葉を調べておく授業中の理解が進みます。わからないことはそのままにせず、その都度質問するようにこころがけましょう。

評価方法 筆記試験(100%)
※1(50%)
※2(50%)

受講生への
メッセージ はじめての専門用語などで難しい気持ちをもつと思いますが、看護師として必要な知識です。少しずつ粘り強くがんばりましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

<教科書>

ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学 : 林正 健二 <メディカ出版>

2024年度 授業概要

学 科 : 看護科

科目名 (英)	小児看護学方法論Ⅲ Pediatric Nursing Methodology III	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	※1 古野憲司(2) ※2 金城唯宗(2) ※3 伊規須千春(11)
コース		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	実務経験	※1〇 ※2〇
						開講区分	前期
						曜日・時限	※1 月3・4 ※2 火3・4 ※3 水3・4
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>今日、子どもの生活習慣病の増加、こころの問題、思春期の子どもの自殺、育児不安、児童虐待など、子どもを取り巻く社会や家族に深く関わる子どもの健康問題が増加している。小児看護に携わる看護者は、権利を有する一人の人として子どもを尊重し、さまざまな健康レベルの子どもが社会の中で健やかに発達し生きていくことができるように、看護を提供していく必要がある。小児看護学方法論Ⅲでは、小児期に多い疾患の病態生理・症状・検査・治療およびその看護を学習する。</p> <p>※1…大学病院などの小児科で、専門医として20年以上の実績がある ※2…大学病院などの小児科で、専門医として15年以上の実績がある ※3…看護師として20年間以上の実績がある</p> <p>【到達目標】</p> <p>小児の健康障害および健康障害が子どもやその家族に与える影響を理解し、健康状態に応じた看護について説明できる</p> <p><具体的目標></p> <p>目標①小児期に多い疾患の病態生理・症状・検査・治療を説明できる 目標②健康障害を持つ子ども・家族への看護の実際について説明できる</p>							

授業計画・内容	
1回目	(目標①)小児期に多い疾患(呼吸器炎症性疾患、気管支喘息、先天性心疾患、心臓炎症性疾患)の病態生理・症状・検査・治療を説明できる (目標①)小児期に多い疾患(咽頭扁桃炎炎症性疾患、上部消化管潰瘍性疾患、下部消化管炎症性疾患)の病態生理・症状・検査・治療を説明できる
2回目	(目標①)小児期に多い疾患(肝・胆・膵炎炎症性疾患、全身性エリテマトーデス、頭蓋内圧亢進症、脳炎、髄膜炎、骨折、脱臼、捻挫、運動器系の炎症性疾患)の病態生理・症状・検査・治療を説明できる (目標①)小児期に多い疾患(貧血、白血球減少症、出血性疾患、血液腫瘍性疾患)の病態生理・症状・検査・治療を説明できる
3回目	(目標①)小児期に多い疾患(鼠径ヘルニア、間脳・下垂体疾患、甲状腺疾患、副腎皮質・髄質疾患脊髄腫瘍、てんかん、脳腫瘍)の病態生理・症状・検査・治療を説明できる (目標①)小児期に多い疾患(視覚障害、皮膚障害)の病態生理・症状・検査・治療を説明できる
4回目	(目標①)小児期に多い疾患(筋ジストロフィー、ハイリスク新生児)の病態生理・症状・検査・治療を説明できる (目標①)小児期に多い疾患(腎炎、慢性腎臓病、腎盂腎炎、膀胱炎、泌尿器系の腫瘍、女性・男性生殖器の疾患)の病態生理・症状・検査・治療を説明できる
5回目	健康障害を持つ子ども・家族への看護 (目標②)健康障害や入院に伴う子どものストレスと対処法について理解し、子どもと家族への看護援助について述べる事ができる
6回目	(目標②)集中治療を受けている子どもと家族の看護の実際について説明できる
7回目	(目標②)ハイリスク新生児と家族への看護の実際について説明できる
8回目	(目標②)先天的な健康障害を持つ子どもと家族への看護の実際について説明できる
9回目	(目標②)心身障害のある子どもと家族への看護の実際が説明できる
10回目	(目標②)痛みのある子どもと家族への看護の実際が説明できる
11回目	(目標②)ネフローゼ症候群をもつ子どもと家族への看護が展開できる(演習)
12回目	(目標②)ネフローゼ症候群をもつ子どもと家族への看護が展開できる(演習)
13回目	(目標②)ネフローゼ症候群をもつ子どもと家族への看護が展開できる(演習)
14回目	(目標②)成人への移行期にある健康障害をもつ子どもと家族への看護の実際が説明できる
15回目	(目標②)成人への移行期にある健康障害をもつ子どもと家族への看護の実際が説明できる
準備学習 時間外学習	事例をよく読んで必要な調べ学習は各自行ってから授業に臨むこと。課題やレポートはその都度指示する。忘れ物のないように留意すること。
評価方法	筆記試験 ※1(30%):筆記試験 ※2(70%):内、筆記試験(40%)、態度・提出物(30%)
受講生への メッセージ	小児看護学概論、Ⅰ、Ⅱで学んだことの総まとめとして看護過程を展開します。 疾病・治療、薬理、解剖などいろいろな知識を統合して取り組みましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
<教科書>	
ナーシンググラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 : 中野 綾美(編集) <メディカ出版>	
ナーシンググラフィカ 小児看護学③ 小児の疾患と看護 : 中村 友彦(編集) <メディカ出版>	

2024年度 授業概要

学 科 : 看護科

科目名 (英)	母性看護学方法論 I Maternity Nursing Methodology I	必修 選択	必修	年次	2	担当教員 実務経験	前田 梓 ○
コース		授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 1	開講区分 曜日・時限	前期 水・4

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

母性看護学は、女性の一生を通じた母性の健康の保持・増進を目指した看護を基盤として次世代の健全育成を目指す看護について学ぶ。母性看護学方法論 I では、リプロダクティブヘルス/ライツの概念を学び、女性のライフサイクル各期における特徴と健康問題への看護について学習する。

前田梓…急性期病棟や集中治療棟で看護師として9年間、助産師として大学病院などの周産期センター、産婦人科クリニックなどで10年以上の実績がある

【到達目標】

女性のライフサイクル各期における特徴と健康の維持・増進のための看護の役割について説明できる

< 具体的目標 >

目標①女性のライフステージ各期における看護について説明できる

目標②リプロダクティブヘルスケアについて説明できる

授業計画・内容

1回目	(目標②) 生殖に関する生理を理解し説明できる
2回目	(目標①) 思春期の健康と看護について説明できる (目標②) 性感染症とその予防について説明できる
3回目	(目標①) 成熟期の健康と看護について説明できる (目標②) 女性生殖器の腫瘍と看護について説明できる
4回目	(目標①) 妊孕性にかかわる不妊という健康問題の特徴について説明できる (目標②) 不妊治療を受けているカップルへの支援について説明できる
5回目	(目標①②) 更年期女性の特徴・健康問題と看護について説明できる (目標①②) 老年期女性の特徴・健康問題と看護について説明できる
6回目	(目標②) 母性看護における倫理的課題について分析方法を説明できる (目標②) 人工妊娠中絶に関する現況、倫理的・法的・社会的課題を説明できる (目標①) 予期せぬ妊娠に妊娠継続を悩む事例に対する倫理的課題の実際について説明できる
7回目	(目標②) 出生前診断に関する現況、倫理的・法的・社会的課題を説明できる (目標①) 出生前診断を受けるか否かを悩む事例に対する倫理的課題の実際について説明できる
8回目	(目標②) 生殖補助医療に関する現況、倫理的・法的・社会的課題の実際について説明できる (目標①) 生殖補助医療のステップアップに悩む事例に対する倫理的課題の実際について説明できる
準備学習 時間外学習	課題はその都度指示します。興味のある人は、先を進めてください。
評価方法	終講試験(60%) 小テスト、課題レポート(30%) 授業態度(10%)
受講生への メッセージ	母性看護学は生物の起源であり現在・未来の根源となる学問です。自分自身や自分をこれまで支えてくれた人々の存在に感謝し、これからの自分の生き方、看護師としての生き方を考えるきっかけになってもらえたらうれしいです。一緒に広く多様的で柔軟な視野をもって母性看護学を楽しく学んでいきましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

< 教科書 >

ナーシンググラフィカ 母性看護学①概論・リプロダクティブヘルスと看護 《メディカ出版》

2024年度 授業概要

学 科 : 看護科

科目名 (英)	母性看護学方法論Ⅱ (正常な妊娠・分娩・産褥・新生児) Maternity Nursing Methodology II	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	前田 梓
		授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
コース						開講区分	前期
						曜日・時限	木・1

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

母性看護学は、女性の一生を通じた母性の健康の保持・増進を目指した看護を基盤として次世代の健全育成を目指す看護について学ぶ。母性看護学方法論Ⅱでは、正常な妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の経過およびその看護を学習する。

前田梓…急性期病棟や集中治療棟で看護師として9年間、助産師として大学病院などの周産期センター、産婦人科クリニックなどで10年以上の実績がある

【到達目標】

妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の援助を行うための基礎的援助技術を習得する

< 具体的目標 >

- 目標① 妊娠期における看護を説明できる
- 目標② 分娩期における看護を説明できる
- 目標③ 新生児期における看護が説明できる
- 目標④ 産褥期における看護が説明できる

授業計画・内容

1回目	(目標①②③④) マタニティサイクルにある人々の看護の中心概念と看護実践を支える概念を説明できる (目標①) 妊婦の生理と妊娠期における看護について説明できる
2回目	(目標①) 妊婦と胎児のアセスメントについて説明できる (目標①) 出産を控えた妊婦と家族の心理・社会的変化と看護について説明できる
3回目	(目標①) 妊娠期の健康維持のためのセルフマネジメントとそのアプローチについて説明できる
4回目	(目標①) 妊娠期の変化に対するセルフマネジメントとそのアプローチについて説明できる
5回目	(目標②) 分娩期における看護師の役割と分娩の生理について説明できる
6回目	(目標②) 分娩第1期2期における産婦と胎児のアセスメントと分娩進行に影響を及ぼす因子について説明できる
7回目	(目標②) 分娩第3期4期における産婦と胎児付属物のアセスメントについて説明ができる
8回目	(目標②) 産婦のニーズと看護について説明ができる (目標②) 産婦と家族の心理について説明できる
9回目	(目標③) 新生児期の看護師の役割と新生児の生理的特徴の説明ができる
10回目	(目標③) 新生児のアセスメントの方法を説明できる
11回目	(目標③) 新生児期の看護ケア(沐浴・清拭)について説明できる(演習)
12回目	(目標④) 産褥期における看護師の役割と産褥の生理について説明できる (目標④) 産婦のアセスメントと看護について説明できる
13回目	(目標④) 産婦の日常生活とセルフケアを支える看護について説明できる (目標④) 母親になることへの看護について説明できる
14回目	(目標④) 母乳育児の世界的動向と特性について説明できる (目標④) 新生児の生理機能と乳汁分泌メカニズムに基づいた母乳育児支援について説明できる
15回目	(目標④) 母親へのエモーショナルサポートとエンパワメントについて説明できる (目標④) 母子保健に関する施策や多職種連携に基づく包括的体制について説明ができる

準備学習 時間外学習	課題はその都度指示します。興味のある人は、先を進めてください。
---------------	---------------------------------

評価方法	終講試験(60%) 小テスト、課題レポート(30%) 授業態度(10%)
------	--------------------------------------------

受講生への メッセージ	母性看護学は生物の起源であり現在・未来の根源となる学問です。自分自身や自分をこれまで支えてくれた人々の存在に感謝し、これからの自分の生き方、看護師としての生き方を考えるきっかけになってもらえたらうれしいです。一緒に広く多様的で柔軟な視野をもって母性看護学を楽しく学んでいきましょう。
----------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【使用教科書・教材・参考書】

- < 教科書 >
 ナーシンググラフィカ 母性看護学②母性看護の実践 《メディカ出版》
 ナーシンググラフィカ 母性看護学③母性看護技術 《メディカ出版》

2024年度 授業概要

学 科 : _____ 看護科

科目名 (英)	母性看護学方法論Ⅲ (異常な妊娠・分娩・産褥・新生児・ 女性生殖器疾患)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	※1 中並 尚幸(4) ※2 前田 梓(11)
	Maternity Nursing Methodology III					実務経験	○
コース		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	開講区分	※1 水・1~4 ※2 木・2

【授業の学習内容】 (※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

母性看護学は、女性の一生を通じた母性の健康の保持・増進を目指した看護を基盤として次世代の健全育成を目指す看護について学ぶ。母性看護学方法論Ⅲは、周産期における異常について理解し母子、夫、家族に必要な看護を学習する。

※1…大学病院などの周産期センターの産科で、専門医として25年以上の実績がある
 ※2…急性期病棟や集中治療棟で看護師として9年間、助産師として大学病院などの周産期センター、産婦人科クリニックなどで10年以上の実績がある

【到達目標】

妊娠期・分娩期・産褥期・新生児の異常とその看護を理解し母子とその家族への支援を説明できる

< 具体的目標 >

- 目標①女性生殖器系の疾患・症状について説明できる
- 目標②妊娠の異常と看護について説明できる
- 目標③分娩の異常と看護について説明できる
- 目標④新生児の異常と看護について説明できる
- 目標⑤産褥の異常と看護について説明できる
- 目標⑥精神障害合併妊婦と家族の看護について説明できる

授業計画・内容	
1回目	(目標①) 生殖における健康問題(月経異常・性感染症・女性生殖器腫瘍など)について説明できる
2回目	(目標②) ハイリスク妊娠について説明できる (目標②) 妊娠期の異常について説明できる
3回目	(目標③) 分娩期の異常について説明できる (目標③) 分娩期に行う処置や手術について説明できる
4回目	(目標⑤) 産褥期の異常について説明できる (目標⑤) 産褥期の異常に対する対策や治療について説明できる
5回目	(目標②) 妊娠期の異常(異所性妊娠・妊娠維持器官の異常・ハイリスク妊娠)と看護のポイントについて説明できる
6回目	(目標②) 妊娠期の異常(妊娠に伴う異常・多胎・妊娠期の感染症・胎児と胎児付属物における異常)と看護のポイントについて説明できる
7回目	(目標③) 分娩期の異常(産道・娩出力・娩出物の異常)と看護について説明できる
8回目	(目標③) 分娩期の異常(児頭骨盤不均衡・臍帯の異常・胎児機能不全)と看護について説明できる
9回目	(目標③) 分娩期の異常(分娩時裂傷・異常出血)と看護について説明できる
10回目	(目標③) 産科処置(分娩誘発・促進、会陰切開、帝王切開)と看護について説明できる
11回目	(目標④) ハイリスク新生児(出生直後)の特徴と看護について説明できる
12回目	(目標④) 早期新生児の異常と看護について説明できる
13回目	(目標⑤) 産褥期の身体的異常、帝王切開後の褥婦について学習し、その看護について説明できる
14回目	(目標⑤) 産褥期の精神障害と看護について説明できる
15回目	(目標⑤) 流産・死産後の女性と家族への看護について説明できる (目標⑤) 先天異常・障害を持つ新生児の家族ケアについて説明できる
準備学習 時間外学習	課題はその都度指示します。興味のある人は、先を進めてください。
評価方法	※1(30%) : 筆記試験 ※2(70%) 内訳: 筆記試験(70%)、課題レポート(25%)、授業態度(5%)
受講生へのメッセージ	母性看護学は生物の起源であり現在・未来の根源となる学問です。自分自身や自分をこれまで支えてくれた人々の存在に感謝し、これからの自分の生き方、看護師としての生き方を考えるきっかけになってもらえたらうれしいです。一緒に広く多様な柔軟な視野をもって母性看護学を楽しく学んでいきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
< 教科書 >	
ナーシンググラフィカ 母性看護学①概論・リプロダクティブヘルスと看護 《メディカ出版》	
ナーシンググラフィカ 母性看護学②母性看護の実践 《メディカ出版》	
ナーシンググラフィカ 母性看護学③母性看護技術 《メディカ出版》	

2024年度 授業概要

学 科 : 看護科

科目名 (英)	精神看護学方法論Ⅱ Mental Health Nursing Methodology Ⅱ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	粒崎 一典
						実務経験	○
コース		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	開講区分	前期
						曜日・時限	金1~4
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>精神看護学は、心の問題を有する苦悩を理解し、生きることを支えることであり、また心の健康時の援助と、心の健康が障害された時の回復への援助をすることである。そのため、精神看護学を学ぶため、心の健康、心の発達、働きについて理解するが必要であり、人間の人生の過程で生じる心の問題に対する看護を学習することが必要です。</p> <p>精神看護学方法論Ⅱでは、精神障害のある対象の看護に必要な技術について学び実践へ向けて基礎的能力を身に着けることをめざします。</p> <p>粒崎 一典…精神科の看護師として20年間以上の実績がある</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>心のバランスを崩している人や精神的諸問題を持つ人の症状、問題の特徴、治療方法及び看護について説明できる</p> <p><具体的目標></p> <p>目標①精神科で行われる医学的検査と心理検査について説明できる</p> <p>目標②精神科で行われる主な治療について説明できる</p> <p>目標③精神科看護における対象の理解について説明できる</p> <p>目標④精神科におけるケアの方法について説明できる</p>							
授業計画・内容							
1回目	(目標①)医学的検査および心理検査における看護師の役割を説明できる						
2回目	(目標②)精神科における治療の特徴について説明できる						
3回目	(目標②)薬物療法について説明できる						
4回目	(目標②)精神療法について説明できる						
5回目	(目標②)社会療法について説明できる						
6回目	(目標②)電気療法について説明できる						
7回目	(目標③)精神科におけるアセスメントの視点について説明できる						
8回目	(目標③)治療の場の人間関係について説明できる						
9回目	(目標④)治療的関わりの考え方について説明できる						
10回目	(目標④)治療的かかわりに向けて自己のコミュニケーションを洞察できる						
11回目	(目標④)治療的コミュニケーションが実践できる						
12回目	(目標④)日常生活行動の援助について説明できる						
13回目	(目標④)服薬治療にかかわる援助について説明できる						
14回目	(目標④)入院環境と治療的アプローチについて説明できる						
15回目	(目標④)救急医療現場における患者支援と精神的関わりについて説明できる						
準備学習 時間外学習	心のバランスを崩している人や精神的諸問題を持つ人の症状、問題の特徴、治療方法及び看護について学習効果を高めるための予習が必要です。						
評価方法	筆記試験(80%) レポート提出(10%) 授業への参加及び学習状況(10%)から総合的に評価する						
受講生への メッセージ	精神の疾病・障害に関する基礎的な知識を学び、それぞれの疾病・障害の概念を理解し、その特徴、診断基準、治療方法と、精神障害をもつ人を理解し、基本的な援助技術を学びましょう。						
<p>【使用教科書・教材・参考書】</p> <p><教科書> ナーシング・グラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践 : 出口 禎子(編集) 《メディカ出版》</p> <p><参考書> 精神看護学ノート 第2版 : 武井麻子 《医学書院》</p>							

2024年度 授業概要

学 科 : 看護科

科目名 (英)	精神看護学方法論Ⅲ Mental Health Nursing Methodogy III	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	粒崎 一典
コース		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	実務経験	※1○ ※2○
						開講区分	前期
						曜日・時限	※1 水・3.4 ※2 金1～4

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

精神看護学は、心の問題を有する苦悩を理解し、生きることを支えることであり、また心の健康時の援助と、心の健康が障害された時の回復への援助をすることである。そのため、精神看護学を学ぶため、心の健康、心の発達、働きについて理解するが必要であり、人間の人生の過程で生じる心の問題に対する看護を学習することが必要です。

精神看護学方法論Ⅲでは、健康障害時の看護として精神に障害をきたした人を理解し、対象に応じた看護援助につて説明できるようになる。

粒崎 一典…精神科の看護師として20年間以上の実績がある

【到達目標】

精神障害のある対象に対する看護過程が展開できる

<具体的目標>

目標①精神症状と疾患の概要が理解できる

目標②精神疾患のある患者に対して看護過程が展開できる

授業計画・内容

1回目	(目標①)精神症状と精神疾患(総論、神経発達症・成人期の自閉症スペクトラム、統合失調症)について説明できる。
2回目	(目標①)精神症状と精神疾患(抑うつ障害と双極性障害、不安障害、強迫性障害、ストレス因関連障害)について説明できる。
3回目	(目標①)精神症状と精神疾患(解離性障害、身体症状および関連症、摂食障害、睡眠-覚醒障害)について説明できる。
4回目	(目標①)精神症状と精神疾患(物質関連障害、神経認知障害、パーソナリティ障害、身体疾患と精神症状)について説明できる。
5回目	(目標②)統合失調症(急性期)患者の看護の実際について説明できる
6回目	(目標②)統合失調症(急性期)患者の看護の実際について説明できる
7回目	(目標②)統合失調症(慢性期)患者の看護の実際について説明できる
8回目	(目標②)統合失調症(慢性期)患者の看護の実際について説明できる
9回目	(目標②)パーソナリティ障害患者の看護の実際について説明できる
10回目	(目標②)パーソナリティ障害患者の看護の実際について説明できる
11回目	(目標②)うつ病患者の看護の実際について説明できる
12回目	(目標②)うつ病患者の看護の実際について説明できる
13回目	(目標②)パニック障害患者の看護の実際について説明できる
14回目	(目標②)摂食障害患者の看護の実際について説明できる
15回目	(目標②)被虐待児症候群、解離性障害患者の看護の実際について説明できる
準備学習 時間外学習	精神障害のある患者との治療的関係成立が理解できるように学習効果を高めるための予習が必要です。 精神疾患、検査、治療について予習と復習をしてください
評価方法	※1(30%) : 筆記試験 ※2(70%)内訳: 筆記試験(50%)、レポート提出(10%)授業への参加及び学習状況(10%) から総合的に評価する
受講生への メッセージ	講義およびグループワークをととして、精神医学の視点から主な精神疾患に関する基礎的な知識を得、また、精神科看護方法に関する技術を学びましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
<教科書> ナーシング・グラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実際 : 出口 禎子(編集) <メディカ出版>	
<参考書> 精神看護学ノート 第2版 : 武井麻子 <医学書院>	

2024年度 授業概要

学科： 看護科

科目名 (英)	統計学 Medical Statistics	必修 選択	必修	年次	1	担当教員 実務経験	堤 文生 ○
コース		授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日・時限	前期 金・3.4
<p>【授業の学習内容】 (※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 本講義では、統計を正しく使い、確率論的・統計学的に正当な結論を導くための基本的知識と手法を習得する。また、統計学の基本的知識をどのように医学と関連性を持たすことができるのかを学ぶ。そのうえで、それぞれの統計学的手法の違いを理解し、実際にPCを使用し体験する。</p> <p>堤 文生…理学療法士として8年間の実績がある。H11年より多くの著書・論文執筆を行い、H17年より、いくつかの非常勤講師として基礎統計学の教育に携わっている。</p> <p>【到達目標】</p> <p>統計とは何か理解し、そのうえで基本的な統計手法と基本的知識を得ることができる また、その知識を医学と関連させることができ、いくつかの統計学的な結論を導くための手法を正しく選択できる <具体的目標> 目標①統計学は何に使えるのか知り、記述統計とは何か説明できる 目標②分布について理解し、箱ひげ図などを実際に書くことができる 目標③いくつかの統計学的な手法の違いを理解し、使い分けすることができる</p>							

授業計画・内容	
1回目	統計学について、エクセルデータの収集と分析(エクセル関数) (目標①)統計学を学ぶ意味とは何か説明できる
2回目	度数分布の求め方、エクセル関数の活用 (目標①)記述統計の準備を行うことができる
3回目	標本の代表値(平均値、S.D、中央値) (目標①)記述統計とは何か説明できる
4回目	クロス集計の求め方 (目標②)散布度を求め、箱ひげ図を書くことができる
5回目	相関係数の求め方、順位点の求め方 (目標②)2変量データをまとめることができる
6回目	適合性の検定 (目標②)正規分布表の意味を知り、実際に使うことができる
7回目	独立性の検定 (目標②)色々な分布の意味を知り、実際に使うことができる
8回目	正規分布とは、正規性の検定 (目標③)点推定値と区間推定値を求めることができる
9回目	関連2群の差の検定 (目標③)様々な区間推定値を求めることができる
10回目	独立2群の差の検定 (目標③)検定とは何か説明でき、実際に検定を行うことができる
11回目	ROC分析、回帰直線と相関係数の検定 (目標③)χ ² 検定を行うことができる
12回目	独立多群の差の検定 (目標③)順位和検定を行うことができる
13回目	関連多群の差の検定 (目標③)疾病頻度を求めることができる
14回目	模擬問題 (目標③)生命表法の計算を行うことができる
15回目	まとめ 模擬問題
準備学習 時間外学習	(目標①)統計学は、日常生活における客観的指標としても多く使われています。自身の主観的判断も時に大切ではありますが、その判断となる根拠について考えてみる習慣を身に付けることが重要です。統計学を理解するうえで、自分の直感を証明するために、どうすればよいかということに常に考えることが大事です。 (目標②)箱ひげ図は、理学療法士の論文を解説する、または自身が執筆するうえで良く見るものです。多くの学術誌に触れ、読み取り方を学ぶ姿勢が重要です。まずは、学術誌を分からなくても開いてみる事をお勧めします。 (目標③)統計手法は様々なあります。場面に応じて使い分けが可能となるためには、個々の手法をまずは理解する必要があります。そのために、各講義の振り返りを行うことは非常に重要と言えます。復習をしっかりとすることをお勧めします。
評価方法	定期試験結果による判定を行う。 判定基準については、試験規定に基づき、成績評価第12条の通りとする。
受講生への メッセージ	魅力:現代社会は、「根拠」を重視しています。医療業界においても、治療を行った結果を検証し正しい治療であったか、そうでなかったか検証を常に続ける必要があります。しかし、個人の感覚だけでは正しかったのかどうかは不明確と言えるでしょう。うえ手く行ったのか、失敗だったのかを検証するためには、統計学を用いる必要があります。この講義では、統計学の基本を押さえたうえで、理学療法士として用いる統計学との関わりを知ることで、多くの活用が出来るものと考えます。この機会に是非、統計学を身近に感じ活かしていただけたいと思います。 履修計画:講義は講義・演習形式となります。本校舎のPC教室で行います。準備忘れや遅刻のないよう注意が必要です。また、実際にPCを操作して、作業ができるようになることを目標としています。欠席が続くと作業が出来ないことになりますので、注意してください。
【使用教科書・教材・参考書】	
<教科書> なし(講義資料を中心に行います)	
<使用教材> 講義資料(毎講義前に提示)、PC、マイク、プロジェクター PC教室を使用します	

2024年度 授業概要

学 科 : 看護科

科目名 (英)	行動科学 Behavioral Science	必修 選択	必修	年次	1	担当教員 実務経験	掛札博士 ○
コース		授業 形態	講義	総時間 (単位)	15	開講区分	前期
					1	曜日・時限	木4

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

病院から在宅療養へ、また延命医療からウェルネスや尊厳を重視したホスピス医療へなど、一連の医療システムが変化する新たな時代の中で、科学という知識とそれにより得た技術体系をどのように生かすのかを考えることができる。

*看護師として15年以上の実務経験あり。

【到達目標】

1. 医療における行動科学は、健康の維持・促進行動の科学であり、心理学と密接に関係していることを理解できる
2. 心理学から生まれたルールを理解すると同時に、法則や理論の根拠となる行動観察や実践の内容、あるいは研究方法について学ぶ
3. 健康行動の維持・促進を目的とした介入方法を学ぶ

< 具体的目標 >

- 目標① 全人的医療の展開にとって必要不可欠な視点と方法論について述べることができる
- 目標② セルフケアの支援のための考え方と具体的なスキルを修得する
- 目標③ 患者を中心とする専門性に基づいた職種横断的なチーム医療の展開について述べるができる
- 目標④ 時代の要請に適った保険医療の実践と保健医療者の育成に向けて具体的な戦略について考える

授業計画・内容

1回目	患者とのコミュニケーション (目標①) 医療者と患者並びにその家族との良好なコミュニケーションが医療の質を左右することがわかる
2回目	病気と性格・行動パターン (目標①) 患者理解のためのキー概念であるパーソナリティについて、そのアセスメントと行動変容の支援について考える
3回目	セルフケア学習 (目標②) 患者が自ら参加し、セルフケアを促すための支援について考える
4回目	ライフスタイルと健康 (目標②) 健康が私たちの日常の暮らし方・生き方、ストレスの程度いかにによって左右されていることがわかる
5回目	健康行動の変容と健康心理カウンセリング (目標②) なぜ望ましい健康行動を人は取れないのか、その思いを受容しながら健康支援を行うことの大切さがわかる
6回目	医療者としての適性 (目標③) 生命と健康を守るにふさわしい医療者の適性とは何かがわかる
7回目	医療者の仕事とストレス (目標③) ヒューマンケアを実践する医療者の仕事はなぜストレスが高くなるのか、その対策について考える
8回目	医療看護場面における研究と倫理的問題 (目標④) 臨床研究遂行のためのスキル向上のためのインフォームドコンセントの充実と倫理的思考がわかる
準備学習 時間外学習	関連する科目、「教育学」「倫理学」「人間関係論」「コミュニケーションスキル」と繋いだ学習をしてください。 より多くの人と会話してください。
評価方法	課題レポート(100%)
受講生への メッセージ	人のかかわりを大切にすることを学んでください。

【使用教科書・教材・参考書】

< 教科書 >

講師準備

< 参考資料 >

ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障① 健康と社会・生活 : 平野 かよ子、渡戸一郎 < メディカ出版 >

2024年度 授業概要

学 科 : 看護科

科目名 (英)	形態機能学Ⅱ (脳・神経・免疫・内分泌・生殖器)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	※1 岡部 幸司(6) ※2 角 静香(8) ※3 前田 梓(1)
	Functional Morphology II	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 I	実務経験	※1○ ※2○ ※3○
コース						開講区分	通年
						曜日・時限	※1.火3.4 ※2.火1 ※3.木4

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

人間の健康に関わる職種では、人間の体(人体)と心に関する知識が必要とされる。高校までは、植物と動物についての一般的な知識を生物学として学んだ。本科目では将来健康科学に関する仕事をするために必要な、人体に関する生物学的知識を学ぶのが形態機能学(解剖学・生理学)である。形態機能学Ⅱでは人体と心に関する知識のうち、脳・神経・感覚器・内分泌・生殖器について学習する。

※1岡部幸司…歯科医師。福岡市科大学・細胞生理学にて10年間の教授経験あり。

※2角静香…歯科医師として大学病院での実務経験と免疫学を長年研究した実績がある。

※3前田梓…急性期療養や集中治療科で看護師として9年間、助産師として大学病院などの産科センター、産婦人科クリニックなどで9年以上の実績がある。

【到達目標】

人体の構造と機能(脳・神経・感覚器・内分泌・生殖器)について系統的に学び生命のメカニズムに関した生理機能を説明できる

<具体的目標>

目標①形態機能学の学習の必要性について理解し積極的に授業に参加することができる

目標②脳神経系の構造と機能について説明できる

目標③外界の刺激を受容する感覚器の構造と機能について説明できる

目標④外部から情報を取り入れる仕組みについて説明できる

目標⑤生殖器の構造と機能について説明できる

授業計画・内容

1回目	脳・神経系 (目標①)形態機能学の学習の必要性について説明できる (目標②)大脳の機能と構造について説明できる
2回目	脳・神経系 (目標②)間脳・脳幹・小脳の構造と機能について説明できる
3回目	脳・神経系 (目標②)脊髄の機能と構造について説明できる
4回目	脳・神経系 (目標②)脳神経・脊髄神経の構造と機能について説明できる
5回目	脳・神経系 (目標②)脳膜・脳室の循環の構造と機能
6回目	脳・神経系 (目的②)脳の血管の構造と機能
7回目	免疫系 (目標③)獲得免疫系の仕組みについて説明できる
8回目	免疫系 (目標③)自然免疫系の仕組みと獲得免疫系との関連について
9回目	免疫系 (目標③)免疫系と感染症について説明できる
10回目	免疫系 (目標④)アレルギーと自己免疫疾患
11回目	内分泌系 (目標④)内分泌の仕組みとホルモンについて説明できる
12回目	内分泌系 (目標④)主なホルモンの分泌と作用について説明できる
13回目	内分泌系 (目標④)糖質・脂質・タンパク質の代謝について説明できる
14回目	内分泌系 (目標④)グルコースの流れとインスリンによる血糖調節について説明できる 内分泌・代謝器官の構造と機能について説明できる
15回目	生殖器系 (目標⑤)子係を残す仕組みについて説明できる

準備学習
時間外学習 専門用語が多いので、事前にわからない言葉を調べておく授業中の理解が進みます。わからないことはそのまませず、その都度質問するようにこころがけましょう。

評価方法 筆記試験(100%)
※1(40%) ※2(50%) ※3(10%)

受講生へのメッセージ はじめての専門用語などで難しい気持ちをもつと思いますが、看護師として必要な知識です。少しずつ粘り強くがんばりましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

<教科書>

ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学 : 林正 編 二 <メディカ出版>

ナーシンググラフィカEX② 脳・神経 <メディカ出版>

ナーシンググラフィカEX③ 視・耳鼻咽喉・歯・口腔・皮膚 <メディカ出版>

ナーシンググラフィカEX④ 腎・泌尿器・内分泌・代謝 <メディカ出版>

ナーシンググラフィカEX⑤ 女性生殖器 <メディカ出版>

2024年度 授業概要

学 科 : 看護科

科目名 (英)	形態機能学Ⅲ (呼吸器・消化器)	必修 選択	必修	年次	Ⅰ	担当教員	岡部 幸司
	Functional Morphology III	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30	実務経験	○
コース					1	開講区分	前期
						曜日・時限	火3.4

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

人間の健康に関わる職種では、人間の体(人体)と心に関する知識が必要とされる。高校までは、植物と動物についての一般的な知識を生物学として学んだ。本科目では将来健康科学に関する仕事をするために必要な、人体に関する生物学的知識を学ぶのが形態機能学(解剖学・生理学)である。形態機能学Ⅲでは人体と心に関する知識のうち、呼吸器・消化器について学習する。

※1…歯科医師。福岡歯科大学・細胞生理学にて10年間の教授経験あり。

【到達目標】

人体の構造と機能(呼吸器・消化器)について系統的に学び生命のメカニズムに関した生理機能を説明できる

<具体的目標>

- 目標①形態機能学の学習の必要性について理解し積極的に授業に参加することができる
- 目標②呼吸器系の構造と機能について説明できる
- 目標③消化器系構造と機能について説明できる

授業計画・内容

1回目	呼吸器系の構造と機能(呼吸器系の役割・鼻と鼻腔・咽頭) (目標①)鼻や口から入る空気が肺に至るまでに通過する呼吸器官を挙げることができる
2回目	呼吸器系の構造と機能(咽頭・喉頭) (目標②)呼吸器系の加温・加湿・清浄化(感染防御)機構を述べることができる
3回目	呼吸器系の構造と機能(気管と気管支・肺) (目標②)胸腔における胸膜と肺の位置関係が説明できる
4回目	呼吸のプロセス(換気・内呼吸) (目標②)肺胞の構造を述べることができる
5回目	呼吸のプロセス(ガスの運搬・外呼吸) (目標②)呼吸の機能を述べることができる
6回目	呼吸の調節(化学受容器と呼吸器系の受容器・呼吸中枢) (目標②)スパイロメーターで測定する排気量分画の意味を説明できる
7回目	呼吸の調節(呼吸調節の効果器である呼吸筋・呼吸の様々な異常) (目標②)肺活量・%肺活量・1秒間努力呼気容量・1秒率の臨床応用について述べるができる
8回目	呼吸器系の成長と老化 (目標②)外呼吸・内呼吸を説明できる
9回目	食欲 (目標③)食欲の調節機構を述べるができる
10回目	咀嚼 (目標③)唾液の成分と機能を説明できる
11回目	嚥下 (目標③)歯の構造を述べ、乳歯と永久歯の名称を挙げることができる
12回目	消化 (目標③)嚥下の機構を述べることができる
13回目	吸収 (目標③)胃・小腸・大腸の構造名を挙げることができる
14回目	排泄 (目標③)消化管や付属腺から分泌される消化酵素の名称と、各々が作用する物質を説明することができる
15回目	消化器系の成長と老化 (目標③)消化器の発達について述べるができる
準備学習 時間外学習	専門用語が多いので、事前にわからない言葉を調べておく授業中の理解が進みます。わからないことはそのままにせず、その都度質問するようにこころがけましょう。
評価方法	筆記試験(100%)
受講生への メッセージ	はじめでの専門用語などで難しい気持ちをもつと思いますが、看護師として必要な知識です。少しづつ粘り強くがんばりましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

<教科書>

テーシング・グラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学 : 林正 健二 <<メディカ出版>>

2024年度 授業概要

学 科 : 看護科

科目名 (英)	臨床検査 Clinical Examination	必修 選択	必修	年次	2	担当教員 実務経験	小熊坂沙紀他7名 ○
コース		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日・時限	前期 金.3.4

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
 現代の医療において、治療や処置の効果が科学的に証明され、根拠に基づいて実践されるようになった。
 カンファレンスにおいて、医療職が互いの専門知識を基に共通言語を使って患者の病態や治療方針、治療効果、ケアプラン策定などについて討議しなければスムーズに進まない。
 その共通言語のひとつが臨床検査である。
 病気を確実に診断したり、治療方針を決定するためには、臨床検査を欠かすことはできない。
 看護専門職者として、臨床検査の意義や目的を理解し、検査データを解釈する基礎的知識を修得する。
 福永雅人他7名:全員臨床検査技師として臨床現場において5年以上20年未満活動を行っている。

【到達目標】
 検査データについて理解し、看護ケアの実践に役立てることができる。
 < 具体的目標 >
 目標①医療施設で行う検査の介助や患者の指導について理解が深まる
 目標②各領域の検査方法や検査機器などについて理解し、データと疾患をつなげることができる

授業計画・内容	
1回目	臨床検査とその役割・臨床検査の流れ (目的①)人間の体の異常な変化を適切にとらえ、臨床検査の流れ、準備、患者への説明と注意、検体の採取法、保存・移送法について理解する
2回目	看護師の役割 (目的①)感染防止対策、看護師が実施・指導する検査、生体検査とその介助、結果の取り扱いについて実施できる(演習)
3回目	化学検査 (目的②)血清蛋白質・血清酵素・糖代謝・脂質代謝検査について理解する
4回目	化学検査 (目的②)胆汁・窒素化合物・骨代謝・腎機能検査、電解質・血液ガス・鉄代謝・銅代謝・ビタミン・薬物濃度検査について理解する
5回目	免疫・血清学的検査 (目的②)炎症・抗体検査、アレルギー・妊娠・腫瘍マーカー・輸血について理解する
6回目	病理学的検査 (目的②)細胞診と病理組織について学ぶ
7回目	一般検査 (目的②)尿・便・体腔内貯留・脳脊髄液・関節液・消化液について理解する
8回目	血液学的検査 (目的②)血沈・血球・出血凝固・溶血性貧血・骨髄検査について理解する
9回目	微生物学的検査 (目的②)感染症の診断、各種感染症と検査について理解する
10回目	微生物学的検査 (目的②)各種病原体と検査について理解する
11回目	内分泌学的検査 (目的②)下垂体前葉・下垂体後葉・甲状腺・副甲状腺ホルモンの検査について理解する
12回目	内分泌学的検査 (目的②)副腎皮質・副腎髄質・性腺・腺腫・消化管・その他のホルモン検査について理解する
13回目	生体検査 (目的②)生理機能検査について学ぶ
14回目	生体検査 (目的②)生理機能検査について学ぶ
15回目	生体検査 (目的②)画像検査について学ぶ
準備学習 時間外学習	専門用語が多いので、事前にわからない言葉調べておく授業中の理解が進みます。わからないことはそのまませず、その都度質問するようにこころがけましょう。
評価方法	筆記試験(100%)
受講生への メッセージ	病気を理解するうえで臨床検査の知識は必要です。検査データと人間の身体の異常がどのように関連しているのか一緒に学びましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 <教科書> 系統看護学講座 別巻 臨床検査《医学書院》	

2024年度 授業概要

学 科 : 看護科

科目名 (英)	病理学 Pathology	必修 選択	必修	年次	1	担当教員 実務経験	松尾 拡 ○
コース		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	開講区分 曜日・時限	後期 月1・2

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

病理学では、なぜ身体に不調が起こるのかその原因を考え、それらが実際の患者さんに具体的にどのように現れるのかを系統的に学ぶ。

松尾拡…歯科医師として35年の実績があり、九州大学を経て、現在九州歯科大学で病理学研究実績がある

【到達目標】

病気の原因の解明、発生機序と人体への影響、組織の構造変化について説明できる

< 具体的目標 >

目標①病気の原因について説明できる

目標②病気の成り立ちから先天異常・代謝異常・循環障害・炎症・腫瘍について説明できる

目標③身体内での病的変化の成り立ちについて説明できる

授業計画・内容

1回目	病理学で学ぶこと・看護と病理学 (目標①) 病気の原因、つまり病因としてどのようなものがあるのか説明できる
2回目	病気の原因 (目標①) 病気の内因と外因にはどのようなものがあるのか説明できる
3回目	細胞・組織の損傷と適応 (目標②) 細胞・組織の損傷とその原因について説明できる
4回目	細胞・組織の損傷に対する反応としての炎症 (目標②) 炎症の原因と症状について説明することができる
5回目	免疫と免疫不全 (目標②) 先天性免疫反応としての免疫、免疫反応について説明できる
6回目	アレルギーと自己免疫疾患 (目標②) アレルギー反応の原因症状と自己免疫疾患について説明できる
7回目	感染症 (目標②) 感染症の原因となる病原体に特徴や宿主の感染防御機構について、また代表的な感染症とその治療法と予防について説明できる
8回目	循環障害 (目標②) 血管神経としての動脈硬化症がどのような病変であるのか、病変の形成過程を学習する。心疾患としては定義と病態について説明できる
9回目	代謝障害 (目標②) 各病変について説明できる
10回目	老化と死 (目標②) ヒトの老化と死について学び、尊厳死や緩和医療・緩和ケアなどの終末期医療の問題について考えることができる
11回目	先天異常と遺伝子異常 (目標②) 遺伝に関する基本的知識を確認した上で、先天異常・遺伝子異常とはどのようなものか、どのような原因で生じるか説明できる
12回目	腫瘍の定義と分類 (目標②) 腫瘍とは何か、がん種と肉腫の違いは何か、悪性腫瘍と良性腫瘍の違いは何か、などについて、正確に説明できる
13回目	腫瘍発生の病理 (目標③) 腫瘍の発生機序について説明できる
14回目	生活習慣による生体の障害 (目標③) 生活習慣による生体への影響について説明できる
15回目	放射線による生体の障害 (目標③) 放射線による生体への影響について説明できる

準備学習
時間外学習 専門用語が多いので、事前にわからない言葉を調べておく授業中の理解が進みます。わからないことはそのまませず、その都度質問するようにこころがけましょう。

評価方法 筆記試験(100%)

受講生への
メッセージ 病理学、疾病論(症状・徴候)について関連付けて考えていくと理解しやすいと思います。専門用語など難解ですが、一緒に学びましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

< 教科書 >

系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進① 病理学

< 参考図書 >

ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち① 病態生理学 : 山内 豊明 <メディカ出版>

2024年度 授業概要

学 科 : 看護科

科目名 (英)	疾病治療論Ⅰ (脳・神経・運動器)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	※1 勝田 仁(8) ※2松井 元(7)
	Disease Treatment Ⅰ	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30	実務経験	※2〇
コース					1	開講区分	後期
						曜日・時限	※1.火2 ※2.金4

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

脳・神経系や循環機能の障害は直接死に直結する可能性のあるものです。脳・神経系では障害される部位により症状の発現は異なり、疾患や障害の機序によって起こり得る障害を予測し観察を行っていくことは看護にとっても重要です。
運動機能は人の生活に深くかわり、「立つ」「歩く」「つかむ」といった基本動作から趣味、仕事など自己実現のための活動にまで深くかかわっている。これらの幅広い分野を系統的に分類し、それぞれの特徴から病態生理・症状など疾患理解につなげることで看護に必要なアセスメント能力を養います。

※1勝田仁…23年の内科医として実務経験があり、大学病院医学部にて教授として教育・指導に携わる
※2松井元…20年以上の整形外科師としての実績がある

【到達目標】

脳・神経系、運動器系疾患に関する病態生理・症状・検査を理解し、アセスメントできる基礎的知識を修得する

<具体的目標>

- 目標①脳・神経系疾患の身体的アセスメントができる
- 目標②運動器系疾患の身体的アセスメントができる

授業計画・内容

1回目	脳・神経の構造と機能、脳・神経の異常でみられる症状 (目標①)脳・神経系の解剖整理を理解したうえで、異常時の症状について説明できる
2回目	脳・神経疾患の検査、脳・神経疾患の主な治療 (目標①)脳・神経疾患の検査と治療について説明できる
3回目	脳血管障害・脳腫瘍 (目標①)脳血管障害・脳腫瘍とはどのような状態かを簡単に説明できる
4回目	頭部外傷・水頭症 (目標①)頭部外傷・水頭症により発生する機能障害を説明できる
5回目	感染性疾患、脊髄・脊髄疾患 (目標①)中枢神経系の感染性および脊髄・脊髄の損傷による機能障害を簡単に説明できる
6回目	神経変性疾患、不随意運動、認知症 (目標①)神経変性疾患および免疫性神経疾患の概念・定義・原因について説明できる
7回目	末梢神経疾患、脱髄性疾患 (目標①)末梢神経疾患と脱髄性疾患の病態生理について説明できる
8回目	筋疾患、てんかん (目標①)筋疾患とてんかんの病態生理について説明できる
9回目	運動器の機能・運動器の異常でみられる症状(P.16～38) (目標②)運動器の解剖整理を理解したうえで、運動器の異常にみられる症状について説明できる
10回目	整形外科で行われる検査(P.39～76) (目標②)運動機能に必要な検査について説明できる
11回目	運動器疾患の主な治療・処置(P.77～105) (目標②)大腿骨頸部骨折の治療方法を説明できる
12回目	運動器の疾患(P.106～117) (目標②)骨折、脱臼、靭帯損傷、その他の外傷について説明できる
13回目	運動器の疾患(P.118～232) (目標②)骨粗鬆症、関節炎、腱鞘炎、変形性関節症、大腿骨頭壊死について説明できる
14回目	運動器の疾患(P.233～278) (目標②)脊椎変性疾患、脊・軟部腫瘍、コンパートメント症候群について説明できる
15回目	運動器の疾患(P.279～302) (目標②)筋疾患、末梢神経麻痺、その他の疾患について説明できる

準備学習
時間外学習
前提: 疾患理解には解剖生理の理解が必要となります。「形態機能学」で学んだ内容について復習を行い授業に臨むこと。
ここで学んだ内容が看護を学ぶ際に重要となってきますので復習を十分に行うようにしてください。

評価方法
筆記試験(100%)
※1(50%)
※2(50%)

受講生への
メッセージ
看護は疾患理解が何より重要です。看護の対象がどのような疾患を持ち、どのような治療を受けているか、どのような全身状態なのかなど把握して列ねてその人に必要な看護が提供することができます。看護の対象に喜んでもらえる看護の実践者になるために病態理解・疾患理解を十分に進めていってください。
体調管理には気を付けて欠席しないようにして下さい。

【使用教科書・教材・参考書】

<教科書>

- ナーシング・グラフィカEX 疾患と看護(脳・神経: 永廣信治、田村綾子 《メディア出版》
- ナーシング・グラフィカEX 疾患と看護(②) 運動器: 萩野浩、山本恵子 《メディア出版》

<参考図書>

2024年度 授業概要

学 科 : 看護科

科目名 (英)	疾病治療論Ⅱ (血液・造血器・循環器)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	松本 澄久
	Disease Treatment II	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
コース						開講区分	後期
						曜日・時限	水・1・2

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

血液は酸素や二酸化炭素の運搬、免疫などが生きていくのに重要な役割を担っている。血液・造血器の障害とは、これらの役割に異常をきたす疾患である。また、循環器の障害は頻度も多く、治療等による合併症も出やすいためどの分野で働く看護師であっても十分な知識が求められます。これらの幅広い分野を系統的に分類し、それぞれの特徴から病態生理・症状など疾患理解につなげることで看護に必要なアセスメント能力を養います。

松本澄久…自衛隊病院において29年間歯科医師としての実績がある

【到達目標】

血液・造血器系、循環器系に関する病態生理・症状・検査を理解し、アセスメントができる基礎的知識を修得する

<具体的目標>

- 目標①血液・造血器疾患系の身体的アセスメントができる
- 目標②循環器系疾患の身体的アセスメントができる

授業計画・内容

1回目	血液の組成と機能 (P.16~17) (目標①)血液の各成分の働きについて説明できる
2回目	血液・造血器の異常で見られる症状 (P.18~41) (目標①)貧血、発熱、リンパ節腫脹、易感染症、出血傾向、骨痛について説明できる
3回目	血液・造血器の異常で行われる検査 (P.42~53) (目標①)末梢血検査、骨髄検査、出血傾向の検査、リンパ節検査について説明できる
4回目	血液・造血器疾患の治療・処置 (P.54~91) (目標①)化学療法、造血器腫瘍の治療に対する支持療法、放射線療法、輸血、造血幹細胞移植、造血器腫瘍以外の血液疾患に対する治療について説明できる
5回目	血液・造血器の疾患(貧血) (P.92~105) (目標①)貧血の種類と特徴について説明できる
6回目	血液・造血器の疾患(出血傾向) (P.106~124) (目標①)出血傾向の種類と特徴について説明できる
7回目	血液・造血器の疾患(血液異常) (P.125~145) (目標①)白血病の種類と特徴について説明できる
8回目	血液・造血器の疾患(リンパ腫) (P.126~155) (目標①)リンパ腫の種類と特徴について説明できる
9回目	循環器の構造と機能、循環器機能の異常とそこから引き起こされる症状 (目標②)循環器の構造と機能について想起し、循環器機能の異常と症状について説明できる
10回目	循環器系の検査、循環器疾患の主な治療 (目標②)循環器疾患の検査と治療について説明できる
11回目	心不全、血圧異常 (目標②)心不全と血圧異常の病態生理について説明できる
12回目	アテローム性動脈硬化症、冠血流障害(虚血性心疾患) (目標②)アテローム動脈硬化症と虚血性心疾患の病態生理について説明できる
13回目	刺激伝導系の障害、弁機能の障害 (目標②)刺激伝導系と弁機能障害の病態生理について説明できる
14回目	先天性の心臓の形態異常、心筋障害、心臓の異常(心膜炎) (目標②)先天性心疾患と心膜炎の病態生理について説明できる
15回目	血管の器質異常、循環器以外の原疾患による循環器系の障害及び心不全 (目標②)血管の異常と循環器系以外の原疾患の病態とメカニズムについて説明できる
準備学習 時間外学習	前提: 疾患理解には解剖生理の理解が必要となります。「形態機能学」で学んだ内容について復習を行い授業に臨むこと。 ここで学んだ内容が看護を学ぶ際に重要となりますので復習を十分に行うようにしてください。
評価方法	筆記試験(100%)
受講生への メッセージ	看護は疾患理解が何より重要です。看護の対象がどのような疾患を持ち、どのような治療を受けているか、どのような全身状態なのかなど把握して初めてその人に必要な看護が提供することができます。看護の対象に喜んでもらえる看護の実践者になるために病態理解・疾患理解を十分に進めていってください。 体調管理には気を付けて欠席しないようにして下さい。
【使用教科書・教材・参考書】	
<教科書> ナーシング・グラフィック EX 疾患と看護① 血液/アレルギー/膠原病/感染症 岡久野久幸 《メディカ出版》 ナーシング・グラフィック EX 疾患と看護② 循環器 野原隆司 三浦英恵、岡田彩子、山内英樹 《メディカ出版》	
<参考図書>	

2024年度 授業概要

学 科 : 看護科

科目名 (英)	疾病治療論IV (腎・泌尿器・消化器・乳腺)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	※1 河野 啓助(5) ※2 井上 裕(10)
	Disease Treatment IV	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	実務経験	※1○ ※2○
コース						開講区分	後期
						曜日・時限	※1木・2 ※2木・1

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

腎・泌尿器の障害や乳腺の障害は身体的な苦痛だけでなく精神的・社会的な側面での苦痛も大きく伴います。そのため、看護師には幅広い疾患理解が必要になります。また、人体は消化・吸収・合成・分解を繰り返すことで生命維持や成長に必要なエネルギーを産生・蓄積しますが、多くの器官でそれぞれの役割を担っているため、消化器の障害は多種多様になります。

これらの幅広い分野を系統的に分類し、それぞれの特徴から病態生理・症状など疾患理解につなげることで看護に必要なアセスメント能力を養います。

※1河野啓助…大学病院および地域の病院において、腎臓専門医として20年以上の実績があり、現在に至る

※2井上裕…大学病院および総合病院で外科医師として30年以上の実務経験がある

【到達目標】

腎・泌尿器系、消化器系および乳腺に関する病態生理・症状・検査を理解しアセスメントができる基礎的知識を修得する

< 具体的目標 >

目標①腎・泌尿器系疾患の身体的アセスメントができる

目標②消化器系疾患の身体的アセスメントができる

目標③乳腺疾患の身体的アセスメントができる

授業計画・内容

1回目	腎疾患を学ぶための基礎知識 (目標①)腎臓機能を理解したうえで、関連する症状・検査について説明できる
2回目	腎臓の疾患(腎不全、原発性糸球体疾患高血圧及び腎血管障害) (目標①)急性腎不全の分類と特徴、慢性腎臓病の特徴と症状について簡潔に説明できる
3回目	腎臓の疾患(尿管・間質性疾患、全身性疾患に伴う腎障害、囊胞性腎障害) (目標①)腎機能障害に関連した尿の異常について説明できる
4回目	泌尿器疾患を学ぶための基礎知識 (目標①)尿路の機能障害がどのような状態であるかを理解できる
5回目	泌尿器の疾患 (目標①)尿路の機能障害を起す原因・疾患と治療を知る
6回目	消化器の構造と機能 (目標②)消化器疾患における症状・徴候の特徴と、その病態生理について学ぶ 各症状・徴候と臓器の疾患との関連について理解する
7回目	消化器の検査と看護 (目標②)消化器疾患の診察と診断の方法について理解する 各種の検査の意義・目的・実施法(手技)・適応疾患について理解を深める 治療・処置の基本的な考え方を踏まえ、各種治療法の概要と適応疾患について学ぶ
8回目	疾患の理解 (目標②)食道の疾患・胃・十二指腸疾患について理解を深める
9回目	疾患の理解 (目標②)小腸・大腸・腸肛門疾患の疾患について理解を深める
10回目	疾患の理解 (目標②)肝臓・胆嚢の疾患について理解を深める
11回目	疾患の理解 (目標②)膵臓の疾患について説明できる
12回目	疾患の理解 (目標②)腹腔・腹壁・横隔膜の疾患について理解を深める
13回目	(目標③)乳房の症候について説明できる 乳腺科で行われる診察・検査について説明できる
14回目	(目標③)乳腺科で行われる主な治療・処置について説明できる
15回目	(目標③)乳腺の疾患について説明できる
準備学習 時間外学習	前提:疾患理解には解剖生理の理解が必要となります。「形態機能学」で学んだ内容について復習を行い授業に臨むこと。 ここで学んだ内容が看護を学ぶ際に重要となってくるので復習を十分に行うようにしてください。
評価方法	筆記試験(100%) ※1(30%) ※2(70%)
受講生への メッセージ	看護は疾患理解が何より重要です。看護の対象がどのような疾患を持ち、どのような治療を受けているか、どのような全身状態なのかなど把握して初めてその人に必要な看護が提供することができます。看護の対象に喜んでもらえる看護の実践者になるために病態理解・疾患理解を十分に進めていってください。 体調管理には気を付けて欠席しないようにして下さい。
【使用教科書・教材・参考書】	
< 教科書 > ナーシング・グラフィカEX 疾患と看護⑧ 腎・泌尿器/内分泌・代謝: 繪本正憲、西山博之、習田明裕、田中純子 《メディカ出版》 ナーシング・グラフィカEX 疾患と看護⑨ 消化器: 三原弘、明石恵子、土肥直樹、佐藤正美、稲森正彦 《メディカ出版》 ナーシング・グラフィカEX 疾患と看護⑩ 女性生殖系: 松浦幸恵、東敬次郎、林みずほ、小林範子、佐川正 《メディカ出版》	
< 参考図書 >	

2024年度 授業概要

学 科 : 看護科

科目名 (英)	疾病治療論Ⅴ (自己免疫・アレルギー・感覚器・感染症・口腔)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	※1 岡部 幸司(10) ※2 勝田 仁(3) ※3 松本 澄久(2)
	Disease Treatment V	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	実務経験	※1○ ※4○
コース						開講区分	後期
						曜日・時限	※1水1・2 ※2火2 ※3水1～4

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

人は異物から人体を守るための免疫機能を持っているが、障害が起きるとさまざまな健康問題が生じてきます。自己を異物と誤認識してしまう自己免疫性疾患、外部からの異物に反応するアレルギーや、治療によって生じるアレルギーなどがあります。また、新たな感染症患者数も増加しており、基礎疾患のある患者は重症化しやすいことから確実な知識が求められます。これらの幅広い分野を系統的に分類し、それぞれの特徴から病態生理・症状など疾患理解につなげることで看護に必要なアセスメント能力を養います。

※1岡部幸司…歯科医師としての実務経験があり、福岡歯科大学にて20年以上の教育・指導経験と10年の教授としての実績がある
 ※2勝田仁…23年の内科医として実務経験があり、大学病院医学部にて教授として教育・指導に携わる
 ※3松本澄久…自衛隊病院において29年間歯科医師としての実績がある

授業計画・内容	
1回目	免疫にかかわる細胞・機関とそれらの機能 (目標①) 代表的な自己免疫疾患が発生するメカニズムについて理解し、簡潔に説明できる
2回目	免疫機能の異常でみられる症状 (目標①) 免疫機能以上に関する症状について説明できる
3回目	免疫機能の異常で行われる検査 (目標①) 免疫機能以上に関する検査について説明できる
4回目	免疫機能の異常の治療・処置 (目標①) 免疫機能の異常に関する治療・処置について説明できる
5回目	アレルギー(花粉症、アトピー、食物アレルギー) (目標②) 花粉症、アトピー、食物アレルギーのメカニズムについて説明できる
6回目	アレルギー(薬物アレルギー、接触性皮膚炎、蕁麻疹、アナフィラキシー) (目標①) 薬物アレルギー、接触性皮膚炎、蕁麻疹、アナフィラキシーのメカニズムについて説明できる
7回目	自己免疫疾患(膠原病) (目標②) 全身性疾患、RA、成人スチル病、SLE、抗リン脂質抗体症候群、シェーグレン症候群、血管炎症候群、ベーチェット病のメカニズムについて説明できる
8回目	目の疾患を学ぶための基礎知識と疾患の種類 (目標③) 視覚の機能と障害を簡単に説明できる
9回目	耳鼻咽喉の疾患を学ぶための基礎知識と主な疾患 (目標③) 嗅覚と平衡覚の構造と障害を簡単に説明できる
10回目	皮膚の疾患を学ぶための基礎知識と主な疾患 (目標③) 体性感覚を持つ皮膚の構造と障害を簡単に説明できる
11回目	感染症を学ぶための基礎知識 (目標②) 感染症によって起こる主な疾患について、症状、診断、治療を理解する
12回目	感染症の種類とその病態 (目標③) 主な感染症について説明できる
13回目	感染症の種類とその病態 (目標③) 主な感染症について説明できる
14回目	菌・口腔の疾患を学ぶための基礎知識 (目標④) 口内炎の種類と億丁を理解する、また歯科疾患の病態と治療を理解する
15回目	菌・口腔の疾患 (目標④) 舌癌、咽頭痛、喉頭痛、上顎癌、下顎癌の病態と治療を理解する
準備学習 時間外学習	前提: 疾患理解には解剖生理の理解が必要となります。「形態機能学」で学んだ内容について復習を行い授業に臨むこと。 ここで学んだ内容が看護を学ぶ際に重要となってくるので復習を十分に行うようにしてください。
評価方法	筆記試験(100%) ※1(60%) ※2(20%) ※3(20%)
受講生への メッセージ	看護は疾患理解が何より重要です。看護の対象がどのような疾患を持ち、どのような治療を受けているか、どのような全身状態なのかなど把握して初めてその人に必要な看護が提供することができます。看護の対象に喜んでもらえる看護の実践者になるために病態理解・疾患理解を十分に進めていってください。 体調管理には気を付けて欠席しないようにして下さい。

【使用教科書・教材・参考書】

<教科書>
 ナーシング・グラフィカEX 疾病と看護④ 血液/アレルギー・膠原病/感染症: 薊隆文、矢野久子 《メディカ出版》
 ナーシング・グラフィカEX 疾患と看護⑥ 眼/耳鼻咽喉/歯・口腔/皮膚: 永井由己、中西健史、東野正明、池田清子、中島正博、畑中あかね、大西祐一 《メディカ出版》

<参考図書>
 ナーシング・グラフィカ 健康の回復と看護⑦ 疾病と治療: 林正 健二、山内 豊明 《メディカ出版》

2024年度 授業概要

学 科 : 看護科

科目名 (英)	疾病治療論VI (リハビリテーション) Disease Treatment VI	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	堤 文生
	コース	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	15 1	実務経験	〇
						開講区分	後期
						曜日・時限	金3～4

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

リハビリテーションは対象者の生活の質を維持・向上することを目的として行われるものであり、看護の本質とも言える学問ならびに技術です。対象のリハビリテーションは継続して行われることが重要であり、看護師やリハビリ部門との協力が欠かせないものです。

リハビリテーションについて基礎から実践的な内容へと段階を追って授業を行うことで、看護師としてのリハビリテーションの知識・技術を養います。

堤 文生…理学療法士として8年間の実績がある.H11年より多くの著書・論文執筆を行い、H17年より、いくつかの非常勤講師として基礎統計学の教育に携わっている

【到達目標】

リハビリテーションの概念と技術を理解する

<具体的目標>

目標①リハビリテーションの概念と看護の位置づけが理解できる

目標②看護の対象となる人の自立に向けた、リハビリテーション技術の実際が理解できる

授業計画・内容

1回目	(目標①)リハビリテーションの定義と理念、分野、医療システムについて説明できる (目標①)障害の分類や構造について説明できる
2回目	(目標②)機能障害の評価方法について説明できる
3回目	(目標②)日常生活動作(ADL)、QOLについて説明できる
4回目	(目標②)福祉用具や自助具について説明できる
5回目	(目標②)中枢神経系障害におけるリハビリテーションについて説明できる
6回目	(目標②)骨・関節系障害におけるリハビリテーションについて説明できる
7回目	(目標②)高齢者疾患におけるリハビリテーションについて説明できる
8回目	(目標②)実技指導(起居・移乗・移動)、杖や車いすでの活用について説明できる

準備学習
時間外学習 前提:疾患理解には解剖生理の理解が必要となります。「形態機能学」で学んだ内容について復習を行い授業に臨むこと。
ここで学んだ内容が看護を学ぶ際に重要となってきますので復習を十分に行うようにしてください。

評価方法 筆記試験(100%)

受講生への
メッセージ 看護は疾患理解が何より重要です。看護の対象がどのような疾患を持ち、どのような治療を受けているか、どのような全身状態なのかなど把握して初めてその人に必要な看護が提供することができます。看護の対象に喜んでもらえる看護の実践者になるために病態理解・疾患理解を十分に進めていってください。
体調管理には気を付けて欠席しないようにして下さい。

【使用教科書・教材・参考書】

<教材>
講師準備

<参考図書>

ナーシング・グラフィカ 成人看護学⑤ リハビリテーション看護 : 奥宮 暁子 <メディカ出版>

リハビリテーション ビジュアルブック : 落合 慈之、稲川 利光 <学研プラス>

2024年度 授業概要

学 科 : 看護科

科目名 (英)	薬理学	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	野田 百美
	Clinical pharmacology	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15	実務経験	○
コース					1	開講区分	後期
						曜日・時限	月4限

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

臨床薬理学では疾患に関する理解のうえに治療に用いる薬を理解する必要がある。「難しそう」なイメージである薬理学であるが、薬の作用についてただ覚えるだけでなく、薬が疾患の治療に用いられる理由を理解し、投与前の準備から投与後の経過観察までの一連のプロセスにおける薬の適正使用に関する考え方を身につけることを目指す。

※野田百美…大学病院にて実務経験があり、大学院薬学研究院にて准教授として15年以上の実績があり

【到達目標】

薬物の特徴、作用機序、人体への影響および薬物の管理について説明できる

<具体的目標>

- 目標①医薬品の概要について説明できる
- 目標②主な疾患(生活習慣病、がん・痛み)に使用する薬について説明できる
- 目標③主な疾患(脳・中枢神経系疾患、感染症)に使用する薬について説明できる
- 目標④主な疾患(救命救急時、アレルギー・免疫不全状態、消化器系疾患、その他)に使用する薬について説明できる

授業計画・内容

1回目	医薬品 (目標①) 医薬品の分類と関連する法律を理解する 医薬品の作用原理とその影響・医薬品の適正な使用に向けて (目標①) 医薬品が作用する原理と作用に影響を与える要因を理解する、また医薬品を適正かつ安全に使用するための注意事項を理解する
2回目	感染症に使用する薬 (目標②) 各薬剤の服薬指導(服薬方法、服薬上の注意点の説明など)ができる 免疫疾患・アレルギー・炎症に使用する薬 (目標②) 各薬剤の服薬指導(服薬方法、服薬上の注意点の説明など)ができる
3回目	がんを使用する薬 (目標②) 抗がん薬で治療可能ながんを理解できる がん性疼痛に使用する薬 (目標②) 抗がん薬の有害作用とその対策を理解する
4回目	末梢神経系に使用する薬 (目標③) 末梢神経系と神経伝導物質について理解する 中枢神経系に用いる薬(向精神薬) (目標③) 脳・中枢神経系と神経伝導物質について理解する
5回目	循環器疾患に使用する薬 (目標③) 循環器疾患の作用機序と使用法を理解する 血液・造血器疾患に使用する薬 (目標③) 血液・造血器疾患の作用機序と使用法を理解する
6回目	代謝・内分泌疾患に使用する薬 (目標④) 代謝・内分泌疾患の作用機序と使用法を理解する 呼吸器疾患に使用する薬 (目標④) 呼吸器疾患の作用機序と使用法を理解する
7回目	消化器疾患に使用する薬 (目標④) 消化器疾患の作用機序と使用法を理解する 泌尿器・生殖器系疾患に使用する薬 (目標④) 泌尿器・生殖器系疾患の作用機序と使用法を理解する
8回目	感覚器疾患に使用する薬 (目標④) 感覚器疾患の作用機序と使用法を理解する 周産期・救命救急時に使用する薬 (目標④) 周産期・救命救急時の作用機序と使用法を理解する
準備学習 時間外学習	症状や疾患について疾病治療論の復習をしておきましょう。
評価方法	筆記試験(100%)
受講生への メッセージ	講義の中でわからなかったことは、そのままにせず質問してください。解剖や疾患と薬理は密接に関係していますので、関連付けて学習しましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

<教科書>

ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち② 臨床薬理学 : 古川 裕之、赤瀬 智子、林正 健二、大西 弘高 《メディカ出版》
イメージできる 臨床薬理学 《メディカ出版》

2024年度 授業概要

学 科 : 看護科

科目名 (英)	栄養学	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	荒川 優子
	Clinical Nutrition	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30	実務経験	○
コース					1	開講区分	後期
						曜日・時限	月1~2

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

食に関する情報が氾濫する中で、医療従事者には、正しい知識を持ち、何が健康のために本当に良いのかを判断する能力が求められている。そのためには栄養学の基礎を修得する必要がある。栄養学では、基礎知識、健康の維持・増進、健康の回復と対象に合わせて栄養がどのように関わっているのかについて学習する。荒川優子…管理栄養士としての実務経験があり、大学の非常勤講師の実績がある

【到達目標】

健康と食事との関連および食事療法について理解し、看護の対象となる人への健康の維持・増進に役立つ能力を身につける

<具体的目標>

- 目標①臨床栄養学の基礎知識について説明できる
- 目標②食品成分と食事摂取基準について説明できる
- 目標③日常生活と栄養について説明できる
- 目標④療養生活と栄養について説明できる
- 目標⑤疾患別の食事療法について説明できる
- 目標⑥食事療法の実際について説明できる

授業計画・内容

1回目	臨床栄養学の基礎知識 (目標①)臨床栄養学の意義と看護について説明できる (目標①)栄養アセスメントについて説明できる
2回目	食品成分と食事摂取基準 (目標②)食品成分表の見方と食品群を説明できる (目標②)食事摂取量基準の考え方とエネルギーの計算方法を説明できる
3回目	食文化 (目標③)食文化の形成過程について説明できる
4回目	運動と栄養 (目標③)スポーツ時における望ましい栄養補給について説明できる
5回目	人生各気における健康生活と栄養 (目標③)人生各期における食事摂取基準の特徴について説明できる
6回目	検査のための食事 (目標④)検査食の目的と制限される理由を説明できる
7回目	治療による回復を促すための食事 (目標④)手術前・手術後の栄養サポートについて説明できる
8回目	栄養成分別のコントロール食 (目標④)成分栄養管理の利点を説明できる
9回目	嚥下障害のある人のための食事 (目標④)摂取・嚥下障害のある人に対する、安全で栄養バランスの良い食事について説明できる
10回目	経口摂取できない患者のための栄養管理 (目標⑤)「経管栄養法」「中心静脈栄養法」の実施方法やその管理、留意事項を説明できる
11回目	消化器系疾患の食事療法 (目標⑤)消化器系の疾患(急性膵炎、急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、脂肪肝、胆石症、胆嚢炎)を治療するための食事、栄養基準と、各疾患への対応について説明できる
12回目	内分泌・代謝疾患の食事療法 (目標⑤)内分泌・代謝疾患(肥満症、糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症)を治療するための食事、栄養基準と、各疾患への対応について説明できる
13回目	循環器系疾患の食事療法 (目標⑤)循環器系疾患(高血圧症、動脈硬化症、うっ血性心不全)を治療するための食事、栄養基準と、各疾患への対応について説明できる
14回目	腎疾患の食事療法 (目標⑤)腎疾患(急性腎炎症候群、慢性腎臓病)を治療するための食事、栄養基準と、各疾患への対応について説明できる
15回目	食事指導の実際 (目標⑥)健康増進のための食事療法について説明できる (目標⑥)食習慣改善のための食事指導について説明できる

準備学習
時間外学習 症状や疾患について疾病治療論の復習をしておきましょう。

評価方法 筆記試験(100%)

受講生へのメッセージ 講義の中でわからなかったことは、そのままにせず質問してください。人体の構造や疾病と栄養学は密接に関係していますので、講義中関連付けて学習しましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

<教科書>

ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち④ 臨床栄養学 : 関戸 啓子 《メディカ出版》

2024年度 授業概要

学 科 : 看護科

科目名 (英)	公衆衛生	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	掛札博士
	Public Health	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15	実務経験	○
コース					1	開講区分	後期
						曜日・時限	木4

【授業の学習内容】 (※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

集団地域における健康の保持・増進のための組織的な保健活動について理解する

【到達目標】

- 1.公衆衛生としてのヘルスプロモーションを学ぶ
- 2.地域での総合的な健康づくりを推進する方法論を学び、実践できる

<具体的目標>

- 目標①公衆衛生の歴史やシステムを理解する
- 目標②疫学や保健統計の基礎と、それらを実際にどう活用するかを知り、将来の臨床の場での研究に役立てる
- 目標③公衆衛生活動や環境保健分野を知り、社会の視点から健康問題を見る

授業計画・内容

1回目	公衆衛生の歴史・現在の公衆衛生システムと政策 (目標①)日本の近・現代史を概観しながら、公衆衛生の改善のあゆみを押さえる
2回目	公衆衛生の理念・概念・公衆衛生の物差し (目標①)経済学から見た公衆衛生と地域保健サービスの公的責任や公的供給の在り方を考察する (目標②)疫学を理解し調査研究に応用できる
3回目	公衆衛生の活動プロセス・子どもの保健 (目標②)保健活動において固から地域へ広げる活動の特徴を理解する (目標③)子ども・親に関する様々な施策の概要をとらえる
4回目	高齢者・成人の健康づくり (目標③)我が国の高齢者保険の考え方を理解する、また成人保健対策の目的と現状を捉える
5回目	歯科保健・精神 (目標③)齲歯と歯周疾患の特徴と有病状況を押さえる、また我が国の精神科医療と現状を押さえる
6回目	難病・健康危機管理と災害 (目標③)療養者を支える制度・システムを捉える、また健康危機管理の重要性を認識し、保健所を中心とした危機管理体制とその役割を押さえる
7回目	感染症・学校保健 (目標③)感染症法や予防接種法など、感染症対策に関する法令の概要を押さえる、また学校保健における養護教諭の役割を押さえる
8回目	産業保健・環境保健 (目標③)産業保健の目的を理解し、その特徴を知る、また環境保健に対する様々な切り口を捉える

準備学習 時間外学習

自己が生まれ育った地域、また現在生活している地域の保健活動について行政のHPをしらべ具体的な活動について事前に調べておいてください

評価方法

筆記試験(100%)

受講生への メッセージ

これまでに学習した科目と関連させながら学んでください

<教科書>

ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障② 公衆衛生 : 平野 かよ子、曾根 智史、守田 孝恵、山田 和子 《メディカ出版》

2024年度 授業概要

学 科 : 看護科

科目名 (英)	総合医療論 Nursing Treatments and Ethics	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	※1.松本 澄久(4) ※2.明石 征二(4)
コース		授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 1	実務経験	※1.○ ※2.○
						開講区分	後期
						曜日・時限	※1火1 ※2未定

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

最先端医療に内包される様々な試みが、人間の生活や命に対する価値観への影響について考察することができる

- ※1…歯科医師として30年以上の実務経験がある
- ※2…看護師として20年以上の実務経験がある

【到達目標】

- 1.医学の発達、医療の体系と機能を理解する
- 2.医療がどのような社会的役割を担っているのかを理解する
- 3.生命の尊厳、生命の平等について深く考え、生命に対する価値観や倫理観を養う

<具体的目標>

- 目標①生命科学の進展により、新たに登場した技術と人間性の調和を考える
- 目標②看護倫理に関する基本的知識と倫理的意思決定を行うための枠組みを習得する

授業計画・内容

1回目	医療の歩みと医療観の変遷 (目標①)ヒポクラテスの誓いには、医療者の職業倫理としてどのような内容が含まれているか説明できる
2回目	科学技術の進歩と現代医療の最前線 (目標①)我が国の臓器移植において、実用化されている臓器にはどのようなものがあるか。また、そのうち脳死者からの提供が必要なものはどれか説明できる
3回目	現代医療の新たな課題 (目標①)生命科学の進展により、新たに登場した技術と人間性の調和を考える
4回目	医療を見つめなおす新しい視点、保健・医療・福祉の潮流 (目標①)医療チームを構成する職種には、どのような人々がいるのか。具体的な役割と合わせて説明できる
5回目	医療の原点と看護の原点-病と癒し (目標②)生と死について説明するk十が出来る
6回目	私たちの生活と健康 (目標②)医学の歴史と科学的根拠に基づいた医療の提供について説明できる
7回目	臓器移植と生命倫理 (目標②)新たな診断法や治療法の発展に伴う生命倫理の問題を理解する
8回目	延命治療と生命倫理 (目標②)終末期医療と尊厳死について考える
準備学習 時間外学習	看護における倫理、医療における倫理について考えをまとめてください
評価方法	筆記試験(100%)
受講生への メッセージ	看護学概論、基礎看護技術と繋げて考えてください

【使用教科書・教材・参考書】

- ※1<教科書>
系統看護学講座 専門基礎分野 総合医療論 : 小泉 俊三 <医学書院>
- ※2<教科書>
系統看護学講座 専門基礎分野 医療概論 : 康永 秀生 <医学書院>

2024年度 授業概要

学 科 : 看護科

科目名 (英)	看護学概論 Introduction to Nursing	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	明石 征二
		授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
コース						開講区分	後期
						曜日・時限	月・4

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

看護の本質を学び、看護の概念を理解することで、自己の看護観を育み深めることができる
看護専門職者としての素養を身に付けることができる

明石征二…看護師として20年以上の実績がある

【到達目標】

- 1.看護の定義と本質について学び、看護の概念を理解する
- 2.保健・医療・福祉チームの中の看護の役割及び看護活動の概要を理解できる
- 3.看護の対象となる人を理解し、看護専門職者としての看護の在り方、責任について考えることができる

<具体的目標>

- 目標①フロレンス・ナイチンゲールの看護覚書について説明できる
- 目標②保助看法について説明できる
- 目標③自己の看護観を述べる事ができる

授業計画・内容

1回目	看護の始まり (目標①)看護はいつ、なぜ、どのように誕生したのか？(ナイチンゲールの生涯から、看護がどのように生まれ、発展していったのか、ナイチンゲール前後の歴史と関連させて変遷をまとめる)
2回目	看護教育制度 (目標①)ナイチンゲールはなぜ、職業として看護師を養成したのか(専門職として看護教育制度がどのように生まれたのか、社会状況の変化から現在の教育制度に至った理由がわかる)
3回目	看護の定義と目的 (目標①)看護とは何か？看護は何を目指すのか？(看護の定義、目的、健康の概念を明らかにできる)
4回目	業務独占・名称独占 (目標②)看護師だけでなくはならないことは？看護師であってもしてはならないことは？(保健師助産師看護師法から、看護師の業務独占、名称独占の内容と、医療行為の区分ができる)
5回目	看護の対象と看護技術 (目標③)看護の対象は人間であるということは何を意味しているのか？(人間の概念をもとに、看護技術がアートであることの意味、看護師の役割、責務を明確にし、「看護であるもの、ないもの」を明らかにできる)
6回目	看護の質 (目標③)看護の質とは何か、何が看護の質を高めるのか？どのように自分の看護を高めるのか？(看護を導く思考プロセスと看護実践の根拠、EBN、クリエイティブシンキング、リフレクションの必要性を理解する)
7回目	看護援助の要素 (目標③)何が看護に影響を与えるのか？(看護援助に影響を与える要素を明らかにできる)
8回目	看護の視点 (目標③)どのような視点を、どのように活用すれば看護実践の質を高められるのか？(パフォーマンス評価を通して、看護実践に活用できる看護の視点を明確にできる)
9回目	【演習】 パフォーマンス課題1 看護とは？ A3用紙にまとめる 発表(1人3分)
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	【演習】パフォーマンス課題1 相互評価 (ルーブリックの基準を参考にして自己評価・他者評価する)
準備学習 時間外学習	パフォーマンス課題1:発表日に欠席した場合、相互評価に参加できないため、評価の対象となりません パフォーマンス課題2:指定日の9:00までに作品の提出がない場合、評価の対象となりません(あなたが考える看護について所定のレポート用紙2枚) 再試験は筆記試験のみとなります
評価方法	パフォーマンス課題1(60%) パフォーマンス課題2(20%) 授業態度(出席・課題レポート)(20%)
受講生への メッセージ	自己の看護観を明確にしましょう

【使用教科書・教材・参考書】

<教科書>

ナーシング・グラフィカ 基礎看護学① 看護学概論 : 志自岐 康子 《メディカ出版》
フロレンス・ナイチンゲール 看護覚書—看護であること 看護でないこと 改訂第7版 (フロレンス・ナイチンゲール:湯槇ます、他 訳) 《現代社》

2024年度 授業概要

学 科 : 看護科

科目名 (英)	フィジカルアセスメント	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	富岡 晋子
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	30	実務経験	○
コース					1	開講区分	前期
						曜日・時限	未定

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

看護実践における技術の意味を理解し、看護活動の基礎となる共通基本技術を習得する

富岡晋子…看護師として20年以上の実務経験がある

【到達目標】

- 1.フィジカルアセスメントの基本技術を習得する
- 2.系統的アセスメントの正確な技術を用いて実践できる

<具体的目標>

- 目標①フィジカルアセスメントの進め方を習得する
- 目標②フィジカルイグザミネーションを習得する

授業計画・内容

1回目	(目標①)フィジカルアセスメントの意義と重要性を説明できる
2回目	基本技術 (視診・触診・打診・聴診) (目標①)必要な情報を得るために用いる技術を説明できる
3回目	呼吸器系のフィジカルアセスメントの進め方 (目標①)口からは違法までの間の空気の入りが滞りなく行われているかをアセスメントできる
4回目	呼吸器系のフィジカルアセスメントの進め方 (目標②)呼吸器系のアセスメントを正確な技術を用いて実践できる (演習:フィジカルアセスメント)
5回目	循環器系のアセスメントの進め方 (目標①)必要十分な血液が隅々まで届いているかというアウトカム(結果)を確認することができる
6回目	循環器系のアセスメントの進め方 (目標②)循環器系のアセスメントを正確な技術を用いて実践できる (演習:フィジカルアセスメント)
7回目	消化器系のフィジカルアセスメント (目標①)消化器系の機能を理解し、腹部のフィジカルアセスメントができる
8回目	消化器系のアセスメントの進め方 (目標②)消化器系のアセスメントを正確な技術を用いて実践できる (演習:フィジカルアセスメント)
9回目	運動系・中枢神経系のフィジカルアセスメント (目標②)意識状態を図ることができる
10回目	運動系・中枢系のアセスメントの進め方 (目標②)運動系・中枢系のアセスメントを正確な技術を用いて実践できる (演習:フィジカルアセスメント)
11回目	セクシャリティ(女性乳房・男性性器・女性性器のフィジカルアセスメント) (目標②)プライバシーを配慮しながらアセスメントできる
12回目	生命の危機(ショック・脳卒中・糖尿病性昏睡・間性昏睡) (目標②)緊急度・重症度を迅速に判断できる力を身につける
13回目	
14回目	系統的アセスメント (目標②)アセスメントの結果から、必要な看護を考えることができる (演習:フィジカルアセスメント)
15回目	
準備学習 時間外学習	フィジカルアセスメント:看護行為に共通する技術 I で作成したバイタルサイン測定の手順書を持参してください フィジカルアセスメントの授業は、講義と演習があります
評価方法	筆記試験100%(60点以上)とし、60点以下は再試験を実施する
受講生への メッセージ	看護実習室にて演習を行いますので、以下の内容を理解し演習に臨んでください。 1. 白衣、ナースシューズを着用する。(授業が始まる前に更衣をすませる) 2. 頭髪を整える。既定の髪色にする。ゴムは黒・紺を使用し、長髪はネットの中にきれいに整える。サイドや長い前髪はヘアピンでとめる。 3. インナー・靴下は白を着用する。つまつけ、エクステ、カラーコンタクト、ピアス、ネックレス装着は不可。 上記が守れないと、実習室での演習はできません。
【使用教科書・教材・参考書】	
<教科書>	フィジカルアセスメントガイドブック 目と耳でここまでわかる 第2版 : 山内豊明 <医学書院>

2024年度 授業概要

学科： 看護科

科目名 (英)	看護研究	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	柴田 幸治 他
	Nursing Research	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
コース						開講区分	前期
						曜日・時限	5月の3連日集中

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

看護基礎課程の最終段階として、学生ひとりひとりがこれまでの学習成果を再確認し、それらの成果を統合させる力を養い、研究過程やその成果を理解して、自分の力として実践に活かせることが必要である。本授業では看護研究の基本的知識を基に、看護を多角的視点から深く考察し論述することをめざす。

柴田幸治・・・看護師として10年以上の実績がある

【到達目標】

研究のプロセスを経て、研究論文を作成し発表することができる

<具体的目標>

- 目標①リサーチクエスチョンを明確にすることができる
- 目標②研究計画書の作成ができる
- 目標③研究計画に則って研究を進めることができる
- 目標④実施したことを論文として記述することができる
- 目標⑤研究論文を発表することができる
- 目標⑥看護を多角的視点からクリティカルに考察できる

授業計画・内容

1回目	(目標①)リサーチクエスチョンを記述できる
2回目	(目標①)リサーチクエスチョンに関わる文献検索ができる
3回目	(目標①)リサーチクエスチョンを文献を用いて記述できる
4回目	(目標②)研究計画書を作成できる
5回目	(目標③)研究計画に則って研究を進めることができる (目標④)実施したことを研究論文として記述できる
6回目	(目標③)研究計画に則って研究を進めることができる (目標④)実施したことを研究論文として記述できる
7回目	(目標③)研究計画に則って研究を進めることができる (目標④)実施したことを研究論文として記述できる
8回目	(目標③)研究計画に則って研究を進めることができる (目標④)実施したことを研究論文として記述できる
9回目	(目標⑤)他者にわかりやすいようにプレゼンテーションができる (目標⑥)他者の発表をクリティカルに考察し質問・講評ができる
10回目	(目標⑤)他者にわかりやすいようにプレゼンテーションができる (目標⑥)他者の発表をクリティカルに考察し質問・講評ができる
11回目	(目標⑤)他者にわかりやすいようにプレゼンテーションができる (目標⑥)他者の発表をクリティカルに考察し質問・講評ができる
12回目	(目標⑤)他者にわかりやすいようにプレゼンテーションができる (目標⑥)他者の発表をクリティカルに考察し質問・講評ができる
13回目	(目標⑤)他者にわかりやすいようにプレゼンテーションができる (目標⑥)他者の発表をクリティカルに考察し質問・講評ができる
14回目	(目標⑤)他者にわかりやすいようにプレゼンテーションができる (目標⑥)他者の発表をクリティカルに考察し質問・講評ができる
15回目	(目標⑤)他者にわかりやすいようにプレゼンテーションができる (目標⑥)他者の発表をクリティカルに考察し質問・講評ができる

準備学習
時間外学習 研究計画に則って各自が進捗すること。規定された回数以上の指導を担当教員より受けたいうで発表する。研究計画書1回以上、論文完成まで3回以上、抄録完成まで3回以上、発表に関する指導1回以上の指導を受けて発表した学生のみ評価の対象とするので積極的に取り組むこと。

評価方法 研究過程(50%):取り組み、態度、発表
研究内容(50%):論文

受講生への
メッセージ 看護研究には、看護のエビデンスを明らかにするいわゆる研究と、病棟の問題を解決する調査報告や実践報告などがあります。卒業研究としての看護研究は、今年度は事例検討(ケーススタディ)、質的研究、量的研究すべてのデザインを可とします。看護学生として実習や学習の集大成です。積極的に楽しく取り組みましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

配布資料

2024年度 授業概要

2024年度 授業概要

科目名 (英)	看護行為に共通する技術Ⅰ (看護技術、バイタルサイン、 記録・報告) Clinical Nursing Skills Ⅰ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	富岡 晋子
		授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
コース						開講区分	前期
						曜日・時限	
<p>【授業の学習内容】 (※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>私たちが提供する看護技術は、疾患による身体的な苦しみを少しでも軽減し、精神的なストレスを緩和し、社会的な孤立からすく上げ、安寧や安楽をもたらすものである。</p> <p>まずは、バイタルサインは、対象の状態に応じた看護ケアを行うための判断指標となるため、解剖生理学の知識を活用し、バイタルサインを正確に測定できるようになること、そして適切に記録と報告を目指す。</p> <p>富岡晋子…看護師として20年以上の実務経験がある</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>1. 看護実践における技術の意味を理解し、看護活動の基礎となる共通技術を習得する</p> <p>2. 浮腫緩和ケアの技術を習得する</p> <p><具体的な目標></p> <p>目標①看護技術とは何かについて説明ができる</p> <p>目標②生命徴候であるバイタルサインの基礎知識や測定方法を理解する</p> <p>目標③看護における記録と報告の必要性を理解し、正確な記録と報告ができる</p> <p>目標④バイタルサインの基礎的知識や測定方法を理解し、バイタルサイン測定を実践できる</p>							
授業計画・内容							
1回目	目標①看護技術とは何かについて説明ができる						
2回目	目標①バイタルサインの定義と活用について理解できる						
3回目	目標②生命徴候であるバイタルサインの測定することの意義を理解できる －意識－						
4回目	目標②生命徴候であるバイタルサインの測定することの意義を理解できる －呼吸－						
5回目	目標②生命徴候であるバイタルサインの測定することの意義を理解できる －体温－						
6回目	目標②生命徴候であるバイタルサインの測定することの意義を理解できる －脈拍－						
7回目	目標②生命徴候であるバイタルサインの測定することの意義を理解できる －血圧－						
8回目	目標②身体の正確な測定方法を習得する (演習：身体計測)						
9回目	目標③看護記録の目的と意義・構成要素と様式を理解できる						
10回目	目標③報告の意義と方法を理解できる						
11回目	目標③看護記録を実際に報告することができる						
12回目	目標④バイタルサインの基礎的知識や測定方法を理解し、バイタルサイン測定を習得する (演習)						
13回目							
14回目							
15回目	目標④バイタルサイン測定を実施し、その報告をすることができる(演習)						
準備学習 時間外学習	<p>事前にナーシング・グラフィカ基礎看護学③ 20巻 基礎看護技術 ipad 以下の内容を熟読する</p> <p>目標①1. 看護技術とは何か</p> <p>目標②4. 生命の徴候を観察する技術</p> <p>目標③9. 看護技術を展開する技術P187～</p> <p>目標④12. 生命の徴候を観察する技術</p>						
評価方法	筆記試験 (100%)						
受講生へのメッセージ	<p>演習は看護実習室にて行いますので、以下の内容を理解し臨んでください。</p> <p>1. 白衣、ナースシューズを着用する。(授業が始まる前に更衣をすませる)</p> <p>2. 頭髪を整える。既定の髪色にする。ゴムは黒・紺を使用し、長髪はネットの中にきれいに整える。サイドや長い前髪はヘアピンでとめる。</p> <p>3. インナー・靴下は白を着用する。つけまつげ、エクステ、カラーコンタクト、ピアス、ネックレス装着は不可。</p> <p>上記が守れないと、実習室での演習はできません。</p>						
<p>【使用教科書・教材・参考書】</p> <p>ナーシング・グラフィカ基礎看護学③ 20巻 基礎看護技術Ⅱ ipad 看護技術プラクティス 第4版</p>							

2024年度 授業概要

学 科 : 看護科

科目名 (英)	看護行為に共通する技術Ⅱ (安全・感染対策・皮膚・排泄ケア)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	※1 野崎 浩子(5) ※2 掛札 博士(5) ※3 梶原 理恵(5)
	Clinical Nursing Skills Ⅱ	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 1	実務経験	※1〇 ※2〇 ※3〇
コース						開講区分	前期
						曜日・時限	火・4

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

安全:看護活動を安全に行い、事故防止に努めることの重要性が理解できる

感染対策:スタンダードプリコーションの知識・技術を習得する

創傷管理技術:これからの臨地実習にて患者の皮膚の状態や褥瘡を考えることが多くあります。基礎知識を理解し、創傷管理する必要性と方法を説明できる

※1…看護師として30年以上の実績がある

※2…看護師として20年以上の実績がある

※3…看護師として25年以上の実績がある

【到達目標】

前提:安全、感染、創傷に関して、看護師のスキルアップがそのまま患者の生活や症状に直結するものである。看護技術の基礎の修得だけでなく、看護技術習得の意義を学び、今後の看護技術の成長につなげてほしい

<具体的目標>

目標①事故防止の重要性を理解し、看護の対象となる人の安全・安楽を考慮した看護技術の実践が理解できる

目標②感染管理の必要性を理解し、自己と他者を守る感染予防の看護技術の実践ができる

目標③皮膚の構造と機能や治癒課程を理解し、創傷を管理する知識と技術を述べることができる

授業計画・内容	
1回目	医療安全の意義と確保 (目標①) ケアの場面における安全を脅かす要因について述べるができる
2回目	主な医療事故とその予防策(医療事故と医療過誤、転倒・転落の予防策) (目標①) 安全を脅かす要因を排除する方法について述べるができる (目標①) インシデント・アクシデントの報告ができる(演習)
3回目	主な医療事故とその予防策(外傷、チューブ・ライントラブルの予防策) (目標①) 医療事故・医療過誤の意味を理解し、その方策(チューブ・ライン管理)について実践できる(演習)
4回目	主な医療事故とその予防策(誤薬の予防策、誤嚥・窒息・患者誤認の予防策) (目標①) 主な医療事故(転倒・転落、誤薬、誤嚥・窒息・患者誤認)の定義と要因について述べるができる(演習)
5回目	主な医療事故とその予防策(放射線・薬剤暴露の予防策) (目標①) 主な医療事故(転倒・転落、針さし、放射線・薬剤暴露)の対策について述べるができる(演習)
6回目	感染症の意義、感染症に関する法律、感染症を成立させる要素と成立過程 (目標②) 感染予防の意味を理解する
7回目	感染症を予防するためのプロセス (目標②) さまざまな感染予防行動(無菌操作、スタンダードプリコーション、防護用具、器具の消毒、廃棄物)の原理・原則に沿って実行できる(演習)
8回目	感染予防のための看護過程、感染予防のための援助方法 (目標②) 感染症の状態を判断できる
9回目	感染予防のための組織と援助技術に対する評価 (目標②) 感染予防のための組織づくりを習得できる
10回目	感染症発症時の対応 (目標②) 感染症発症時の対応の基本知識を習得する
11回目	皮膚の構造と機能と関するための基礎知識 (目標③) 皮膚の構造と機能について述べるができる
12回目	創傷とは、創傷の分類 (目標③) 創傷の分類や褥瘡の発生と分類について説明ができる。
13回目	創傷の治癒課程と形式 (目標③) 創傷の治癒過程について述べるができる
14回目	褥瘡の管理 (目標③) 創傷を管理する知識と技術を理解する
15回目	創傷の管理 (目標③) 創傷の管理(創洗浄、創保護、褥瘡予防ケア、褥瘡処置)を実践できる(演習)
準備学習 時間外学習	ナーシング・グラフィカ基礎看護学③ 基礎看護技術 から授業の内容について熟読しておくこと (目標1)安全に関する技術 (目標2)スタンダード・プリコーションがスムーズにできるように復習しておく (目標3)皮膚・創傷を管理する技術
評価方法	筆記試験(100%) ※1(40%) ※2:感染(30%) ※3:皮膚(30%)
受講生への メッセージ	安全、感染管理、創傷管理は看護師の技術がそのまま患者の生活に直結します。患者の療養生活を守る看護師の重要なスキルであり、専門職として求められるスキルでもあります。目標をもって学習を進めていってください。 体調管理には気を付けて欠席しないように注意して下さい。

【使用教科書・教材・参考書】

<教科書>

ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ : 志田岐 康子(編集) 《メディカ出版》

<参考図書>

看護技術プラクティス 第4版 : 竹尾 恵子 《学研》

2024年度 授業概要

学 科 : 看護科

科目名 (英)	看護行為に共通する技術Ⅲ (看護理論・看護過程)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	大宮 和香沙
	Clinical Nursing Skills III					実務経験	○
コース		授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 1	開講区分	前期
						曜日・時限	月・水1~4

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

看護行為に共通する技術である看護理論、看護研究、看護過程についてその意義と内容を理解し活用できるようになることをめざす。看護理論では、看護の独自性と看護の対象となる人のとらえ方を学び自己の看護観を体系的に考え、看護研究では、意義と研究方法を学び、看護の発展に結び付けることの重要性を学ぶ。さらに看護過程では、その構成要素を知り、科学的思考プロセスとなる看護過程の展開について学習する。

大宮和香沙…看護師として10年以上の実績がある

【到達目標】

- 1.看護行為に共通する技術である看護理論、看護研究、看護過程についてその意義と内容を説明できる
 - 2.看護過程の構成要素を知り、科学的思考のプロセスとなる看護過程の展開について理解できる
 - 3.理論化による看護理論から看護の独自性と看護の対象となる人のとらえ方を学び、自己の看護観を体系的に考えることができる
- < 具体的目標 >
- 目標①研究と実践活動について説明できる
 - 目標②研究の種類と特徴について説明できる
 - 目標③研究における倫理とは何か説明できる
 - 目標④看護を展開する技術を習得する

授業計画・内容	
1回目	看護を展開する技術 (目標④)科学的思考、問題解決的思考を基に、看護の過程における思考の方法(看護過程)を学習する
2回目	情報の整理とアセスメント (目標④)看護専門職として、患者のニーズを満たす質を保證するケアの提供の技術を習得する 課題1:ペーパーペイシエントを用いて、ヘンダーソンの14項目で看護過程を展開する
3回目	情報の整理とアセスメント (目標④)看護専門職として、患者のニーズを満たす質を保證するケアの提供の技術を習得する 課題2:自己のアセスメントした内容をグループワークにて検討する
4回目	問題の明確化:看護診断と優先順位の決定 (目標④)看護過程におけるクリティカルシンキングを理解する
5回目	看護計画 (目標④)看護専門職として、患者のニーズを満たす質を保證するケアの提供の技術を習得する 課題3:ペーパーペイシエントを用いて、ヘンダーソンの14項目で看護過程(計画)を展開する
6回目	看護計画 (目標④)看護専門職として、患者のニーズを満たす質を保證するケアの提供の技術を習得する 課題4:自己の看護計画内容を発表する
7回目	看護計画 (目標④)看護専門職として、患者のニーズを満たす質を保證するケアの提供の技術を習得する 課題5:看護計画の追加・修正することができる
8回目	実施、評価 (目標④)患者の情報の管理と記録の方法を習得する
9回目	臨床に役立つ看護理論 (目標⑤)人間関係の看護論(ヘルデガードEペプロウ)看護のセルフケア不足理論(ドロセアEオレム)適応モデル(シスター・カリスタ・ロイ)について説明できる
10回目	臨床に役立つ看護理論 (目標⑤)目的達成理論(アイモジン・キング、ユニタリ・ヒューマン・ビーイング、マーサEロジャース)について説明できる
11回目	臨床に役立つ看護理論 (目標⑤)危機理論・危機介入(フィンク/コーン/アグレイラ/ムース)について説明できる
12回目	【演習】グループワーク 様々な理論家の理論の概要、興味を持った理論家について内容をまとめる
13回目	発表前日までに原稿をUSBで提出
14回目	
15回目	【演習・発表】 1題10分で発表 原稿を修正しデータをTeamsへ提出
準備学習 時間外学習	【看護研究】文献検索、資料準備は課題とする。授業の進行上必要なので、指示された課題は必ず準備し持参すること 【看護過程】事例をもとに看護過程を展開するので、疾患の理解、情報の整理、アセスメントに取り組んでください 【看護理論】3年次の看護研究において、理論を用いて展開するので理論家の書物を必ず1冊は読んでください
評価方法	【看護研究】30%(授業態度、提出物、出席:10%、研究計画書:20%) 【看護過程】30%(出席状況10%、課題110%、課題210%) 【看護理論】40%(発表することにより評価の対象とする:出席状況10%、発表10%、成果物提出20%) ※総合評価で60点に満たない場合、再試験は筆記試験とする
受講生への メッセージ	看護理論、看護研究、看護過程とも看護行為に必要な基礎的知識です。積極的に参加し、課題をクリアしていきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
<教科書> ナーシング・グラフィカ 基礎看護学④ 看護研究 : 川村 佐和子(編集) 《メディカ出版》 ナーシング・グラフィカ 基礎看護学① 看護学概論 : 川村 佐和子(編集)、松尾 ミヨ子(編集)、志自岐 康子(編集) 《メディカ出版》 看護の基本となるもの : ヴァージニア・ヘンダーソン 《日本看護協会出版会》 看護理論看護理論21の理解と実践への応用 (改訂第3版) : 筒井眞優美(編集) 《南江堂》	

2024年度 授業概要

学 科： 看護科

科目名 (英)	健康的な生活への援助技術Ⅰ (環境、活動・休息、睡眠)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	大宮 和香沙
	Patient care planⅠ					実務経験	○
コース		授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 1	開講区分	前期
<p>【授業の学習内容】 (※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>看護職者は、看護を必要とする人のニーズを把握し、適切な援助を実施する必要がある。 この科目では、まず、自分たちが生活する環境を想起させ入院環境を考え、適切な病床環境のもとに環境調整する技術を習得を目指す。次に、対象である人や援助する側の効果的・効率的な援助方法を理解し、安全で安楽な援助技術を習得を目指す。そして、休息・睡眠の意義とメカニズムを理解し、必要に応じた休息・睡眠のとり方について考え、必要な援助方法を習得を目指す。</p> <p>大宮和香沙…看護師として10年以上の実績がある</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>看護実践における技術の意味を理解し、看護活動の基礎となる共通技術を習得する <具体的な目標></p> <p>目標①看護技術とは何かについて説明ができる 目標②生命徴候であるバイタルサインの基礎知識や測定方法を習得する 目標③看護における記録と報告の必要性を理解し、正確な記録と報告ができる</p>							
授業計画・内容							
1回目	目標①環境を整える意義を説明できる						
2回目	目標①療養生活の環境を構成する要素を理解し、説明ができる						
3回目	目標①ベッド周囲と病床の環境調整と、ベッドメイキングに必要なリネン類の取り扱いと方法について説明ができる						
4回目	目標①ベッドメイキングを根拠に基づいて実施することができる (演習：快適な療養環境の整備)						
5回目	目標①ベッドメイキングを根拠に基づいて実施することができる (演習：快適な療養環境の整備)						
6回目	目標①臥床状態にある患者のシーツ交換を根拠に基づいて実施することができる (演習：臥床患者のリネン交換)						
7回目	目標②活動と休息の意義を説明することができる						
8回目	目標②姿勢の基礎知識を理解し、体位の種類とその目的を説明することができる						
9回目	目標②ポジショニングを理解し、方法を取得する (演習：安楽な体位の調整・安楽の促進・苦痛のためのケア)						
10回目	目標②ボディメカニクスについて理解し、いろいろな体位変換を習得する (演習：体位変換・保持)						
11回目	目標②床上運動の援助を習得する (演習：自動・他動運動の援助)						
12回目	目標②車いす・ストレッチャーについて理解し、移送の方法を習得する (演習：移乗介助・車椅子での移送・ストレッチャー移送)						
13回目	目標②移動を補助する器具について理解し、歩行補助具の援助を習得する (演習：歩行・移動介助)						
14回目	目標③睡眠のメカニズムや睡眠がもたらす身体の変化を理解し説明ができる						
15回目	目標③睡眠の具体的な方法について説明ができる						
準備学習 時間外学習	<p>事前にナーシング・グラフィカ基礎看護学③ 20巻 基礎看護技術 ipad 以下の内容を熟読する</p> <p>目標①5. 快適な環境を作る技術 目標②8. 効率的で安楽な働きを作り出す技術と10. 活動・運動を支援する技術 目標③11. 休息・睡眠を促す技術 演習を実施するまえには必ず手順書の課題を完成させる</p>						
評価方法	<p>看護技術の手順書の課題 筆記試験100% (60点以上) とし、60点以下は再試験を実施する ただし、技術試験「麻痺がある患者への車いす移乗と移送」60点以上であることを条件とする (60点以下の場合は合格するまで試験を受けること)</p>						
受講生への メッセージ	<p>看護実習室にて演習を行いますので、以下の内容を理解し演習に臨んでください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 白衣、ナースシューズを着用する。(授業が始まる前に更衣をすませる) 2. 頭髪を整える。既定の髪色にする。ゴムは黒・紺を使用し、長髪はネットの中にきれいに整える。サイドや長い前髪はヘアピンでとめる。 3. インナー・靴下は白を着用する。つけまつげ、エクステ、カラーコンタクト、ピアス、ネックレス装着は不可。 上記が守れないと、実習室での演習はできません。 						
<p>【使用教科書・教材・参考書】</p> <p>ナーシング・グラフィカ基礎看護学③ 20巻 基礎看護技術Ⅱ ipad 看護技術プラクティス 第4版</p>							

2024年度 授業概要

学 科： 看護科

科目名 (英)	健康的な生活への援助技術Ⅱ (食事・排泄) Patient care planⅡ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	白石郁美
コース		授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
						開講区分	後期
						曜日・時限	
<p>【授業の学習内容】 (※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>看護職者は、看護を必要とする人のニーズを把握し、適切な援助を実施する必要がある。 この科目では、まず、よりよい食事と何かについて栄養と食事の基礎的知識を理解し、健康のレベルや食事行動の自立度に応じた栄養と食事のニーズを充足する方法を選択し効果的な援助方法を習得する。次に、排尿・排便に関するメカニズムや意義を理解し、対象である人の排尿・排便のニーズをアセスメントすることによって適切な援助方法を選択し実施する。</p> <p>白石郁美…看護師として5年以上の実績がある</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>日常生活における看護を必要とする人のニーズを把握し、その人に合わせた援助技術を習得する <具体的な目標> ①栄養と食事の基礎的知識と援助方法を理解し、効果的な援助方法について習得ができる ②人間の排泄を理解し、患者が健康的な生活を送るために必要な援助方法を習得する</p>							
授業計画・内容							
1回目	目標①食事・栄養の意義と食事の関する生理学的メカニズムを理解し説明ができる						
2回目	目標①食事と栄養に関する基礎知識を理解し栄養状態のアセスメントができる						
3回目	目標①食事援助における基礎知識と注意点を理解する						
4回目	目標①食事援助、患者に適した方法口腔ケアが実施できる(演習：食事介助・口腔ケア)						
5回目	目標①障害がある対象に安全においしく食べるための体位の工夫と食事援助が実施できる(演習：食事介助)						
6回目	目標①非経口的栄養摂取の援助が実施できる(演習：経鼻カテーテルの挿入・管理、経管栄養法による流動食の注入)						
7回目	目標②排泄の意義とメカニズム、アセスメントの方法を説明できる						
8回目	目標②排便障害の種類を理解し、援助に関する基礎知識を説明できる						
9回目	目標②排泄行動の制限によって生じる問題や排尿障害の種類と定義を理解し、援助方法を説明ができる						
10回目	目標②自然排尿と自然排便の援助方法を理解し、実施できる(演習：排泄援助(床上、ポータブル))						
11回目	目標②導尿を正しい方法にて実施できる(演習：導尿又は膀胱留置カテーテルの挿入・管理)						
12回目	目標②導尿を正しい方法にて実施できる(演習：導尿又は膀胱留置カテーテルの挿入・管理)						
13回目	目標②浣腸の種類や方法と排便の方法を理解し、実施できる(演習：浣腸)						
14回目	目標②排便の方法を理解し、実施できる(演習：排便)						
15回目	目標②ストマーケアについて理解し、装具の交換とケアについて説明ができる(演習：ストーマ管理)						
準備学習 時間外学習	<p>事前にナースング・グラフィカ基礎看護学③ 20巻 基礎看護技術 ipad 以下の内容を熟読する 目標①13. 食事・栄養摂取を促す技術 目標②14. 排泄を促す技術 演習を実施するまえには必ず手順書の課題を完成させる</p>						
評価方法	<p>看護技術の手順書の課題 筆記試験100%(60点以上)とし、60点以下は再試験を実施する ただし、技術試験「滅菌操作にて女性の一次的導尿」60点以上であることを条件とする(60点以下の場合は合格するまで試験を受けること)</p>						
受講生への メッセージ	<p>看護実習室にて演習を行いますので、以下の内容を理解し演習に臨んでください。 1. 白衣、ナースシューズを着用する。(授業が始まる前に更衣をすませる) 2. 頭髪を整える。既定の髪色にする。ゴムは黒・紺を使用し、長髪はネットの中にきれいに整える。サイドや長い前髪はヘアピンでとめる。 3. インナー・靴下は白を着用する。つけまつげ、エクステ、カラーコンタクト、ピアス、ネックレス装着は不可。 上記が守れないと、実習室での演習はできません。</p>						
<p>【使用教科書・教材・参考書】</p> <p>ナースング・グラフィカ基礎看護学③ 20巻 基礎看護技術Ⅱ ipad 看護技術プラクティス 第4版</p>							

2024年度 授業概要

学 科： 看護科

科目名 (英)	健康的な生活への援助技術Ⅲ (清潔、安楽) Patient care planⅡ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	大宮 和香沙
						実務経験	○
コース		授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 1	開講区分	後期
						曜日・時間	
<p>【授業の学習内容】 (※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 看護職者は、看護を必要とする人のニーズを把握し、適切な援助を実施する必要がある。 この科目では、まず、清潔保持に関する生理学的メカニズムを理解し、対象者の清潔に関するニーズを考え適切な援助方法を選択することで身体の清潔を援助する技術の習得を目指す。次に、安楽とは何かを考え安全で安楽な援助技術を習得を目指す。</p> <p>大宮和香沙…看護師として10年以上の実績がある</p>							
<p>【到達目標】 日常生活における看護を必要とする人のニーズを把握し、その人に合わせた援助技術を習得する <具体的な目標> 目標①清潔保持に関する生理的メカニズムとニーズを考え必要な援助方法を理解し、適切な援助方法を習得できる 目標②対象者に安楽かつ快適さを提供する技術の必要性を理解し、適切な援助を選択することができる</p>							
授業計画・内容							
1回目	目標①清潔の意義と皮膚・粘膜の生理的メカニズムとケアについて説明ができる						
2回目	目標①清潔へのニーズのアセスメントと清潔の援助方法が説明ができる						
3回目	目標①衣生活のニーズをアセスメントし、寝衣交換の必要性和方法を説明できる						
4回目	目標①患者に適した洗髪の方法を選択し、実施ができる (演習：洗髪)						
5回目	目標①患者に適した整容の方法を選択し、実施ができる (演習：整容)						
6回目	目標①患者に適した方法で爪切りの方法が理解でき、手浴の実施ができる (演習：手浴)						
7回目	目標①患者に適した方法にて足浴が実施できる (演習：足浴)						
8回目	目標①寝衣交換が実施できる (演習：点滴・ドレーン等を留置していない患者の寝衣交換、点滴・ドレーン等を留置している患者の寝衣交換)						
9回目	目標①全身清拭の援助が実施できる (演習：清拭)						
10回目	目標①全身清拭の援助が実施できる (演習：清拭)						
11回目	目標①陰部洗浄とオムツ交換が実施できる (演習：陰部の保清、排泄援助 (オムツ))						
12回目	目標①入浴介助とシャワー浴の援助が実施できる (演習：入浴とシャワー浴の介助)						
13回目	目標②安楽について理解し、安楽の援助方法を説明できる						
14回目	目標②安楽を確保する援助を習得する (演習：精神的安寧を保つためのケア)						
15回目	目標②薬法の援助を習得する (演習：体温調節の援助)						
準備学習 時間外学習	事前にナーシング・グラフィカ基礎看護学③ 20巻 基礎看護技術 ipad 以下の内容を熟読する 目標①12. 身体の清潔を援助する技術 目標②17. 安楽かつ快適さを確保する技術と16. 体温を調整する技術 演習を実施するまえには必ず手順書の課題を完成させる						
評価方法	看護技術の手順書の課題 筆記試験100% (60点以上) とし、60点以下は再試験を実施する ただし、技術試験「患者の上半身清拭と寝衣交換」60点以上であることを条件とする (60点以下の場合は合格するまで試験を受けること)						
受講生への メッセージ	看護実習室にて演習を行いますので、以下の内容を理解し演習に臨んでください。 1. 白衣、ナースシューズを着用する。(授業が始まる前に更衣をすませる) 2. 頭髪を整える。既定の髪色にする。ゴムは黒・紺を使用し、長髪はネットの中きれいに整える。サイドや長い前髪はヘアピンでとめる。 3. インナー・靴下は白を着用する。つけまつげ、エクステ、カラーコンタクト、ピアス、ネックレス装着は不可。 上記が守れないと、実習室での演習はできません。						
<p>【使用教科書・教材・参考書】</p> <p>ナーシング・グラフィカ基礎看護学③ 20巻 基礎看護技術Ⅱ ipad 看護技術プラクティス 第4版</p>							

2024年度 授業概要

学 科 : 看護科

科目名 (英)	生命活動を支える援助技術 (治療・処置・与薬)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	入江 明日香
		授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
コース						開講区分	前期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

治療・診察に伴う援助技術としての治療・処置・与薬について基本的な看護技術を学び、実践することが出来るようになる事を目指す。
与薬技術は直接的な身体への影響が大きい技術であり、安全かつ正しい指示に基づく正確な投与方法を身につける。
各注射方法について、演習モデルを活用し正確な技術の修得を目指す。

入江 明日香…看護師として10年間以上の実績がある

【到達目標】

治療の意義・目的及び看護の役割を理解し、診断・治療を受ける人への援助技術を習得することが出来る

<具体的目標>

目標①生命活動を支える援助技術を理解し、実践することが出来る

目標②検査・治療・処置の意義・目的と診察時の看護の役割が理解できる

目標③薬物療法における看護師の役割を理解し、与薬法の特徴と援助方法、安全に実施するための注意事項が理解できる

目標④各注射法の準備・実施・後始末が正しく実施することが出来る

授業計画・内容

1回目	(目標①)呼吸のメカニズムについて説明することが出来る
2回目	(目標①)呼吸を楽にする援助方法(酸素吸入・体位ドレナージ)を実践することが出来る(演習)
3回目	(目標①)呼吸を楽にする援助方法(ネブライザー・吸引(口腔・鼻腔・気管・気切))を実践することが出来る(演習)
4回目	(目標②)検査・治療・処置の目的について説明することが出来る(腰椎穿刺・内視鏡・スパイロメーター・輸血)
5回目	(目標②)検査・治療・処置の看護師の役割を実践(腰椎穿刺・内視鏡・スパイロメーター)することが出来る(演習)
6回目	(目標②)検査・治療・処置の看護師の役割を実践(採血)することが出来る(演習)
7回目	(目標③)薬物療法の目的・方法を説明することが出来る(薬物管理・与薬方法)
8回目	(目標③)様々な薬物管理(毒薬・劇薬・麻薬・血液製剤・抗がん剤・輸血)について実践する事が出来る
9回目	(目標③)安全な与薬方法(経口薬(内服・舌下)・経皮・外用薬・座薬・点眼)を実践することが出来る(演習)
10回目	(目標④)各注射方法について説明することが出来る(皮下注射・筋肉注射・皮内注射・抗がん剤)
11回目	(目標④)各注射法・注射器の取り扱い・アンプルカット・バイアルの使用を実施することが出来る(演習)
12回目	(目標④)皮下注射・筋肉注射を実施することが出来る(演習)
13回目	(目標④)静脈注射を実施することが出来る(演習)
14回目	(目標④)輸液療法を実施することが出来る(演習)
15回目	(目標①)医療機器(輸液ポンプ・心電図モニター、酸素ボンベ等)の操作・管理が出来る(演習)

準備学習
時間外学習
(準備学習)
患者に侵襲的な影響を与える看護技術となります。教科書の該当ページを予め確認し、授業に臨む事。演習を行うため、解剖生理学の復習を行って
てください。

(時間外学習)
講義の後に演習を行うので、必ず講義の内容の振り返りを行い、演習に臨むこと。特に注射法に関しては実技試験もあるため、演習後も各自で注射法
の練習を行っておくこと。

評価方法
態度・知識・技術を総合的に評価する。
態度(10%) : 授業態度や演習への取り組み
知識(90%) : 筆記試験(但し、技術試験に合格していなければ、評価の対象とならない)

受講生への
メッセージ
治療・処置・与薬は看護師として働く上で欠かせない技術の一つになります。
知識だけでなく技術も習得できるように目的をもって講義・演習に臨んでください。

【使用教科書・教材・参考書】

<教科書>

ナーシング・グラフィカ 基礎看護技術Ⅱ(15章 16章 18章 19章) : 志自岐 康子(編集) 《メディカ出版》

看護技術プラクティス 第3版 : 竹尾恵子 《学研プラス》

2024年度 授業概要

学 科 : 看護科

科目名 (英)	地域と暮らし	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	伊規須 千春
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 1	実務経験	○
コース						開講区分	前期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

対象となる地域のきめ細かい観察や既存の保健衛生統計を通して、地域ごとの問題・特徴を把握し健康を守る支援をするための基盤として、地域で生活する人々とその家族を知ることが重要である。身近な地域を例に、地域診断の手法を用いて生活者を包括的にとらえ、学びを共有し、地域における生活と健康に関する課題を抽出しわかりやすくプレゼンテーションできるようになることを目指す。

伊規須千春…看護師として28年間の実績がある。

【到達目標】

地域で生活する人々とその家族の健康と暮らしを支援する基盤を養うため生活者の視点で地域をとらえることができる

< 具体的な目標 >

- 目標①コミュニティを包括的な視点でとらえることができる
- 目標②地域の暮らしを検索し統計資料と統合することができる
- 目標③地域の生活の課題を述べることができる。

授業計画・内容

1回目	(目標①) 地域診断の展開に必要なモデルとその概要について説明できる
2回目	(目標②) コミュニティ・アズ・パートナーモデルを用いて福岡市で生活する人々を包括的にとらえることができる
3回目	(目標②) コミュニティ・アズ・パートナーモデルを用いて福岡市で生活する人々を包括的にとらえることができる
4回目	(目標②) コミュニティ・アズ・パートナーモデルを用いて福岡市で生活する人々を包括的にとらえることができる
5回目	(目標②) コミュニティ・アズ・パートナーモデルを用いて福岡市で生活する人々を包括的にとらえることができる
6回目	(目標③) 調べた内容を基に地域の課題を明確にすることができる
7回目	(目標③) 調べた内容を基に地域の課題を明確にすることができる
8回目	(目標③) 地域で生活する人々とその家族の健康と暮らしについて支援することの展望を述べることができる
準備学習 時間外学習	福岡市内のフォーマル・インフォーマルサービスの内容や手続きなど調べてみましょう
評価方法	筆記試験(50%) パフォーマンス評価(50%)
受講生への メッセージ	身近な生活に目を向けて行政とのかかわりなどに興味を持って情報収集しましょう(地域の行事や市政だよりなど)

【使用教科書・教材・参考書】

照林社 基礎から分かる地域在宅看護論

2024年度 授業概要

学 科 : 看護科

科目名 (英)	暮らしを支える看護	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	伊規須 千春
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	15	実務経験	○
コース					1	開講区分	前期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

我が国は、高齢者人口、とくに75歳以上の後期高齢者が増加する中、少子化により総人口が減少に転じ、高齢化率が急速に上昇している。2025年以降は医療や介護の需要がさらに増加されることがみこまれる一方で高齢者の単身世帯や夫婦のみの世帯が増えるなど、個々の家庭だけで介護を支えるのは困難になっている。年齢を重ね介護が必要になってもできる限り地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで尊厳をもって続けることができるよう、医療・介護・介護予防・生活支援・住まいが一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の構築が推進されている。本政策は高齢者を対象として創設されたが、現在ではあらゆる世代が対象となっている。本授業では地域包括ケアシステムの概要を理解しその中での看護の役割を理解することを目指す。

伊規須千春…看護師として28年間の実績がある。

【到達目標】

地域包括ケアシステムおよびその中における看護の役割について説明できる

<具体的目標>

- 目標①地域包括ケアシステムの創設の経緯について説明できる
- 目標②地域包括ケアシステムの構成要素について説明できる
- 目標③地域包括ケアシステムの構築について説明できる
- 目標④地域包括システムに関わる看護師の役割について説明できる

授業計画・内容

1回目	(目標①) 高齢化の推移と将来推計について説明できる (目標①) 地域包括ケアシステムの必要性について説明できる
2回目	(目標①) 地域包括ケアシステムの背景と機能について説明できる
3回目	(目標②) 地域包括ケアシステムの構成要素の具体的な意味について説明できる (目標②) 費用負担区分からみた地域包括ケアシステムについて説明できる
4回目	(目標②) 生活の場に応じた看護とサービス提供機関について説明できる
5回目	(目標③) 地域包括ケアシステムの構築のプロセスについて説明できる (目標③) 地域ケア会議の機能と役割について述べる事ができる
6回目	(目標④) 地域包括ケアシステムに関わる多職種の役割について説明できる (目標④) 地域包括ケアシステムの中での看護師の役割について説明できる
7回目	(目標④) 地域包括ケアシステムの様々な看護師の活躍の場について説明できる
8回目	(目標④) 地域包括ケアシステムの今後の課題と展望について説明できる

準備学習
時間外学習 予習をして難解な言葉は事前に調べておいてください。

評価方法 筆記試験(100%)

受講生への
メッセージ 地域と暮らしで学んだことを基盤に地域包括ケアシステムとは何か、看護師との関係について学びます。予習・復習をすることわからないことは確認することを心がけましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

<教科書>

ナーシング・グラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア : 臺 有桂(編集)、石田 千絵(編集)、山下 留理子(編集) <メディカ出版>

2024年度 授業概要

学 科 : 看護科

科目名 (英)	在宅看護概論	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	奥畑 幸一郎
	Introduction to Community Nursing	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 1	実務経験	○
コース						開講区分	前期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

地域・在宅看護の変遷やその社会背景をはじめ、地域・在宅看護の目的・基本的な理念や関連する概念、原理原則を学び、地域・在宅看護の対象者の特性と支援のあり方を学ぶ。

奥畑幸一郎…看護師として10年以上の経験を有する

【到達目標】

在宅看護の意義と必要性、概要を理解し学んだことを説明できる

<具体的目標>

- 目標①日本の地域・在宅看護の変遷とその社会的背景について説明できる。
- 目標②地域・在宅看護の目的と基本理念、関連する概念、原理原則について理解できる
- 目標③地域・在宅看護の対象者の特性とその支援の基本を理解できる

授業計画・内容

1回目	(目標①)生活・地域のとらえ方および健康との関係性について多角的視点から自己の考えを述べる事ができる (目標①)地域・在宅看護の背景について学んだことを説明できる
2回目	(目標②)地域・在宅看護活動について説明できる (目標②)在宅看護と訪問看護について説明できる (目標②)在宅看護の役割・機能・特徴について説明できる
3回目	(目標②)地域療養を支える在宅看護の役割・機能を説明できる (目標②)地域・在宅看護を展開するための基本理念を説明できる
4回目	(目標②)地域・在宅看護における倫理を理解し課題について考えることができる
5回目	(目標③)地域・在宅看護の対象者について説明できる
6回目	(目標③)在宅看護の対象者と在宅看護の成立要件について説明できる
7回目	(目標③)在宅療養の場における家族の捉え方について説明できる
8回目	(目標③)療養者と家族へのケアについて事例をもとに考えることができる(演習:事例の展開)
準備学習 時間外学習	予習をして難解な言葉は事前に調べておいてください。
評価方法	筆記試験(80%) 授業への参加態度(20%)
受講生への メッセージ	在宅で生活しながら療養する対象者は年々増加しており、訪問看護をはじめとする在宅看護の知識やマナーなどはとても大切なことです。重要性をしっかりと認識して授業に臨んでください。

【使用教科書・教材・参考書】

<教科書>

ナーシング・グラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア : 臺 有桂(編集)、石田 千絵(編集)、山下 留理子(編集) <メディカ出版>

2024年度 授業概要

学 科 : 看護科

科目名 (英)	在宅看護方法論 I	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	奥畑 幸一郎
	Community Nursing Methodology I	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 1	実務経験	○
コース						開講区分	前期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

地域・在宅看護の対象者の支援の基盤となる訪問看護制度を学び、在宅ケアにおけるケアマネジメントや地域包括ケアシステムの基本、関係機関・職種との連携の必要性、社会資源を学ぶ。

奥畑幸一郎…看護師として10年以上の経験を有する

【到達目標】

在宅看護に携わる職種とその役割、他職種との連携および社会資源の活用について学んだことを表現するとともに、対象者個人の尊厳、個人情報の保障の重要性について考えを述べることができる

<具体的目標>

- 目標①在宅ケアを支える制度や社会資源を説明できる
- 目標②在宅ケアにおけるケアマネジメントや関係機関・関係職種間の連携を理解できる
- 目標③現在の訪問看護制度の基本を理解できる
- 目標④対象者とその家族に向けた訪問看護過程ならびにケアマネジメントを展開できる

授業計画・内容

1回目	(目標①)地域アセスメントの考え方について説明できる (目標②)地域包括ケアシステムと多職種連携について説明できる
2回目	(目標②)療養の場の移行に伴う看護について説明できる (目標②)地域包括ケアシステムと多職種連携について説明できる
3回目	(目標②)在宅看護におけるケースマネジメント/ケアマネジメントについて説明できる
4回目	(目標②)社会資源の活用について説明できる (医療保険制度、後期高齢者医療制度、介護保険制度、生活保護制度)
5回目	(目標②)障がい者に関連する法律について説明できる
6回目	(目標②)在宅療養者の権利を擁護する制度と社会資源について説明できる (目標②)高齢者施策について説明できる
7回目	(目標③)訪問看護制度について説明できる (目標④)事例をもとに在宅復帰に向けた支援について看護過程の展開ができる(演習:看護過程の展開)
8回目	(目標③)訪問看護における医療保険と介護保険の調整が演習にて実施できる(演習) (目標④)ケアマネジメント(サービスの調整)が演習にて実施できる(演習)
準備学習 時間外学習	予習をして難解な言葉は事前に調べておいてください。
評価方法	筆記試験(70%) 実技(演習成果物)・レポート(30%)
受講生への メッセージ	在宅で生活しながら療養する対象者は年々増加しており、訪問看護をはじめとする在宅看護の知識やマナーなどはとても大切なことです。重要性をしっかりと認識して授業に臨んでください。

【使用教科書・教材・参考書】

<教科書>

ナーシング・グラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア : 臺 有桂(編集)、石田 千絵(編集)、山下 留理子(編集) 《メディカ出版》

2024年度 授業概要

学 科 : 看護科

科目名 (英)	在宅看護方法論Ⅱ Community Nursing Methodology Ⅱ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	岸 薫
		授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30	実務経験	○
コース					1	開講区分	前期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

在宅ケアを支える訪問看護ステーションの概要、訪問看護サービスの展開について学ぶ。さらに、訪問看護師が実践する在宅における生活ケア・医療的ケアのアセスメントや援助技術の方法を傍観する。さらに訪問看護看護師に必要な訪問時のマナーを学び実践する。

岸 薫…看護師として20年以上の経験を有する

【到達目標】

在宅医療技術の基礎的知識について説明できるとともに在宅療養者の日常生活援助について理解しその一部を実践できる

<具体的目標>

- (目標①)訪問看護ステーションの設置、運営、従事者、対象者、サービス、利用までの流れを説明できる
- (目標②)訪問看護における看護過程の特徴、家庭訪問および初回訪問のプロセスを理解できる
- (目標③)対象特性に応じたアセスメントができる
- (目標④)在宅における療養者とその家族の生活上の課題を検討できる
- (目標⑤)在宅における安全と健康危機管理について説明できる
- (目標⑥)在宅療養生活を支える基本的な技術について理解し一部を実践できる

授業計画・内容

1回目	(目標①)訪問看護ステーション開設基準、従事者、対象者、サービス内容、開始の流れ、利用料が説明できる
2回目	(目標②)訪問看護サービスの展開について説明できる
3回目	(目標⑤)在宅看護における安全と健康危機管理について説明できる (目標⑤)事例をもとに在宅療養者の災害対策について説明できる(演習:事例展開)
4回目	(目標③)生活ケアと医療ケアのためのアセスメントと援助について説明できる
5回目	(目標③)生活ケアと医療ケアのためのアセスメントと援助について説明できる
6回目	(目標③④)在宅療養における看護過程の展開技術について説明できる
7回目	(目標②⑥)家庭訪問・初回訪問の手順・倫理・心構えを理解し一部を実践できる(演習:初回訪問)
8回目	(目標②⑥)家庭訪問・初回訪問の手順・倫理・心構えを理解し一部を実践できる(演習:初回訪問)
9回目	(目標③④)在宅療養における看護過程の展開技術についてその一部を実践できる(演習:情報収集)
10回目	(目標③④)在宅療養における看護過程の展開技術についてその一部を実践できる(演習:ヘルスアセスメントと家族のアセスメント)
11回目	(目標③④)在宅療養における看護過程の展開技術についてその一部を実践できる(演習:ゴール設定と計画立案)
12回目	(目標③⑥)コミュニケーション、アセスメント、環境整備について説明できる
13回目	(目標③⑥)コミュニケーション、アセスメント、環境整備について理解しその一部を実践できる(演習:住環境のアセスメント)
14回目	(目標⑥)生活リハビリテーションについて説明できる (目標⑥)感染予防について説明できる
15回目	(目標⑥)在宅におけるターミナルケアの基本について説明できる

準備学習
時間外学習 予習をして難解な言葉は事前に調べておいてください。

評価方法 筆記試験(70%)
実技・レポート(30%)

受講生への
メッセージ 在宅で生活しながら療養する対象者は年々増加しており、訪問看護をはじめとする在宅看護の知識やマナーなどはとても大切なことです。重要性をしっかりと認識して授業に臨んでください。

【使用教科書・教材・参考書】

<教科書>

ナーシング・グラフィカ 在宅看護論② 在宅療養を支える技術 : 臺 有桂(編集)、石田 千絵(編集)、山下 留理子(編集) 《メディカ出版》

2024年度 授業概要

学 科 : 看護科

科目名 (英)	在宅看護方法論Ⅲ Community Nursing Methodology Ⅲ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	永田英子
コース		授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
						開講区分	前期
						曜日・時限	水3.4

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

在宅におけるさまざまな事例をもとに療養者と家族、その取り巻く環境と状況に応じた在宅看護の実際を学び、既存の看護の知識を応用し、在宅看護の実践に結びつける。

*看護師として20年以上の臨床経験と教育師長として院内教育に携わっている

【到達目標】

事例を通して個々の対象の特徴、在宅ケア支援のための保健・医療・福祉のネットワークの活用方法、看護の継続性について学習し、対象のニーズを正しくアセスメントし、実行可能な計画の立案と適切な援助方法を選択できる

<具体的目標>

目標①訪問看護制度と事例を関連付けて看護を展開することができる
 目標②訪問看護で行われる生活援助および医療処置について理解できる
 目標③介護負担やレスパイトケアについて説明できる
 目標④被虐待が疑われる療養者のケアについて説明できる

授業計画・内容	
1回目	(目標①②)在宅での自己管理を受けている独居の糖尿病療養者の看護を展開できる(演習:看護過程展開)
2回目	(目標①②③)在宅で老々介護を開始する恒例の療養者の看護を展開できる(演習:看護過程展開)
3回目	(目標④)被虐待が疑われる認知症高齢者の看護を展開できる(演習:看護過程展開)
4回目	(目標①②)在宅での生活を希望する脳梗塞後遺症のある高齢者の看護を展開できる(演習:看護過程展開)
5回目	(目標①②)最期まで自宅で過ごしたいターミナル期のがん療養者の看護を展開できる(演習:看護過程展開)
6回目	(目標①②)在宅での生活に不安を抱きつつ退院するALS療養者の看護を展開できる(演習:看護過程展開)
7回目	(目標①②)事故により中途障害となった成人男性の看護過程を展開できる(演習:看護過程展開)
8回目	(目標①②)在宅での生活を希望する精神障がい者の看護過程を展開できる(演習:看護過程展開)
9回目	(目標①②)地域で生活する重症心身障碍児の看護過程を展開できる(演習:看護過程展開)
10回目	(目標①②)誤嚥性肺炎を生じた調高齢者の看護過程を展開できる(演習:看護過程展開)
11回目	(目標①②)回復期にある高次脳機能障害療養者の看護過程を展開できる(演習:看護過程展開)
12回目	(目標①②)独居で終末期を迎える療養者の看護過程を展開できる(演習:看護過程展開)
13回目	(目標①②③④)マルチリトメントが疑われる医療的ケア児の看護過程が展開できる(演習:看護過程展開)
14回目	(目標①②③④)初回訪問における情報をもとに看護過程を展開し共有することができる(演習:発表)
15回目	(目標①②③④)初回訪問における情報をもとに看護過程を展開し共有することができる(演習:発表)
準備学習 時間外学習	予習をして難解な言葉は事前に調べておいてください。
評価方法	筆記試験(80%) 授業参加態度と状況(20%)
受講生への メッセージ	在宅で生活しながら療養する対象者は年々増加しており、訪問看護をはじめとする在宅看護の知識やマナーなどはとても大切なことです。重要性をしっかり認識して授業に臨んでください。
【使用教科書・教材・参考書】	
<教科書> ナーシング・グラフィカ 在宅看護論② 在宅療養を支える技術 : 臺 有桂(編集)、石田 千絵(編集)、山下 留理子(編集) <<メディカ出版>>	

2024年度 授業概要

学 科 : 看護科

科目名 (英)	成人看護学概論	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	明石 征二
	Introduction to General Nursing	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 1	実務経験	○
コース						開講区分	前期
						曜日・時限	
【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
<p>ライフサイクルのなかで最も長い成人期にある人々を全人的・統合的存在として理解するために、成人の身体的、心理的、社会的な特徴および発達課題化み特徴について学ぶ。</p> <p>また成人の健康を健康一不健康の連続体として捉え、多様な要因により発生する健康問題の特徴を生活環境、生活習慣と関連づけて学習し、成人に対する看護の基盤となる主要概念について説明することができるようになる。</p> <p>明石征二…看護師として20年以上の実績がある</p>							
【到達目標】							
成人期にある対象を統合的に理解し、成人期の対象が健康を認識し、その人らしく生活するための看護について学ぶ							
< 具体的目標 >							
成人期にある対象を統合的に理解し、成人期の対象が健康を認識し、その人らしく生活するための看護について学ぶ。							
目標①成人期ある人の身体的・心理的・社会的特徴、生活と健康問題について説明することが出来る。							
目標②成人保健の動向を踏まえて、成人期にある人々の健康障害の特性とその要因について理解説明する言葉出来る。							
目標③成人への看護アプローチの基本的な概念と理論について説明することが出来る。							
授業計画・内容							
1回目	(目標①)ライフサイクルから見た成人の位置づけと特徴について説明することが出来る						
2回目	(目標①)成人期の健康問題の特徴とリスクファクターについて説明することが出来る						
3回目	(目標①)成人の健康と生活に応じた看護を説明することが出来る。						
4回目	(目標②)学習理論と自己効力に関して説明することが出来る						
5回目	(目標②)危機理論とストレス・コーピングについて説明することが出来る						
6回目	(目標③)障害の受容過程について説明することが出来る						
7回目	(目標③)成人の健康問題を分析するための枠組みについて説明することが出来る						
8回目	(目標①②③)症例に対するディベートを行い、成人期の身体的・精神的・社会的特徴について説明することが出来る						
準備学習 時間外学習	<p>(準備学習) 該当する教科書のページを予め確認し、授業に臨むこと。</p> <p>(時間外学習) 各回の講義の内容を振り返りディベートの時に講義内容が活用できるようにしておくこと。</p>						
評価方法	<p>態度・知識・技術を総合的に評価する</p> <p>態度(10%):授業態度や演習への取り組み</p> <p>知識(70%):筆記試験</p> <p>技術(20%):ディベートによる表現方法</p>						
受講生への メッセージ	人生の中で最も長い期間にある成人期では様々な課題、健康障害があります。身体的・精神的・社会的影響を考える事が出来るように学びを深めていってください。						
【使用教科書・教材・参考書】							
<教科書>							
ナーシング・グラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論 : 安酸 史子(編集)、吉田 澄恵(編集)、鈴木 純恵(編集)《メディカ出版》							

2024年度 授業概要

学 科 : 看護科

科目名 (英)	成人看護学方法論 I (急性期)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	※1.柴田 幸治(10) ※2.尾場瀬 将裕(5)
	General Nursing Methodology I	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 1	実務経験	※1.○ ※2.○
コース						開講区分	前期
						曜日・時限	金・2

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

手術前・手術中・手術後の患者を援助する方法、およびリスク予測に基づいた述語合併症を予防する方法を学び実践出来る能力を身につけていく。
また、手術による特徴的な機能障害を理解し、術後の健康回復を促進するための看護について学ぶ。さらに集中治療が必要な患者と家族の基礎的な看護について学び、実践能力の向上を図っていく。

※1.看護師として10年以上の実績がある
※2.看護師として15年以上の実績がある

【到達目標】

基礎看護学で学んだ「手術療法を受ける患者の看護」を基に、手術前・中・後看護を理解する

< 具体的目標 >

- 目標①手術を受ける患者看護(手術前・中・後)の一連の流れを説明することが出来る
- 目標②手術侵襲に伴う身体反応が理解できる
- 目標③手術を受ける患者の身体的・心理的特徴が説明できる
- 目標④手術を受ける患者の看護過程が実践出来る

授業計画・内容

1回目	(目標①)手術前の看護について説明することが出来る
2回目	(目標①)手術室看護について説明できる
3回目	(目標①)手術直後の看護について説明することが出来る
4回目	(目標①)術後合併症と予防のための看護について説明することが出来る
5回目	(目標②)身体侵襲による生体反応について説明することが出来る
6回目	(目標③)呼吸器系に障害のある患者の手術を受ける患者の看護について説明することが出来る
7回目	(目標③)循環器系に障害のある患者の手術を受ける患者の看護について説明することが出来る
8回目	(目標③)消化代謝系に障害のある患者の手術を受ける患者の看護について説明することが出来る
9回目	(目標③)脳神経系に障害のある患者の手術を受ける患者の看護について説明することが出来る
10回目	(目標③)運動器系に障害のある患者の手術を受ける患者の看護について説明することが出来る
11回目	(目標③)内分泌・泌尿器系・生殖器系に障害のある患者の手術を受ける患者の看護について説明することが出来る
12回目	(目標④)胃癌の手術を受ける患者の看護過程を展開することが出来る(演習)
13回目	(目標④)胃癌の手術を受ける患者の看護過程を展開することが出来る(演習)
14回目	(目標④)大腸癌の手術を受ける患者の看護過程を展開することが出来る(演習)
15回目	(目標④)大腸癌の手術を受ける患者の看護過程を展開することが出来る(演習)
準備学習 時間外学習	(準備学習)臨床看護総論、成人看護学概論での復習とフィジカルアセスメントの復習を行っておくこと。 (時間外学習)看護過程の展開は講義時間だけでは習得できないため、復習と自分でのまとめを行う。
評価方法	態度・知識・技術を総合的に評価する 態度(10%):授業態度や演習への取り組み 知識(70%):筆記試験 技術(20%):課題提出状況
受講生への メッセージ	周手術期にある患者の看護は、様々な場面で活用することがあり、臨床実習にも関わってくる内容が多い領域です。 知識の修得を行い、実際に活用できるように学習を深めてください。

【使用教科書・教材・参考書】

<教科書>

ナーシング・グラフィカ 成人看護学④ 周術期看護 : 中島 恵美子(編集) 《メディカ出版》
メディカ出版 成人看護学実習ワークブック:山本佳代子(監修)

2024年度 授業概要

学 科 : 看護科

科目名 (英)	成人看護学方法論Ⅱ (回復期)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	白石 郁美
	General Nursing Methodology II	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
コース						開講区分	前期
						曜日・時限	金・3

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

リハビリテーション看護は、その対象を疾病や障害をもちながらも「生活する人」としてとらえ、看護の本質である「その人らしく生きること」を支援し、QOLを高めることを目指す。社会状況の変化の中ますます重要になるリハビリテーション看護の視点を養うことを学習の目的とする。

白石 郁美…看護師として5年間以上の実績がある

【到達目標】

疾患に適応していく過程とセルフケアを促進する看護について説明できる

<具体的目標>

- 目標①リハビリテーションの概要が説明できる
- 目標②リハビリテーションに用いられる主要な概念について説明できる
- 目標③リハビリテーションにおける倫理、法律、施策について説明できる
- 目標④チームアプローチと看護の役割について説明できる
- 目標⑤身体機能のメカニズムとアセスメントについて説明できる
- 目標⑥心理・社会的なアセスメントと援助について説明できる
- 目標⑦生活の再構築へのアセスメントと援助について説明できる
- 目標⑧回復期にある対象に応じた看護過程の展開ができる

授業計画・内容

1回目	(目標①)リハビリテーションとは何か自分の考えを述べる事ができる (目標①)リハビリテーションの歴史、領域、看護について説明できる
2回目	(目標②)リハビリテーションで用いられる主な概念(ICF、生活モデル、セルフケア、QOL、ノーマライゼーション、エンパワメント、コーピング、自己効力、レジリエンス)について説明できる
3回目	(目標③)「障害者とは」について自分の考えを述べる事ができる (目標③)障害者の権利、支える法律、サービスについて説明できる
4回目	(目標④)リハビリテーション関係職種によるチームアプローチについて説明できる (目標④)チームアプローチのための情報共有と看護師の役割について説明できる
5回目	(目標⑤)身体機能(呼吸、循環、運動、栄養)のメカニズムおよびアセスメントについて説明できる
6回目	(目標⑤)身体機能(排泄、性、高次脳機能、視覚、聴覚、疼痛)のメカニズムおよびアセスメントについて説明できる
7回目	(目標⑥)心理・社会的(肯定的な自己概念、家族、社会の態度、居住環境)なアセスメントと援助について説明できる
8回目	(目標⑦)生活の再構築への(生活の再構築、ICF、)アセスメントと援助について説明できる(演習)
9回目	(目標⑧)慢性閉塞性肺疾患の看護過程が展開できる(演習)
10回目	(目標⑧)急性心筋梗塞患者の看護過程が展開できる(演習)
11回目	(目標⑧)下肢切断患者の看護過程が展開できる(演習)
12回目	(目標⑧)脊髄損傷患者の看護過程が展開できる(演習)
13回目	(目標⑧)高次脳機能障害患者の看護過程が展開できる(演習)
14回目	(目標⑧)筋委縮性側索硬化症患者の看護過程が展開できる(演習)
15回目	(目標⑧)関節リウマチ患者の看護過程が展開できる(演習)

準備学習
時間外学習

課題やレポートはその都度指示します。予習、復習をしてひとつひとつしっかり理解してください。

評価方法

知識(70%):筆記試験
態度(30%):レポート、出席、参加態度
総合的に評価

受講生への
メッセージ

日本では2025年に戦後生まれの団塊世代が後期高齢者になり、超高齢社会になると言われています。また、若くして事故や疾病によって機能障害を負い、他者の支援を必要とする人も増えています。さらに障害をもちながらも自立して生活し、仕事やスポーツなどの活動、社会参加を積極的に行っている人もいます。最近では地域で生活している人も増えてきましたので、周囲に目を配りリハビリテーションの視点から世の中を見てみましょう。いろいろなことに疑問をもつことが学習のスタートです。

【使用教科書・教材・参考書】

<教科書>

ナーシング・グラフィカ 成人看護学⑤リハビリテーション看護 : 奥宮 暁子(著, 編集)、石川 ふみよ(編集)、金城 利雄(編集) <メディカ出版>
メディカ出版 成人看護学実習ワークブック:山本佳代子(監修)

2024年度 授業概要

学科： 看護科

科目名 (英)	成人看護学方法論Ⅲ (慢性期)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	福本 加津美
	General Nursing Methodology Ⅲ	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30	実務経験	○
コース					1	開講区分	前期
						曜日・時限	金・4

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

慢性疾患をもつ対象者は、生活上の自己管理能力が求められる。そのため、生活の再構築が必要な対象者の健康障害について理解し、その支援をするための看護実践について学ぶ。

福本 加津美・・・看護師として20年間以上の実績がある

【到達目標】

疾患を受け入れ、自己管理に向けての教育をすることの必要性を理解し看護のありかたを学ぶ

＜具体的目標＞

- 目標①慢性疾患がその人の人生に及ぼす影響について理解できる
- 目標②慢性疾患を有する対象の身体的、社会的側面から捉え、セルフコントロールを必要とする人の看護を理解できる
- 目標③疾患に適応していく過程の特徴とセルフケアを促進する看護を理解できる
- 目標④慢性疾患を有する人とその家族への看護を理解できる

授業計画・内容

1回目	セルフマネジメントの構成要素、主要概念、看護職の責任・能力、援助で障害になることについて説明できる
2回目	セルフマネジメントのための対象理解について説明できる
3回目	成人教育学、エンパワメントモデル、自己効力理論、コミュニケーション理論について説明できる
4回目	(目標①④)対象理解について説明できる
5回目	(目標③)援助方法について説明できる
6回目	(目標②)評価のしかたについて説明できる(時期、目標と行動、次の計画につなげる)
7回目	(目標②③)糖尿病とともに生きるセルフマネジメントのために必要な援助の一部(簡易血糖測定、食事指導)が実践できる(演習)
8回目	(目標②③)腎不全とともに生きるセルフマネジメント支援について説明できる
9回目	(目標②③)慢性呼吸不全とともに生きるセルフマネジメント支援について説明できる
10回目	(目標②③)肝硬変とともに生きるセルフマネジメント支援について説明できる
11回目	(目標③④)がんとともに生きるセルフマネジメント支援について説明できる
12回目	(目標②③)慢性心不全とともに生きるセルフマネジメント支援について説明できる
13回目	(目標②③)エイズとともに生きるセルフマネジメント支援について説明できる
14回目	(目標②③)難病とともに生きるセルフマネジメント支援について説明できる
15回目	(目標①④)死が近づいた人のセルフマネジメント支援について説明できる
準備学習 時間外学習	(目標①)対象者の発達段階、発達課題について予習が必要です (目標②)対象者を全人的側面から理解するための予習が必要です (目標③)疾患についてや、セルフケアの必要性について理解するための予習が必要です (目標④)疾患を有する人と家族の関係について理解するための予習が必要です
評価方法	筆記試験(70%) 課題レポート、出席、参加態度(30%) 総合的に成績評価を行う
受講生への メッセージ	成人が何らかの慢性的な病をもったときに、生活者としてどのように病気と家庭生活、社会生活の折り合いをつけて、自分らしく生きていけるかを考えなければなりません。それにはどのような支援が必要となるかを考察する科目です。予習をして疑問点を明らかにして授業に臨んでください。 授業内課題については、授業内でフィードバックします。(レポート提出)

【使用教科書・教材・参考書】

＜教科書＞

ナーシング・グラフィカ 成人看護学③ セルフマネジメント：安酸 史子(編集)、吉田 澄恵(編集)、鈴木 純恵(編集) 《メディカ出版》
メディカ出版 成人看護学実習ワークブック:山本佳代子(監修)

2024年度 授業概要

学 科 : 看護科

科目名 (英)	成人看護学方法論IV (終末期)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	村上 志歩美
	General Nursing Methodology IV	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
コース						開講区分	前期
						曜日・時限	水.3.4

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

緩和ケアは、WHOによって「生命を脅かす疾患による問題に直面している患者とその家族に対して、痛みやその他のその他の身体的問題、心理社会的問題、スピリチュアルな問題を早期に同定し、適切な評価と治療によって、苦痛の予防と緩和を行うことで、クオリティ・オブ・ライフを改善するアプローチである」と定義されている。以前は「ターミナルケア」ともいわれ、終末期に行われるケアが主体であったが、現在では早期からの緩和ケアの重要性が叫ばれ、その焦点も、死にゆく患者のケアから苦痛の緩和に移ってきた。緩和ケアは、基本的緩和ケアと専門的緩和ケアに分類されるが、本授業ではがん医療に携わるすべての医療者に必要とされる基本的緩和ケアについて学び、必要とされる看護について説明ができるようになることをめざす。

村上 志歩美…看護師として10年以上の実績がある

【到達目標】

緩和ケアを必要とする患者の全人的苦痛を学習し、緩和ケアに必要な看護について理解することができる

<具体的目標>

- 目標①緩和ケアの概要について説明できる
- 目標②患者の持つ全人的苦痛について説明できる
- 目標③患者の意思決定支援とコミュニケーションについて説明できる
- 目標④在宅緩和ケアと家族ケアについて説明できる
- 目標⑤生命倫理と非がん疾患の緩和ケアについて説明できる

授業計画・内容

1回目	(目標①)がん患者が抱える苦痛とQOLについて説明できる 緩和ケアとは何か説明できる
2回目	(目標①)身体症状とその治療・看護について説明できる
3回目	(目標①)身体症状とその治療・看護について説明できる
4回目	(目標②)精神症状・社会的ケアとその治療・看護について説明できる
5回目	(目標②)スピリチュアルケアについて説明できる
6回目	(目標②)意思決定とコミュニケーションについて説明できる
7回目	(目標③)意思決定とコミュニケーションについて実践できる(演習)
8回目	(目標③)意思決定とコミュニケーションについて実践できる(演習)
9回目	(目標④)在宅緩和ケアについて説明できる
10回目	(目標④)家族ケアについて説明できる
11回目	(目標⑤)生命倫理について説明できる 生命倫理の4原則について説明できる
12回目	(目標⑤)非がん疾患の緩和ケアについて説明できる
13回目	(目標⑤)非がん疾患の緩和ケアについて説明できる
14回目	(目標②④⑤)がん終末期の症状と全身状態について説明できる
15回目	(目標②④⑤)臨死期のケアについて説明できる 臨終後のケアについて説明できる

準備学習 時間外学習	成人看護学概論、臨床看護総論を基盤として専門性を深める科目です。復習をしっかり行っておいてください。緩和ケアに関して新たな専門用語が出てきます。予習として調べておきましょう。
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------

評価方法	出席・態度・知識・技術を総合的に評価します 出席(10%) 態度(10%):授業への取り組みや提出物、実技 知識(80%):筆記試験
------	-----------------------------------------------------------------------------

受講生への メッセージ	緩和ケアは、終末期やがん患者に限定されたものではなく今日ではすべての患者に必要とされています。普段から社会状況やがん患者のおかれた状況などに興味を示して情報を集めてください。
----------------	-----------------------------------------------------------------------------------------

【使用教科書・教材・参考書】

<教科書>

ナーシング・グラフィカ 成人看護学⑥ 緩和ケア : 宮下 光令(著、編集) 《メディカ出版》

2024年度 授業概要

学 科 : 看護科

科目名 (英)	成人看護学方法論V (救急看護)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員 実務経験	深梅圭二 ○
	General Nursing Methodology V	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 1	開講区分 曜日・時限	前期

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
 重篤で急激に変化する対象の状態を科学的な視点でアセスメントし、生命維持に必要な看護技術を習得する。
 救急看護の概念を理解する。救急看護の基礎知識と技術を理解できる。救急医療における初期対応の本質が理解できる。重症救急患者の集中治療看護が理解でき説明ができる
 深梅圭二…看護師として20年以上の実務経験あり。

【到達目標】
 1.急病・けが・災害など、急に身体の疾患または損傷を受けた人々を対象に診療する医療であることを習得する
 2.救急処置、医療行為の介助、生活行動援助、精神的サポートなどの看護活動であることを学び場所・疾患・臓器・対象の発達段階・診療科・重症度を問わず実践される看護であることを修得する
 <具体的目標>
 目標①緊急時の対応(BLS)を身に付ける
 目標②救急医療と搬送システムにおける看護師の役割が説明できる
 目標③救急医療の蘇生の基本が説明できる
 目標④救急医療の倫理が説明できる
 目標⑤救急医療の処置・トリアージが説明できる
 目標⑥救急医薬品が説明できる

授業計画・内容	
1回目	(目標①)BLSを説明できる
2回目	(目標①)BLSを実施できる(演習)
3回目	(目標②)救急医療における対象の理解と看護師の役割について理解できる
4回目	(目標②)救急医療体制について説明できる 救急搬送システムが説明できる
5回目	(目標②)初期・第二次救急医療を理解し看護師の役割が説明できる
6回目	(目標②)第三次救急医療を理解し看護師の役割が説明できる
7回目	(目標③)救命の連鎖(チェーン・オブ・サバイバル)が説明できる
8回目	(目標③)蘇生の基本 ABCDE アプローチが説明できる
9回目	(目標④)救急看護と法的・倫理的側面について説明できる
10回目	(目標④)絶対的医療行為と相対的医療行為が説明できる
11回目	(目標⑤)周囲の状況確認とスタンダードプリコーションが説明できる
12回目	(目標⑤)救急処置 救急患者のトリアージrough survey (A・B・C・D・E)とhead to toeが説明できる
13回目	(目標⑤)意識・呼吸・循環 フィジカルアセスメントが説明できる
14回目	(目標⑤)救急救命処置 心肺蘇生・気管内挿管の介助が説明できる
15回目	(目標⑥)救急時に使用される医薬品が説明できる
準備学習 時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 授業中に次回授業について教科書の該当ページを指示する。指定したページを理解すること 事前課題について、講義前にレポート課題を出す(課題等に関するフィードバック) 提出された課題について講義の中にとりあげ、振り返りをする 講義中に疑問が生じた時には、あいまいにせず確認する
評価方法	出席・態度・知識・技術を総合的に評価します 出席(10%) 態度(10%):授業への取り組みや提出物 知識(80%):筆記試験
受講生への メッセージ	「命を救い、生を支える」救急処置、医療行為の介助、生活行動援助、精神的サポートなどの看護活動のことである。 場所・疾患・臓器・対象の発達段階・診療科・重症度を問わず実践される看護である。救急医療においては身に付けるべき能力の一つです。
【使用教科書・教材・参考書】	
<教科書> ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術 : 志岐 康子(編集)、習田 明裕(編集)、松尾 ミヨ子 <<メディカ出版>>	

2024年度 授業概要

学 科 : 看護科

科目名 (英)	老年看護学概論 Introduction to Geriatric Nursing	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	奥畑 幸一郎
		授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	15 1	実務経験	○
コース						開講区分	前期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

治療を必要とする高齢者だけでなく、生涯ともに生きる高齢者、終末期にある高齢者など、さまざまな健康レベルにある高齢者を対象に広い視野を持ち、住宅環境から地域まで見渡し、ニーズを見出していく必要性があります。
高齢者の多様で個性の高いニーズを把握し、援助の方策を考えるためには、老いをや老年期の役割・発達段階を理解し、高齢者の尊厳を大切にしたいうえで関わる事が重要となります。この授業ではそのための基礎的な知識と技術を学習します。

奥畑幸一郎…看護師として10年以上の経験を有する

【到達目標】

老年期の特徴を理解し、社会構造の変化や高齢社会における健康問題の動向と看護の役割の概要を理解する。

<具体的目標>

- 目標①老年期の特徴を説明できる
- 目標②加齢に伴う心身の変化と特徴を説明できる
- 目標③老年期にある対象の尊厳と権利擁護について説明できる
- 目標④老年看護の機能と役割について説明できる

授業計画・内容

1回目	(目標①)老年期の特徴について説明できる
2回目	(目標②)加齢に伴う身体機能の生理的变化について説明できる
3回目	(目標②)加齢に伴う身体機能の生理的变化について説明できる
4回目	(目標②)加齢に伴う身体機能の生理的变化について説明できる
5回目	(目標②)加齢に伴う心理・精神機能の変化について説明できる
6回目	(目標③④)高齢者看護の特性について説明できる
7回目	(目標③④)高齢者看護の特性について説明できる
8回目	(目標②)加齢に伴う心理・精神機能の変化について説明できる
準備学習 時間外学習	前提:老年方法論で実際の看護を考えていく必要があり、概論を理解していないと方法論も難しくなりますので復習を十分行うように。 (目標①)老年期の特徴は多いため、どのような特徴があるのか予習しておいてください。 (目標②)認知機能低下・せん妄・うつについてそれぞれ特徴を予習しておいてください。 (目標③)それぞれの理論家の特徴について復習し、まとめておいてください。 (目標④⑤)老年看護の役割について自身の言葉で表現できる。(レポート提出)
評価方法	筆記試験(80%) レポート(20%)
受講生への メッセージ	現在、医療を受ける対象者のほとんどが高齢者になっています。また、高齢化が進み、高齢者の特徴も多様化しており、老年看護学は医療場のほとんどで活かされる能力です。 体調管理には気を付けて欠席しないように注意して下さい。

【使用教科書・教材・参考書】

<教科書>

- ナーシング・グラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害 : 堀内 ふき(著, 編集)、大淵 律子(著, 編集)、諏訪 さゆり(著, 編集) <メディカ出版>
- ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者の健康と実践 : 堀内 ふき(著, 編集)、大淵 律子(著, 編集)、諏訪 さゆり(著, 編集) <メディカ出版>

2024年度 授業概要

学 科 : 看護科

科目名 (英)	老年看護学方法論 I	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	奥畑 幸一郎
	Geriatric Nursing Methodology I	授業 形態	講義 GW	総時間 (単位)	15 1	実務経験	○
コース						開講区分	前期
						曜日・時限	
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>治療を必要とする高齢者だけでなく、生涯ともに生きる高齢者、終末期にある高齢者など、さまざまな健康レベルにある高齢者を対象に広い視野を持ち、住宅環境から地域まで見渡し、ニーズを見出していく必要性があります。 地域で生活する高齢者を取り巻く医療について、その実際を学び高齢者が地域でどのような生活を行っているか理解することで病院と地域、地域と生活の場を意識した高齢者看護の在り方を理解することを目指します。</p> <p>奥畑幸一郎…看護師として10年以上の経験を有する</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>高齢者を取り巻く生活・療養の場における看護や介護、社会保障の在り方について理解できる</p> <p><具体的目標></p> <p>目標①高齢者をとりまく社会状況について説明できる 目標②高齢者が生活する場の特徴について説明できる 目標③高齢者を支える社会制度の全体像について説明できる 目標④高齢者看護の基本について説明できる 目標⑤高齢者のヘルスプロモーションについて説明できる</p>							
授業計画・内容							
1回目	(目標①③) 高齢者をとりまく社会について説明できる						
2回目	(目標②③) 長期療養施設・在宅の看護について説明できる						
3回目	(目標④) 高齢者看護の特性について説明できる						
4回目	(目標④) 高齢者看護における倫理について説明できる						
5回目	(目標④) 高齢者看護におけるチームアプローチについて説明できる						
6回目	(目標④) 高齢者のリスクマネジメントについて説明できる						
7回目	(目標⑤) 高齢者のヘルスプロモーションについて説明できる						
8回目	(目標⑤) 認知症への取り組み						
準備学習 時間外学習	<p>前提: 在宅看護や医療福祉施設での看護は今後の医療の基盤となります。看護師としての幹を太くするために積極的に学習を進めてください。 ・医療保健福祉施設の種類や違いについて、復習しまとめておいてください。</p>						
評価方法	<p>筆記試験(70%) レポート(30%)</p>						
受講生への メッセージ	<p>高齢者を支える看護と制度は密接な関係があります。法律や制度は難しいと感じるかもしれませんが少しずつがんばりましょう。 体調管理には気を付けて欠席しないように注意して下さい。</p>						
<p>【使用教科書・教材・参考書】</p> <p><教科書></p> <p>ナーシング・グラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害 : 堀内 ふき、大淵 律子、諏訪 さゆり <メディカ出版> ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者の健康と実践 : 堀内 ふき、大淵 律子、諏訪 さゆり <メディカ出版></p>							

2024年度 授業概要

学 科 : 看護科

科目名 (英)	老年看護学方法論Ⅱ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	入江 明日香
	Geriatric Nursing Methodology Ⅱ	授業 形態	講義 GW	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
コース						開講区分	前期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

高齢者の看護を実践するには、高齢者の特徴を理解したうえで疾患や障害との結びつきを理解する必要があります。高齢者の特徴とその看護、高齢者が受ける医療が高齢者に与える影響を考え、疾患を持つ高齢者の医療現場や療養現場での看護について学びます。また 高齢者の尊厳ある死を守るため自分自身の死生観を育み行動できるための素養を身につけます。

入江明日香…看護師として10年以上の実績がある

【到達目標】

老年期の対象を生活の観点から総合的にアセスメントし、援助するための基本的な看護技術を修得することを目指す

<具体的目標>

- (目標①) 高齢者の生活を支える看護について説明できる
- (目標②) 高齢者によくみられる疾患について説明できる
- (目標③) 高齢者に対するアセスメントが説明できる
- (目標④) 治療を受ける高齢者の看護について説明できる
- (目標⑤) 終末期の看護について説明できる
- (目標⑥) 認知症・うつ病・せん妄の看護について説明できる

授業計画・内容

1回目	(目標①③) 高齢者の生活を支える看護について説明できる 食生活を支える看護
2回目	(目標①③) 高齢者の生活を支える看護について説明できる 排泄を支える看護
3回目	(目標①③) 高齢者の生活を支える看護について説明できる 清潔・衣生活を支える看護
4回目	(目標①③) 高齢者の生活を支える看護について説明できる 活動と休息を支える看護
5回目	(目標①③) 高齢者の生活を支える看護について説明できる 歩行・移動を支える看護
6回目	(目標①②③) 高齢者の生活を支える看護について説明できる 呼吸・循環機能障害を支える看護
7回目	(目標①②③) 高齢者の生活を支える看護について説明できる その他高齢者に特徴的な症状・疾患を支える看護(高齢者のがん治療)
8回目	(目標⑥) 認知症高齢者の看護の概要について説明できる
9回目	(目標⑥) うつ病・せん妄の看護の概要について説明できる
10回目	(目標④) 薬物療法を受ける高齢者の看護について説明できる (目標④) 手術療法を受ける高齢者の看護について説明できる
11回目	(目標④) リハビリテーションを受ける高齢者の看護について説明できる (目標④) 行動制限を受ける高齢者の看護について説明できる
12回目	(目標④) 診察・検査を受ける高齢者の看護について説明できる (目標④) 入院・退院における高齢者の看護について説明できる
13回目	(目標⑤) 高齢者への終末期看護の実践について説明できる
14回目	(目標⑤) 高齢者への終末期看護の実践について説明できる
15回目	まとめ

準備学習
時間外学習

老年看護学概論で学習した内容を復習して授業に臨むようにしましょう。関連動画がある場合は視聴しましょう。予習においてはテキストの該当項を読んでください。各時間で小テストを行います。学習した内容を整理し、授業に臨み理解を深めましょう。

評価方法

筆記試験(80%)
レポート・課題・(20%) 高齢者の生活を支える看護に関するレポート課題

受講生への
メッセージ

老年看護の実践力につながる科目ですので積極的に学びを深め、今後の老年看護学実習で実践力を磨いてほしいと思います。体調管理には気を付けて欠席しないように注意して下さい。

【使用教科書・教材・参考書】

<教科書>

- ナーシング・グラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害 : 堀内 ふき、大淵 律子、諏訪 さゆり 《メディカ出版》
- ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者の健康と実践 : 堀内 ふき、大淵 律子、諏訪 さゆり 《メディカ出版》

2024年度 授業概要

学 科 : 看護科

科目名 (英)	老年看護学方法論Ⅲ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	入江 明日香
	Geriatric Nursing Methodology Ⅲ	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
コース						開講区分	前期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

高齢者に多い疾患を学習することで実習に行った際の学びを深いものにすることができると考えます。また、疾患と結び付けることで高齢者看護の実際をイメージすることが出来ると思います。また、グループワークや発表を行うことで、学生の看護の視野を広げることができると考えます。
健康障害をもつ高齢者を全人的に理解しアセスメントし対象に合わせた看護を展開するための能力を養うことを目指します。

入江 明日香…看護師として10年間の実績がある

【到達目標】

高齢者を全人的に理解し、健康上の課題をアセスメントし個性をふまえた看護を立案することができる。

<具体的目標>

目標①健康障害をもつ高齢者および家族に対する看護の実際が説明できる

授業計画・内容

1回目	(目標①)慢性心不全の高齢者の看護の実際を考えることが出来る(情報提供・グループ間でアセスメント・ビジョンゴール作成)(演習)
2回目	(目標①)慢性心不全の高齢者の看護の実際を考えることが出来る(情報提供・グループ間でアセスメント・ビジョンゴール作成)(演習)
3回目	(目標①)慢性心不全の高齢者の看護の実際を考えることが出来る(情報提供・グループ間でアセスメント・ビジョンゴール作成)(演習)
4回目	(目標①)誤嚥性肺炎の高齢者の看護の実際を考えることが出来る(情報提供・グループ間でアセスメント・ビジョンゴール作成)(演習)
5回目	(目標①)誤嚥性肺炎の高齢者の看護の実際を考えることが出来る(情報提供・グループ間でアセスメント・ビジョンゴール作成)(演習)
6回目	(目標①)誤嚥性肺炎の高齢者の看護の実際を考えることが出来る(2グループ発表)(演習)
7回目	(目標①)認知症の高齢者の看護の実際を考えることが出来る(情報提供・グループ間でアセスメント・ビジョンゴール作成)(演習)
8回目	(目標①)認知症の高齢者の看護の実際を考えることが出来る(情報提供・グループ間でアセスメント・ビジョンゴール作成)(演習)
9回目	(目標①)認知症の高齢者の看護の実際を考えることが出来る(2グループ発表)(演習)
10回目	(目標①)脳梗塞の高齢者の看護の実際を考えることが出来る(情報提供・グループ間でアセスメント・ビジョンゴール作成)(演習)
11回目	(目標①)脳梗塞の高齢者の看護の実際を考えることが出来る(情報提供・グループ間でアセスメント・ビジョンゴール作成)(演習)
12回目	(目標①)脳梗塞の高齢者の看護の実際を考えることが出来る(2グループ発表)(演習)
13回目	(目標①)大腿骨頸部骨折の高齢者の看護の実際を考えることが出来る(情報提供・グループ間でアセスメント・ビジョンゴール作成)(演習)
14回目	(目標①)大腿骨頸部骨折の高齢者の看護の実際を考えることが出来る(情報提供・グループ間でアセスメント・ビジョンゴール作成)(演習)
15回目	(目標①)大腿骨頸部骨折の高齢者の看護の実際を考えることが出来る(2グループ発表)(演習)
準備学習 時間外学習	(目標①)高齢者に多い疾患(慢性心不全・誤嚥性肺炎・認知症・脳梗塞・大腿骨頸部骨折)の事前学習をし、グループワークで意見を出すことが出来るようにしておいてください。
評価方法	筆記試験(50%) 演習・発表(50%)
受講生への メッセージ	老年看護の実践力につながる科目ですので積極的に学びを深め、今後の老年看護学実習で実践力を磨いてほしいと思います。 体調管理には気を付けて欠席しないように注意して下さい。

【使用教科書・教材・参考書】

<教科書>

ナーシング・グラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害 : 堀内 ふき、大淵 律子、諏訪 さゆり <メディカ出版>
ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者の健康と実践 : 堀内 ふき、大淵 律子、諏訪 さゆり <メディカ出版>
成人看護学・老年看護学で使用した教材

2024年度 授業概要

学 科 : 看護科

科目名 (英)	小児看護学概論 Introduction to Pediatric Nursing	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	伊規須千春
	コース	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 1	実務経験	○
						開講区分	前期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

今日、子どもの生活習慣病の増加、こころの問題、思春期の子どもの自殺、育児不安、児童虐待など、子どもを取り巻く社会や家族に深く関わる子どもの健康問題が増加している。小児看護に携わる看護者は、権利を有する一人の人として子どもを尊重し、さまざまな健康レベルの子どもが社会の中で健やかに発達し生きていくことができるように、看護を提供していく必要がある。小児看護学概論では、子どもの権利の尊重、子供の発達の理解と発達段階、子どもにとっての家族について学習する。

伊規須千春…看護師として20年間以上の実績がある

【到達目標】

小児看護学で用いられる概念・理論について説明できる。

<具体的目標>

- 目標①小児看護の目的と対象について説明できる
- 目標②子どもとはについて説明できる
- 目標③子どもの権利について説明できる

授業計画・内容	
---------	--

1回目	小児とは (目標①)成長・発達の原則と影響因子について説明できる (目標①)小児看護の対象・目的について説明できる
2回目	小児看護とは (目標②)新生児期の子どもとその看護について説明できる
3回目	小児看護とは (目標②)乳児期の子どもとその看護について説明できる
4回目	小児看護とは (目標②)幼児期の子どもとその看護について説明できる
5回目	小児看護とは (目標②)学童期の子どもとその看護について説明できる
6回目	小児看護とは (目標②)思春期の子どもとその看護について説明できる
7回目	子どもの権利と看護 (目標③)小児医療の歴史と子どもの権利について説明できる
8回目	子どもの権利と看護 (目標③)小児と家族を取り巻く環境について説明できる

準備学習 時間外学習	授業の中で必要な課題やレポートなどは指示します。指示されたものは忘れないように持ってきてください。
---------------	---------------------------------------------------

評価方法	筆記試験(100%)
------	------------

受講生への メッセージ	自分の周囲にいる子どもを意識して注意深く観察してみましょう。 子どもに関する社会的問題(虐待や待機児童問題、少子化など)のニュースに興味を持ってみましょう。
----------------	-----------------------------------------------------------------------------------

【使用教科書・教材・参考書】

- <教科書>
ナーシンググラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 : 中野 綾美(編集) 《メディカ出版》

2024年度 授業概要

学 科 : 看護科

科目名 (英)	小児看護学方法論Ⅱ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	伊規須千春
	Pediatric Nursing Methodology Ⅱ	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30	実務経験	○
コース					1	開講区分	前期
						曜日・時限	水・1

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

今日、子どもの生活習慣病の増加、こころの問題、思春期の子どもの自殺、育児不安、児童虐待など、子どもを取り巻く社会や家族に深く関わる子どもの健康問題が増加している。小児看護に携わる看護師は、権利を有する一人の人として子どもを尊重し、さまざまな健康レベルの子どもが社会の中で健やかに発達し生きていくことができるように、看護を提供していく必要がある。小児看護学方法論Ⅱでは、小児の療養中に必要となる援助技術について学習する。

伊規須千春…看護師として20年間以上の実績がある

【到達目標】

小児の健康障害および健康障害が子どもやその家族に与える影響を理解し、健康状態に応じた看護について説明できる

<具体的目標>

- 目標①援助関係を形成する技術について説明できる
- 目標②安全・安楽な環境を調節する技術について説明できる
- 目標③日常生活援助技術(食事・排泄・清潔)について学んだことの一部が実践できる
- 目標④子どもへの処置(呼吸を整える、与薬)に必要な技術について説明できる
- 目標⑤救急救命の技術について説明できる
- 目標⑥症状・生体機能の管理技術について説明できる
- 目標⑦安全・安楽を確保する技術について説明できる

授業計画・内容

1回目	(目標①)援助関係を形成するうえで必要な基礎知識を説明できる (目標①)子ども・家族との援助関係を形成する技術について説明できる
2回目	(目標①)援助関係を形成する技術の活用について説明できる (目標①)子どもや家族との援助関係を形成する技術の活用について自分の考えを述べることができる
3回目	(目標②)子どもの視点に立った病院の物理的環境づくりについて説明できる (目標②)発達段階・睡眠と休息の観点からの環境づくりについて説明できる
4回目	(目標②)事故防止のための環境づくりについて説明できる (目標②)感染予防のための環境づくりについて説明できる
5回目	(目標③)子どもへの食事援助の実践について説明できる (目標③)子どもの健康状態に応じた食物・栄養摂取方法とケアについて説明できる
6回目	(目標③)おむつ交換と排泄自立への援助について説明できる (目標③)洗腸・導尿・ストーマケアの概要を説明できる
7回目	(目標③)沐浴・入浴・清拭について説明できる (目標③)洗髪・口腔ケア・衣服の交換について説明できる
8回目	(目標③)日常生活援助について(学内で)学んだことの一部が実践できる
9回目	(目標④)酸素療法・吸引・吸入について説明できる (目標④)体位ドレナージ、人工呼吸の管理、体温の調整について説明できる
10回目	(目標④)与薬に必要な基礎知識について説明できる (目標④)経口薬・座薬・注射・輸液管理・輸血管理について説明できる
11回目	(目標⑤)子どもにおける救急蘇生法および救急救命看護について説明できる (目標⑤)救急蘇生法の実際とその他の応急処置(気道異物、消化管異物・中毒、熱傷、溺水、熱中症、骨折)について説明できる
12回目	(目標⑥)子どものバイタルサインの測定について説明できる
13回目	(目標⑥)検体の採取(採血・尿採取・便採取)について説明できる (目標⑥)検査(心電図、パルスオキシメーター、腰椎穿刺、骨髄穿刺)に必要な看護について説明できる
14回目	(目標⑥)子どもの身体計測の方法が説明できる (目標⑦)安楽な体位を確保するための援助について説明できる
15回目	(目標⑦)処置やケアへの遊びの活用について学んだことと関連付けることができる (目標⑦)安全・安楽を考慮した行動制限について自分の考えを述べることができる

準備学習
時間外学習 授業の中で必要な課題やレポートなどは指示します。指示されたものは忘れないように持ってきてください。

評価方法 筆記試験(70%)
課題レポート(30%)

受講生への
メッセージ 自分の周囲にいる子どもを意識して注意深く観察してみましょう。
子どもに関する社会的問題(虐待や待機園児問題、少子化など)のニュースに興味を持ってみましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

<教科書>
ナーシンググラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 : 中野 綾美(編集) <メディカ出版>

2024年度 授業概要

学 科 : 看護科

科目名 (英)	母性看護学概論 Introduction to Maternity Nursing	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	前田 梓
		授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	15 1	実務経験	○
コース						開講区分	前期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

母性看護学は、女性の一生を通じた母性の健康の保持・増進を目指した看護を基盤として次世代の健全育成を目指す看護について学ぶ。看護学概論では、母性看護学の対象および目的について学習する。

前田梓…急性期病棟や集中治療棟で看護師として9年間、助産師として大学病院などの周産期センター、産婦人科クリニックなどで10年以上の実績がある

【到達目標】

母性を統合的に理解し、生活および健康問題に関わる援助の在り方について学んだことを説明できる

<具体的目標>

- 目標①母性看護の基盤となる概念について説明できる
- 目標②母性看護の対象について説明できる
- 目標③母性看護の対象を社会の変遷と状況について説明できる
- 目標④母性看護を取り巻く課題について説明できる

授業計画・内容

1回目	(目標①)母性・父性および親性の概念と考え方について説明できる (目標①)母子相互作用と家族発達について学び、女性・家族を中心としたケアについて説明できる (目標①)母性看護実践を支える概念や看護技術について説明できる
2回目	(目標②)リプロダクティブヘルス/ラインについて説明できる (目標②)セクシュアリティとジェンダーについて学び、性の多様な要素を説明できる
3回目	(目標②)性分化のメカニズムと性意識の発達について説明できる (目標③④)性的指向に関する世界と日本の動向を学び、性的少数者と家族への母性看護について説明できる
4回目	(目標③)出生に関する統計について説明できる (目標③)死亡に関する母子保健統計について説明できる
5回目	(目標③④)母性看護実践における倫理的・法的・社会的課題について説明できる
6回目	(目標③)子どもと女性の保護に関する法律、女性の就労に関する法律について説明できる (目標④)母子保健に関する法律を理解し、母性看護の実践の場で社会資源として活用する術を説明できる
7回目	(目標③)子育て支援に関する制度・施策について説明できる (目標③)周産期医療体制を学び周産期医療システムにおけるチーム医療について説明できる
8回目	(目標④)暴力・虐待防止に関する現状と法律について説明できる (目標④)性暴力を受けた女性と児童虐待の看護について説明できる

準備学習
時間外学習
課題はその都度指示します。興味のある人は、先を進めてください。

評価方法
終講試験(60%)
小テスト、課題レポート(30%)
授業態度(10%)

受講生への
メッセージ
母性看護学は生物の起源であり現在・未来の根源となる学問です。自分自身や自分をこれまで支えてくれた人々の存在に感謝し、これからの自分の生き方、看護師としての生き方を考えるきっかけになってもらえたらうれしいです。一緒に広く多様な柔軟な視野をもって母性看護学を楽しく学んでいきましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

<教科書>
ナーシンググラフィカ 母性看護学①概論・リプロダクティブヘルスと看護 《メディカ出版》

2024年度 授業概要

学科： 看護科

科目名 (英)	精神看護学概論 Introduction to Mental Health Nursing	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	粒崎一典
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 1	実務経験	○
コース						開講区分	前期
						曜日・時限	金1~4

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

精神看護学は、心の問題を有する苦悩を理解し、生きることを支えることであり、また心の健康時の援助と、心の健康が障害された時の回復への援助をすることが必要である。そのため、精神看護学を学ぶため、心の健康、心の発達、働きについて理解し、人間の人生の過程で生じる心の問題に対する看護を学習を理解する。精神看護学概論では、精神看護学の位置づけを明確にしたうえで対象の理解、看護の機能と役割を理解でき、本授業終了時には各々の説明ができるようになる。

粒崎一典…看護師として20年間以上の実績がある

【到達目標】

精神看護の概要、精神看護の対象となる人の心について理解し健康のレベルと障害の関連や精神の不健康状態について説明できる

<具体的目標>

- 目標① 精神看護の目的・意義が説明できる
- 目標② 精神看護の対象が説明できる
- 目標③ 精神看護の機能と役割が説明できる
- 目標④ 看護の倫理と人権について説明できる

授業計画・内容	
1回目	(目標①③)精神障害についての基本的な考え方について説明できる
2回目	(目標①②③)人間のこころと行動について説明できる
3回目	(目標①②③)人間のこころと行動について説明できる
4回目	(目標②)人格の発達と情緒体験について説明できる
5回目	(目標②)ライフサイクルとメンタルヘルスについて説明できる
6回目	(目標②③)現代社会とこころについて説明できる
7回目	(目標②)家族とその支援について説明できる
8回目	(目標③④)看護の倫理と人権擁護について説明できる
準備学習 時間外学習	学習は自分自身の人格的成長とメンタルヘルスとに密接に関係することから、学習効果を高めるためには予習が必要です。 目標①精神看護の基本的な考えである精神障がいや人のこころの様々な視点から理解する予習が必要です 目標②③精神看護の対象は個人だけでなく家族、職場、地域なども含まれることを理解する予習が必要です 目標④精神科医療における倫理問題について予習が必要です。
評価方法	筆記試験(80%) レポート提出(10%) 授業への参加及び学習状況(10%) から総合的に評価する
受講生への メッセージ	この精神看護学概論は精神看護学を学んでいくための入口的な科目です。 まずは皆さんの生活で起こっている身近なこころの健康やこころの危」から学んでいきましょう。日本の精神保健医療福祉の歴史的背景や現状と課題や、支援対象者の人権や安全を守る仕組みを学びましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
<教科書> ナーシング・グラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本、メディカ出版	
<参考書> 精神看護学ノート 第2版 : 武井麻子 《医学書院》	

2024年度 授業概要

学 科 : 看護科

科目名 (英)	精神看護学方法論 I Mental Health Nursing Methodology I	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	粒崎 一典
	コース	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 1	実務経験	○
						開講区分	前期
						曜日・時限	金1~4

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

精神看護学は、心の問題を有する苦悩を理解し、生きることを支えることであり、また心の健康時の援助と、心の健康が障害された時の回復への援助をすることである。そのため、精神看護学を学ぶため、心の健康、心の発達、働きについて理解するが必要であり、人間の人生の過程で生じる心の問題に対する看護を学習することが必要です。

精神看護学方法論 I では心の問題に焦点を当て、心の機能、発達について理解し、ライフステージ各期の段階での問題の対処について学び、精神保健の機能、役割について説明が出来るようになる。

粒崎 一典…精神科の看護師として20年間以上の実績がある

【到達目標】

精神障害者の人権を守り、地域生活を支えていくための施策を説明することができる

< 具体的目標 >

目標①精神保健・医療にかかわる歴史及び制度について説明できる

目標②精神保健・医療・福祉チームの中での連携や協働の重要性を理解し、看護の役割を説明できる

授業計画・内容

1回目	(目標①)精神医療の歴史と看護について説明できる
2回目	(目標①)精神医療の歴史と看護について説明できる
3回目	(目標①)精神保健医療福祉をめぐる法律について説明できる
4回目	(目標①)精神保健医療福祉をめぐる法律について説明できる
5回目	(目標②)精神保健活動とリハビリテーションについて説明できる
6回目	(目標②)精神保健活動とリハビリテーションについて説明できる
7回目	(目標②)ストレスマネジメントと精神科における看護師の役割について説明できる
8回目	(目標②)ストレスマネジメントと精神科における看護師の役割について説明できる
準備学習 時間外学習	精神障害者の人権を守り、地域生活を支えていくための施策を理解し学習効果を高めるために予習が必要です。 目標① 精神保健・医療・福祉チームの中での連携や協働の重要性を理解し、看護の役割を理解する予習が必要です。 目標②精神科で働く看護師自身のメンタルヘルスケアについて予習が必要です。
評価方法	筆記試験(80%) レポート提出(10%) 授業への参加及び学習状況(10%) から総合的に評価する
受講生への メッセージ	精神保健上の問題が生活と生き方に与える影響を理解し基本的な関わり方を学習する。 また精神医療に関わる人権擁護、倫理について学びましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

<教科書>

ナーシング・グラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本、メディカ出版

<参考書>

精神看護学ノート 第2版 : 武井麻子 《医学書院》

2024年度 授業概要

学科： 看護科

科目名 (英)	災害・国際看護 Disaster and International Nursing	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	岸 薫
		授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
コース						開講区分	後期
						曜日・時限	金・3

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

- ・災害看護についての基礎知識を養う
 - ・災害の定義、災害サイクル、災害の種類・特徴について理解できる。災害時に必要な技術を修得する。
 - ・国際看護活動に関心を持ち、国際的活動における看護師の役割について理解する。
 - ・人種や国籍をこえた、普遍的・専門的任務について理解する。
 - ・同じ地球に住む人間として、相互に関心を持ち、助け合う「人のこころ」について考えることができる。
- 岸薫…看護師として20年以上の実務経験がある

【到達目標】

- 1.近年多発する災害に対応できる看護の基礎知識を養うために災害サイクルに応じた看護の役割を学ぶ
- 2.災害看護における技術としてCSCATTTを学び、トリアージの方法の実習を行う。国や地域、民族間の保健医療・健康・看護の格差を一国の看護職だけで解決できない看護や保険上の問題を世界共通の看護課題として取り組む
- 3.保健医療・健康・看護の格差の現状の要因を検討し改善するための介入方法を探求する。文化・社会的な違いを理解し文化に適した最適な看護を探求することを学ぶ

<具体的目標>

- | | |
|----------------------------|----------------------|
| 目標①災害の定義と分類について理解できる | 目標⑤災害時のこころのケアが理解できる |
| 目標②災害医療に関する国の政策と法律を理解する | 目標⑥防災対策が理解できる |
| 目標③災害時のCSCATTT、トリアージが理解できる | 目標⑦国際看護学の定義・目的が理解できる |
| 目標④災害サイクルが理解できる | |

授業計画・内容

1回目	災害看護の概念を説明ができる
2回目	(目標①) 災害の定義を説明ができる
3回目	(目標①) 災害の種類と特徴を説明ができる
4回目	(目標②) 災害医療に関する国の政策と法律を説明ができる
5回目	(目標③) 災害時の医療救護活動の基本原則 CSCATTTと一次トリアージ(START法)・二次トリアージ(PAT法)および止血法を実施できる(演習)
6回目	(目標④) 災害サイクルを説明できる
7回目	(目標④) 災害サイクルに応じた看護を説明できる: ①災害発生時の看護 ②急性期の看護 ③亜急性期の看護 ④慢性期の看護 ⑤復興期の看護 ⑥静穏期の看護⑦準備期の看護
8回目	(目標④) 災害サイクルに応じた看護を説明できる:①救急医療と災害医療の相違②避難所・救護所での看護
9回目	(目標④) 災害サイクルに応じた看護を説明できる:災害弱者(要配慮者)への看護・子ども・妊産婦・高齢者・障害を持っている人びと
10回目	(目標④) 災害サイクルに応じた看護を説明できる:災害弱者(要配慮者)への看護を理解する 基礎疾患を持っている人々・日本語を話せない人びと 人道憲章と人道対応に関する最低基準 スフィア・プロジェクト
11回目	(目標⑤) 災害とこころのケア:①被災者の心のケアを説明できる (子ども・高齢者・遺族) ②救援者のストレスとストレスマネジメント
12回目	(目標⑦) アメリカの医療・看護について興味を持つことができる
13回目	(目標⑦) アメリカでの医療・看護の実際がわかる
14回目	(目標⑦) 日本とアメリカの医療・看護の違いについて説明できる
15回目	(目標⑦) 海外で活躍する看護師の話聞くことで、世界に目を向けることができる

- 準備学習
時間外学習
- ・授業中に次回授業について教科書の該当ページを指示する。指定したページを理解すること
 - ・事前課題について、講義前にレポート課題を出す (課題等に関するフィードバック)
 - ・提出された課題について講義の中にとりあげ、振り返りをする
 - ・講義中に疑問が生じた時には、あいまいにせず確認する

評価方法

授業への参加及び学習状況(30%)
テスト・レポート課題(70%)
から総合的に評価する

受講生への
メッセージ

災害時の防災・減災におけるチーム医療の中での看護師の役割を理解し、災害発生～災害急性期、亜急性期～慢性期、回復～復興期 までの全ての過程での救護活動に必要なスキルを学ぶ。また、大規模災害時に国際的視野に立った活動ができるスキルを学ぶ。
さらに、NBC 災害(nuclear、生物(biological)、化学物質(chemical))による特殊災害)に対する基本的知識・技術について理解する。
災害時の医療・看護活動の基盤となる法的根拠や災害対策および災害時の救護活動の方法を理解し刻々と変化する状況下で他職種と協働しながら被災者の状況や特性に応じた看護活動を展開するための基礎的知識・技術・態度について学習する。身に付けるべき能力の一つです。

【使用教科書・教材・参考書】

<教科書>

ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践③ 災害看護 : 酒井 明子(編集) 《メディカ出版》

2024年度 授業概要

学 科 : 看護科

科目名 (英)	医療安全	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	※1出森智子 ※2永田英子
	Workplace Health and Safty					実務経験	○
コース		授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 1	開講区分	後期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

セーフティマネジメントについて基礎能力を養う

※1…大学病院および総合病院において15年間セーフティマネジメントを行ってきた

※2…病院において、医療安全管理責任者および教育師長として院内のセーフティマネジメントを行ってきた

【到達目標】

1. 医療施設における医療安全を担保するため、関わる職業間の連携が理解できる
2. 医療安全とコミュニケーションについて理解できる
3. 患者への安全を高めるためのチームについて理解できる
4. 医療訴訟の実際を学ぶ

<具体的目標>

- 目標①医療安全を学ぶことの重要性について説明できる
- 目標②チーム医療と医療安全の重要性について説明できる
- 目標③医療安全に必要なことについてクラスで共有する
- 目標④医療安全管理者の業務内容が説明できる

授業計画・内容

1回目	医療事故とは・事故防止 (目標①)医療安全の考え方の変化について理解できる
2回目	医療過誤の成立条件 (目標①)ヒューマンエラーのメカニズムを、人間の基本特性とエラーを誘発しやすい環境との関係で説明できる
3回目	医療・看護行為の事故防止 (目標①)看護業務を行う際の環境の特徴を説明できる
4回目	医療事故と安全対策 (目標④)看護業務に関わる主な医療事故の背景、要因、対策について説明できる
5回目	(目標②)インシデントアクシデントの実際を理解できる
6回目	(目標②)インシデントレポートについて理解できる
7回目	(目標②)RCA分析が理解できる
8回目	(目標②)SHELL分析が理解できる
9回目	(目標②)ダブルチェックと方法を理解することが出来る
10回目	(目標②)日本医療安全調査機構報告を理解できる
11回目	(目標②)チームワークとコミュニケーションにうちて説明できる
12回目	(目標③)チームワークとコミュニケーション(チームビルディングゲーム)
13回目	(目標③)医療安全対策(転倒・転落)について説明できる
14回目	(目標③)医療安全対策(誤薬)について説明できる
15回目	(目標③)医療安全対策(認知症)について説明できる

準備学習
時間外学習 演習では、毎回ブリーフィング、でブリーフィングを実施します。
観察者、記録者、発表者を輪番制で選出してください。

評価方法 ※1(30%):課題レポート
※2(70%)内訳:3名1グループとなり、3Word動画を作成(動画に出演することで評価の対象となる)(50%)
デブリーフィングのレポート(10%)
課題レポート「患者の安全を担保するために必要なこと」(10%)
※60点に満たない場合は、筆記試験による再試験を実施する

受講生への
メッセージ 患者の安全を醸成するために私たちは何をしなければならぬのか、明確な答えを出せるようにしてください。

【使用教科書・教材・参考書】

※1<教科書>
講師準備

※2<教材>
講師準備

2024年度 授業概要

学 科 : 看護科

科目名 (英)	専門職連携学習	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	柴田 幸治 他
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	15 1	実務経験	○
コース						開講区分	後期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

各職種の特長性を高め、これからの地域社会を支える多職種協働を実現させるために、いくつかの専門職間で学習に取り組むことで「理解・共有」「展開・応用」「連携・協働」を目指す学習に取り組む。

柴田 幸治…看護師として10年以上の実績がある

【到達目標】

他職種の役割・機能の理解を深め、多職種連携について考えとともに看護師の役割を追求する

<具体的目標>

- 目標①各専門職の役割・責務について理解する
- 目標②1次救命の技術を修得する
- 目標③専門職間で対象者の目標を共有する

授業計画・内容

1回目	多職種連携の意義と学習目的 (目標①)看護職の専門性と役割を明確にする
2回目	【演習】 救急救命の技術を取得する
3回目	(目標①) CPR、トリアージについて学ぶ(緊急時の応援要請)
4回目	【演習】 理学療法士の視点から患者を捉え、看護実践に活かす
5回目	(目的②)事例を通して、理学療法士の役割・機能の理解を深め、多職種連携について考えとともに看護師の役割を追求する
6回目	【演習】 歯科衛生士の視点から患者を捉え、看護実践に活かす
7回目	(目的②)事例を通して、歯科衛生士の役割・機能の理解を深め、多職種連携について考えとともに看護師の役割を追求する
8回目	まとめ(発表)
準備学習 時間外学習	事例は予め看護計画を立案しておきましょう
評価方法	成果発表: (50%) 課題レポート:「専門職連携教育で学んだことを今後どう活かすか」(50%)
受講生への メッセージ	これまでの実習で学んだことをさらに深化してください

【使用教科書・教材・参考書】

<教科書>

なし

<講義資料>

ペーパーパシエントその他講師準備

2024年度 授業概要

学 科 : 看護科

科目名 (英)	看護の統合演習 I Final Practical	必修 選択	必修	年次	3	担当教員 実務経験	柴田 幸治 ○
		授業 形態	講義 演習 個人ワーク	総時間 (単位)	30 1	開講区分 曜日・時限	後期

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

既習の知識・技術を統合し対象の状態に応じた看護を実践する能力を養うことをめざす。具体的には、学んだ知識を統合して看護診断を活用し、看護計画の立案ができること、注射技術・救急処置技術に関する知識を想起するとともに実践可能となること、看護実践能力における自己の課題を明確にできることをめざす。

柴田 幸治…看護師として10年以上の実績がある

【到達目標】

既習の知識・技術を統合し対象の状態に応じた看護が実践できる

< 具体的目標 >

- 目標①看護診断の必要性が説明できる
- 目標②看護診断に必要な理論・知識が説明できる
- 目標③看護診断過程が実践できる
- 目標④看護事例を基にした看護過程の展開が出来る
- 目標⑤看護事例の展開に必要な事例検討を行うことが出来る
- 目標⑥看護実践能力における自己の課題を明確にできる

授業計画・内容	
1回目	(目標①)看護診断の特徴が説明できる (目標①)NANDA-Iの構造が説明できる
2回目	(目標②)看護診断選択時の基準・独自の介入とアウトカムについて説明できる (目標②)データ収集の基礎知識と枠組みが説明できる
3回目	(目標③)看護診断過程について説明できる
4回目	(目標③)診断指標、関連因子、危険因子の抽出ができる
5回目	(目標③)アウトカム設定と看護計画の概要を説明できる
6回目	(目標③)アウトカム設定と看護計画の立案ができる
7回目	
8回目	【演習】 シミュレーション学習 (目標④⑤)老年期にある対象の看護が実践できる(脳血管障害、大腿骨頸部骨折、終末期)
9回目	
10回目	
11回目	【演習】シミュレーション学習 (目標④⑤)成人期にある対象の看護が実践できる(人工呼吸器、心筋梗塞、胃がん)
12回目	
13回目	【演習】 シミュレーション学習 (目標④⑤)小児期にある対象に必要な看護過程の展開ができる(喘息、感染症、)
14回目	
15回目	(目標⑥)看護実践能力における自己の課題を明確にできる
準備学習 時間外学習	※1:【看護診断】看護診断ハンドブックの序説(P1~23)を読んで予習してください。 ※234:国家試験に向けて、事例を通してアセスメントし、これまでの実習および模擬試験を振り返りながら学習してください
評価方法	筆記試験(100%)
受講生への メッセージ	卒後の実践に必要な知識と技術です
【使用教科書・教材・参考書】	
< 教科書 > 看護診断ハンドブック : リンダ・J・カルペニート <医学書院> 教員配布資料	

2024年度 授業概要

学 科 : 看護科

科目名 (英)	看護の統合演習Ⅱ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	柴田 幸治
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	15 1	実務経験	○
コース						開講区分	後期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

実習での学びを既習知識と統合し国家試験問題と関連付けて学習をすすめ、看護師に必要とされる知識・技術・倫理観の修得を目指す

柴田 幸治…看護師として10年以上の実績がある

【到達目標】

実習における学びを既習知識と統合し看護師に必要とされる知識・技術の向上ができる

<具体的目標>

- 目標①看護の社会的側面および倫理的側面について説明できる
- 目標②看護の対象および看護活動の場と看護の機能について説明できる
- 目標③人体の構造と機能および健康障害と回復について説明できる
- 目標④看護技術に関する基本的知識・技術について説明できる

授業計画・内容

1回目	(目標①)健康の定義について説明できる (目標①)健康に影響する要因について説明できる
2回目	(目標①)看護で活用する社会保障について説明できる (目標①)看護における倫理について説明できる
3回目	(目標①)看護に関わる基本的法律について説明できる (目標②)人間の特性について説明できる
4回目	(目標②)人間のライフサイクル各期の特徴と生活について説明できる (目標②)看護の対象としての患者と家族について説明できる
5回目	(目標②)看護活動の場と看護の機能について説明できる (目標③)人体の構造と機能について説明できる
6回目	(目標③)主な疾患と徴候について説明できる (目標③)薬物の作用とその管理について説明できる
7回目	(目標④)看護における基本技術について説明できる (目標④)日常生活援助技術について説明できる
8回目	(目標④)患者の安全・安楽を守る看護技術について説明できる (目標④)診療に伴う看護技術について説明できる

準備学習 時間外学習

実習での学習をもう一度テキストや参考書と照らして知識を統合させることができるようにしましょう

評価方法

- ※10%:内訳 出席・授業態度(20%)、提出物(80%)
- ※90%:内訳 6回のまとめ試験の偏差値平均が42.0以上とする

受講生への メッセージ

国試前の大切な科目です。真剣に取り組みましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

<参考書>

- オープンセサミ 1～5 東京アカデミー
- レビューブック メディックメディア
- これで完璧！看護国試必修完全攻略集 啓明出版

2024年度 授業概要

学 科 : 看護科

科目名 (英)	コミュニケーションスキル Communication Skill	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	早田真樹
コース		授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	15 1	開講区分	前期
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) コミュニケーションの本質について学び、人格の形成及び人間関係の構築について理解し実践できるようになることを目指す。さらに授業内でグループワークやゲームを通じて他者との円滑なコミュニケーションを実践する。学びをブレインストーミング、KJ法などの手法を用いて意見をまとめ発表する。</p> <p>総合病院の患者サービスの担当及び責任者として10年間の実務経験がある</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>人間を人との関係で生き成長する存在ととらえ、人間関係を円滑に保つ必要とその方法について理解する</p> <p><具体的目標></p> <p>目標①送り手と受け手の対人的コミュニケーションにおける相互作用について多角的に理解できる 目標②人間関係の向上に役立つスキルについて体験し理解できる 目標③看護場面で直面する人間関係の基本的知識・技術を学び理解できる 目標④相手を思いやる感性やコミュニケーション能力を高めることができる</p>							

授業計画・内容	
1回目	コミュニケーションとは 目標①人とコミュニケーションについて説明できる
2回目	基本的対話スキル 目標①1対1の会話の基本と会話における心がけと方法について個人の考えを発表できる
3回目	基本的対話スキル 目標①②グループでの会話の基本と心がけについてグループで話し合いまとめを発表できる
4回目	人間関係を円滑にする表現技術 目標②人間関係を円滑にするための伝え方と基本について説明できる
5回目	仕事の上で必要とされる表現技術 目標③仕事上で必要とされる伝え方の基本と表現手段について説明できる
6回目	アンガーマネジメント 目標④トラブルのもととなる感情への対処についてグループでまとめたことを発表できる
7回目	社会的スキル 目標④社会的スキルの基本と対人行動における実践および文書作成について説明できる
8回目	サービスマインド 目標④サービスマインドの定義、基本要素について説明できる
準備学習 時間外学習	普段の人とのコミュニケーションについてフィードバックを行います。
評価方法	検定試験100%
受講生へのメッセージ	人との関りを意識して生活しましょう。
<p>【使用教科書・教材・参考書】</p> <p><教科書> コミュニケーションスキルアップ検定：滋慶教育科学研究所 《滋慶出版》</p>	

2024年度 授業概要

学 科 : 看護科

科目名 (英)	看護関係法規	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	平部 康子
						実務経験	×
コース	Medical Laws and Regulations	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 1	開講区分	前期
						曜日・時限	金・1

【授業の学習内容】 (※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

法の基礎知識並びに保健・医療関係法規を学び、看護専門職者としての法的役割と責任を明確にできる

【到達目標】

- 1.看護に関する法律について理解する
- 2.看護師としての責任を認識できる

<具体的目標>

目標①保健医療福祉と法のかかわり方について説明できる

目標②保助看法および医療チームを構成する各職種の法律について説明できる

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション 基本となる法規 (目標①) チーム医療にかかわる医療スタッフの法的な枠組みについて概観する
2回目	看護師/医師/その他の職種に関する法規 (目標①) 医療法の中の、医療提供の理念と医療安全に関する規定について学ぶ
3回目	薬物に関する法規 感染症予防に関する法規 (目標①) 薬物の使用についての基本的な概念と、感染先勝予防についての基本的な概念およびその理由を学ぶ
4回目	母子保健福祉/小児保健福祉に関する法規 (目標①) 母子および小児に関する法律について説明できる
5回目	高齢者・障害者・その他保健福祉に関する法規 (目標①) 看護が医療だけでなく人々のあらゆる生活場面で必要とされていることを想像力を飛ばたかせながら学ぶ
6回目	福祉・保険に関する法規 (目標②) 福祉・保険に関する法律について説明できる
7回目	労働衛生/環境・食品・公害・その他に関する法規 (目標②) 地域や空間に関する法律について説明できる
8回目	まとめ (目標②) 関係法規に関する看護師としての役割について学ぶ
準備学習 時間外学習	医療法、保助看法について予習して講義を受けてください
評価方法	筆記試験(80%) 小レポート(20%)
受講生への メッセージ	倫理学や総合医療論を想起させながら学んでください

【使用教科書・教材・参考書】

<教科書>

系統看護学講座 看護関係法令 健康支援と社会保障制度④ 森山幹夫 <医学書院>

2024年度 授業概要

学 科 : 看護科

科目名 (英)	社会福祉	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	木塚 大成
	Social Welfare	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30	実務経験	×
コース					2	開講区分	前期
						曜日・時限	月・1

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

社会福祉の理念、目標について理解し、法律や制度・施策の体系について学ぶ

【到達目標】

- 1.社会福祉の基礎を学ぶ
- 2.医療と社会福祉の連携、支援システムを学ぶ
- 3.社会人として社会情勢に関心を持ち、看護の対象となる人の生活との関連について理解する

<具体的目標>

- 目標①社会福祉・社会保障の目的や機能および歴史について説明できる
- 目標②社会福祉の実践方法、社会資源の活用方法について説明できる
- 目標③子ども、障がい者、高齢者などのライフサイクルに応じた諸制度、生活保護、地域福祉、社会保障制度について説明できる
- 目標④障害を持ちながら地域で生活するとはどういうことなのかを考察する

授業計画・内容

1回目	現代社会と社会福祉・社会保障 (目標①)社会福祉の概念について述べるができる
2回目	社会福祉・社会保障とは何か、社会福祉、社会保障の歴史 (目標①)社会保障や社会福祉の定義、その範囲や法体系、予算や規模などについて述べるができる
3回目	社会福祉の担い手と役割 (目標①)社会福祉の幅広い領域を説明することができる
4回目	社会福祉の実践方法 (目標②)社会福祉実践の目的と概念について述べるができる
5回目	社会資源の活用方法 (目標②)社会資源の意味とその活用方法について述べるができる
6回目	子ども・家庭と福祉、障害児・者と福祉 (目標③)子どもの権利について述べるができる
7回目	難病対策、高齢者と福祉 (目標③)これまでに行われた難病対策の取り組みについて述べるができる
8回目	公的扶助制度、生活保護における生活保障 (目標③)生活保護における生活保障のしくみと内容について述べるができる
9回目	生活困窮者対策と生活保護制度の見直し (目標③)生活保護の種類・範囲・方法について述べるができる
10回目	地域福祉の定義と理念、地域福祉計画 (目標③)地域福祉の定義と理念について述べるができる
11回目	社会福祉協議会、地域福祉推進の財源、保健・医療と福祉の連携 (目標③)社会福祉協議会について説明できる
12回目	年金制度、医療保険制度 (目標③)年金制度の意義としくみについて説明できる
13回目	介護保険制度、雇用保険制度 (目標③)介護保険制度のしくみと主なサービス内容について述べるができる
14回目	労災保険制度 (目標③)労災保険制度の概要と給付について説明できる
15回目	生活と福祉 (目標④)地域における福祉と保健・医療の連携について述べるができる

準備学習
時間外学習 自分や家庭に起こる身近な出来事が社会福祉や社会保障とどのようにつながっているのかを、事例を通して思い描いてください

評価方法 筆記試験(100%)

受講生への
メッセージ 患者からは医療ケアだけを求められているのではなく、臨床にあっても地域に生活する人としての視点を持つセンスが必要です

【使用教科書・教材・参考書】

<教科書>

ナーシンググラフィカ 健康支援と社会保障③ 社会福祉と社会保障 : 増田 雅暢、平野 かよ子、島田 美喜 <メディカ出版>

2024年度 授業概要

学 科 : 看護科

科目名 (英)	微生物学	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	吉岡 香絵
	Microbiology	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30	実務経験	×
コース					1	開講区分	後期
						曜日・時限	火3~4

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

感染症をなくすことはできないが、早期に治療して症状を軽減させたり、流行を拡大させないよう予防することは可能である。そのためには「病原体」を知り、「病原体と宿主(ヒト)との関係」を理解することが不可欠である。感染症にかかっている患者の体内において、身体は病原体とどのように闘い、排除しようとしているのかを理解し、その病原体の特徴、治療法や予防法などについて学習する。

吉岡香絵…大学病院で歯科医師として勤務、現在歯科大学で微生物の研究をしている

【到達目標】

微生物の分類や特徴を学び、人体に及ぼす影響および感染予防について説明できる

<具体的目標>

- 目標①宿主の臓器・組織別にみる感染症と病原体について説明できる
- 目標②宿主の因子が影響する感染症と病原体について説明できる
- 目標③感染症の分類と感染防御機構について説明できる
- 目標④感染・発症予防について説明できる
- 目標⑤感染症の検査・治療について説明できる

授業計画・内容

1回目	微生物と微生物学・細菌の性質 (目標①)真核生物と原核生物の構造上の違い、および最近の細胞構造の特徴について述べるができる
2回目	真菌の性質 (目標①)真菌細胞の構造の特徴を述べるができる
3回目	原虫の性質 (目標①)生物としての原虫の特徴を述べるができる
4回目	ウイルスの性質 (目標②)細菌と比較してウイルスの増殖の特徴を述べるができる
5回目	感染と感染症 (目標②)生体の防御機構と、病原体が感染するという現象を関連付けて述べるができる
6回目	感染に対する生体防御機構 (目標②)自己免疫の指雲にはどのようなものがあるか説明できる
7回目	感染源・感染経路から見た感染症 (目標③)病原微生物の感染源と感染経路を分類できる
8回目	滅菌と消毒 (目標③)滅菌と消毒の定義を述べるができる
9回目	感染症の検査と診断 (目標③)病原微生物の検査法の種類とその概要を述べるができる
10回目	感染症の治療 (目標④)化学療法を選択毒性について述べ、さらに抗菌薬と抗真菌薬の選択毒性の違いについて述べるができる
11回目	感染症の現状と対策 (目標④)標準予防策の考え方について述べるができる
12回目	病原細菌と細菌感染症 (目標④)細菌の特徴を理解し、どのような病気を引き起こすのかを述べるができる
13回目	病原真菌と真菌感染症 (目標⑤)真菌の特徴を理解し、どのような病気を引き起こすのかを述べるができる
14回目	病原原虫と原虫感染症 (目標⑤)原虫の特徴を理解し、どのような病気を引き起こすのかを述べるができる
15回目	病原ウイルスとウイルス感染症 (目標⑤)ウイルスの特徴を理解し、どのような病気を引き起こすのかを述べるができる
準備学習 時間外学習	感染について理解し、基礎看護技術に繋げてください
評価方法	筆記試験(100%)
受講生への メッセージ	医療施設には、感染源となる患者と、高齢者や基礎疾患を持つ感染しやすい別の患者が、同一空間にいます。両者に接触する医療従事者には、媒介感染を起こさないための知識と技術、そして細心の注意と順守が求められます。感染の制御は医療従事者の必須業務なのです。医療従事者1人の無知と無視が、他のすべての人の努力を無駄にしまいます。まず、相手が感染症の患者であろうとなかろうと、だれにでも、どこにでも、いつでも行う手指衛生(手洗いと手指消毒)を「魔法の習慣」にしましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

<教科書>

系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進④ 微生物学

2024年度 授業概要

学 科 : 看護科

科目名 (英)	臨床心理学	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	中島 俊介
	Clinical Psychology	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15	実務経験	×
コース					1	開講区分	後期
						曜日・時限	金・2

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

看護の対象は単なる生き物としての人間ではない。「心を成長させながら人生を全うするための」意味を求める人間である。その人生心理学ともいうべき人間の心理を臨床的に理解する。

中島 俊介…大学において、主に大学生を中心にカウンセリングを実施、

【到達目標】

- 1.臨床心理学の概要について理解する
- 2.アセスメントの概要を理解する
- 3.介入の様々な技法(森田療法など)のためのスキルを身に付ける
- 4.健康な人生の発達のな成り立ちと心構えについて理解を深める

<具体的目標>

- 目標①目的を見失わないライフスタイルについて考えを述べることができる
- 目標②あるがままの自分を生きることについて自分の考えをまとめることができる

授業計画・内容

1回目	胎児期・乳児期 (目標①②)様々な知識を得ることで、少しでも子供や興味関心を深め新たな認識と見識を得る
2回目	幼児期 (目標①②)ヒトにとって重要な力である「探求心・好奇心」を幼いころから伸ばしていくためにできることを考える
3回目	学童期 (目標①②)人格の中核を築き、社会に生きていくために必要な基礎能力を学ぶ初等教育の場に参入することについて自己の考えを述べるができる
4回目	思春期 (目標①②)躍動的な反面複雑な時期への対応について考える
5回目	青年期 (目標①②)「大人になることの難しさ」について自己の考えを述べるができる
6回目	若い成人期ー20代から30代まで (目標①②)よりよく生きるための「心の健康」とはどのようなものなのか、どのような態度とスキルで生きていけば幸せになれるのを考える
7回目	成人期ー30代から60代まで (目標①②)人生の荒波・困難に際して自己のライフスタイルをどう是正して、そしてうまく活用して幸せになるかを考えることができる
8回目	老年期 (目標①②)高齢化する現代の問題を認識し、高齢者の健康を支援する自己対象体験を詳細に検討する
準備学習 時間外学習	人間発達学の講義内容を想起して、繋げながら学んでください
評価方法	筆記試験(100%)
受講生への メッセージ	自己の生き方を見直し、看護師としての目的を見失わないようにしましょう

【使用教科書・教材・参考書】

<教科書>

心と人生 幸せのライフ・スタイルを求めて : 中島 俊介 《ナカニシヤ出版》

2024年度 授業概要

学科： 看護科

科目名 (英)	生化学	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	自見 英治郎
	Biochemistry	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30	実務経験	×
コース					1	開講区分	後期
						曜日・時限	金・1～2

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

実験室で観察する化学反応とは違い、生体内の化学反応はpHも温度も温和な条件で進む。また多様な種類の反応が同じ場所で同時に起こる。それでも混乱することなく、これらの化学反応により私たちの体は栄養分からエネルギーを取り出し、生体構成分子を合成し生命活動を行っている。生化学では、私たちの体がどのような物質から成り立っているか、それらの物質がどのように作られ、分解され、調節されて生命を維持しているのか学ぶ。

【到達目標】

人体の構成成分である化合物の性質と代謝について説明できる

<具体的目標>

- 目標①生体を構成する物質について説明できる
- 目標②生体内の物質代謝について説明できる

授業計画・内容

1回目	代謝総論 (目標①)生命活動にはエネルギーが必要であることを知る
2回目	生命維持に必要な栄養素の構造と性質1(細胞・糖質・脂質) (目標①)生命活動の場である細胞の基本的な構造と機能を理解し、生化学反応の場となる細胞小器官について知る
3回目	生命維持に必要な栄養素の構造と性質2(アミノ酸とタンパク質・核酸とヌクレオチド) (目標①)栄養素としての糖質、脂質、タンパク質、核酸の性質を理解し、これらの栄養素に関連する生命活動を支える物質について知る
4回目	生命維持に必要な栄養素の構造と性質3(ビタミン) (目標①)ビタミンの性質を理解し、生命活動における重要性について知る
5回目	酵素 (目標①)体の中で代謝の流れを作る酵素の働きを理解する
6回目	糖質代謝(糖質代謝の概要・解糖の仕組み・グリコーゲンの合成と分解、ペントースリン酸回路を経る代謝・糖新生・血糖の調節とホルモンの作用) (目標②)糖質の種類と基本構造、また、それぞれの役割、および血糖調節機構を理解する
7回目	脂質代謝(脂質代謝の役割と概要・脂質の消化・吸収と貯蔵・脂肪酸の分解) (目標②)脂質の種類と、それぞれの基本的な役割について理解する
8回目	脂質代謝(ケトン体の代謝・脂肪酸と脂肪の合成・コレステロールの代謝) (目標②)脂質は体内でどのように運搬されるのかを理解する
9回目	タンパク質とアミノ酸の代謝(タンパク質・アミノ酸の役割と概要・タンパク質の消化と吸収・アミノ酸の代謝) (目標②)タンパク質の消化吸収がどのように行われるのかを理解する
10回目	核酸・ヌクレオチド代謝(核酸の合成と分解の概要、核酸代謝異常を理解する。) (目標②)核酸の合成と分解がどのように行われるのかを理解する
11回目	エネルギー代謝の統合と制御 (目標②)肝臓、筋肉、先進の脂肪組織の代謝バランスとそれを制御するホルモンの作用を理解する
12回目	遺伝情報1 (目標②)遺伝情報が何に担われ、どのように保存されているのかを理解する
13回目	遺伝情報2 (目標②)転写・翻訳を理解する
14回目	先天性代謝異常について説明できる (目標②)遺伝子に異変が起こると、それが原因で代謝が正常に行われないことがあることを理解する
15回目	復習と試験対策 (目標②)これまでの講義内容を総復習することで本講義の全体像を理解する

準備学習
時間外学習 専門用語が多いので、事前にわからない言葉を調べておく授業中の理解が進みます。わからないことはそのままにせず、その都度質問するようにこころがけましょう。

評価方法 筆記試験(100%)

受講生への
メッセージ 病気を理解するうえで生化学の知識は必要です。私たちの身体が摂取したものをどのように消化・吸収し栄養分として活用するのか一緒に学びましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

<教科書>

ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能② 臨床生化学：宮澤 恵二 《メディカ出版》

2024年度 授業概要

学 科 : 看護科

科目名 (英)	倫理学	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	高田 熱美
	Ethics					実務経験	×
コース		授業 形態	講義	総時間 (単位)	15	開講区分	前期
					1	曜日・時限	金・1～2

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

人間の行為について学び、他人の問題ではなく、自分の問題として倫理をとらえることができる。

【到達目標】

- 1.倫理や道徳について自己の考えを述べることができる
- 2.集団社会における倫理について考えを述べるができる
- 3.倫理的側面から自己の課題について述べるができる

<具体的目標>

- 目標①人間性の教育について自己の考えを述べるができる
- 目標②教育路倫理の関係について考えを深めることができる

授業計画・内容

1回目	教育と倫理の開元 (目標①)教育と倫理の生成、その相補的な働きを社会生物学、動物行動学および化石人類学的知見から明らかにする
2回目	生きる力 (目標②)我が国の教育でいう生きる力とは何かを考え、意味を明らかにする
3回目	子どもと老人 (目標①)子どもと祖父母とのかかわりにおける教育及び人間学的意味を明らかにする
4回目	教育とケア (目標①)心のケアを要するとされている子どもとはいかなる存在であり、それはいかなり歴史・社会ないし教育的営為によって生まれてきたのかを明らかにする
5回目	道徳の教育 (目標①)道徳とは何か、教育的知見から説明できる。
6回目	ラッセルー人間の尊厳ー (目標②)哲学的知見から、人間の尊厳の問題について検討する
7回目	ラッセルー自由と規律ー (目標②)子どもの自由と規律、自然と文明について検討する
8回目	ホワイトヘッドー人間の尊厳ー (目標②)哲学的思考で、人間の尊厳についてパラダイムを示す

準備学習
時間外学習 高校で学んだ哲学を復習してください。

評価方法 筆記試験(100%)

受講生への
メッセージ 人と関わるうえで、物事の善し悪しについて常に考えられる医療者を目指してください。

【使用教科書・教材・参考書】

<教科書>

人間性の開元 : 高田 熱美 < 学術図書出版社 >

2024年度 授業概要

学 科 : 看護科

科目名 (英)	情報科学 Information Science	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	森田道稔
コース		授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	実務経験	×
						開講区分	後期
						曜日・時限	火・3～4
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 現代社会における情報システムの問題点認識とそれへの対応、メディアリテラシーとネットワークリテラシー、個人情報の管理や守秘義務など基本的概念を理解し、看護師として必要な情報処理技術をWord、Excel、PowerPoint を使い看護業務に役立つ知識と技術を事例を踏まえて習得する</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>看護師としての</p> <p>①情報システムの問題点認識とそれへの対応 ②ネットワークリテラシー、個人情報の管理と守秘義務 ③レポート作成や患者指導、論文作成に必要なワープロソフトウェアの基礎知識の習得 ④数値データ処理、グラフ作成、データベース処理操作を可能にする表計算ソフトウェアの基礎知識の習得 ⑤プレゼンテーションソフトウェアの習得と医療従事者のためのプレゼンテーションの基礎知識の習得</p>							
授業計画・内容							
1回目	【医療情報とモラル】プライバシー尊重と個人情報保護、守秘義務について						
2回目	【医療従事者としてのSNS利用】ネットワーク上のルール、マナーについて						
3回目	【キーボードの基礎・Windowsの基礎知識】						
4回目	【Wordの基礎知識1】Word概要、Wordの基本ツール、基本入力						
5回目	【Wordの基礎知識2】書式設定、文章の入力、保存、読み込み、印刷						
6回目	【Wordの応用1】院内通知文書作成の基礎知識・レポート作成の基礎知識						
7回目	【Wordの応用2】インフルエンザ予防ポスター作成						
8回目	【Wordの応用3】患者指導書作成の基礎知識						
9回目	【Excelの基礎知識1】Excel概要、Excelの基本ツール、基本入力						
10回目	【Excelの基礎知識2】資料を用いた表の作成と編集						
11回目	【Excelの応用1】医療現場でのExcel活用例・グラフ作成(グラフの種類と活用法)						
12回目	【PowerPointの基礎知識】PowerPoint概要、基本ツール、基本入力						
13回目	【PowerPointプレゼン資料作成】プレゼン資料作成の基礎知識						
14回目	【プレゼンテーション】医療従事者のためのプレゼンテーション						
15回目	【情報科学(まとめ)】						
準備学習 時間外学習	タイピングは日ごろから練習しておき、授業中の演習で遅れないようにすること						
評価方法	<p>受講日数、受講態度、提出課題、小テスト、タイピングテスト、演習問題による総合評価 割合は提出課題・小テスト・タイピングテスト・演習問題60%程度、その他、受講日数、受講態度、期待する成果項目ごとのポイント 評価40%程度</p>						
受講生への メッセージ	<p>スマホやパソコンを使って気になった情報や疑問に思ったことを検索するのは、もう日常生活の一部となっていると思います。これと同じように医療機関においても医療情報システム(電子カルテやオーダーリングシステムなど)があり多くの医療従事者が利用しています。この情報に関する基本的な知識やマナー、情報発信と医療現場における情報処理技術をこの講義で身につけて下さい</p>						
<p>【使用教科書・教材・参考書】</p> <p>「30時間でマスター Office 2019」実教出版 ISBN:978-4-407-34835-4</p>							

2024年度 授業概要

学 科 : 看護科

科目名 (英)	人間関係論 Human Relations	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	阪井 俊文
		授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	15 1	実務経験	×
コース						開講区分	前期
						曜日・時限	金・4

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

人間を人との関係で生き成長する存在と捉え、人間関係を円滑に保つ必要とその方法について理解する。

【到達目標】

1. 送り手と受け手の対人的コミュニケーションにおける相互作用について多角的に理解できる
2. 人間関係の向上に役立つスキルについて体験し理解できる
3. 看護場面で直面する人間関係の基本的知識・技術を学び理解できる
4. 相手を思いやる感性やコミュニケーション能力を高めることができる

< 具体的目標 >

- 目標① 人間関係を理解するための基礎となる心理学の概念や概観する
- 目標② 他者を理解し、人間関係をつくるために役に立つ理論や技法を習得する
- 目標③ 保健医療、とくに看護において、どのような人間関係が重要であり、どのような意味を持つのか、組織、地域社会といった背景を含めて考える

授業計画・内容

1回目	人間関係の中の自己と他者 (目標①) 人間関係を構成する自己と他者について、私たちが自分自身についての理解や意識をどのように持ち、他者をどのようにとらえているかを知る
2回目	対人関係と役割 (目標①) 他者との関係の形成や、それを維持または崩壊させようとする気持ちを知ることができる
3回目	コミュニケーション (目標②) コミュニケーションがどのような特徴を持ち、どのような機能を果たすのかを理解した上で、1対1、集団や組織、マスメディアやインターネットを通じたコミュニケーションについて考える
4回目	カウンセリングと心理療法 (目標②) カウンセリング、心理療法の種類とその方法を学び、看護に応用する
5回目	コーチング (目標②) コーチングスキルの種類とその方法を学び、実習や臨床で活かす
6回目	アサーティブコミュニケーション (目標②) 医療現場における様々な状況に対して、看護師としてアサーティブな対応を考える
7回目	保健医療チームの人間関係 (目標③) 職場(医療スタッフ間)でのコミュニケーションについて考える
8回目	患者を支える人間関係 (目標③) 患者とはどのような存在かを理解し、患者と医療者の関係の在り方を考える
準備学習 時間外学習	自己理解・他者理解について考えてください
評価方法	課題レポート(100%)
受講生への メッセージ	あらゆる人との関係の構築を目指してください

【使用教科書・教材・参考書】

< 教科書 >

系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 : 石川 ひろの 《医学書院》

< 参考書 >

患者を感動させるコミュニケーション技術 : 宗像 恒次 《ばる出版》

2024年度 授業概要

学 科 : 看護科

科目名 (英)	家族論 Sociology of the Family	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	阪井 俊文
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	15	実務経験	×
コース					1	開講区分	後期
						曜日・時限	金4

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

個々の人間にとって家族とは何か、社会にとって家族とは何かを理解し、家族・社会の特徴と課題を学ぶ

【到達目標】

1. 家族の構造・機能を含めて家族とは何かについて考えることができる
2. 夫と妻のパートナーシップ(夫婦関係論)について考えることができる
3. 親子関係での子育ての意味、母性、父性、祖父母論について考えることができる
4. 家族と社会について考えることができる

< 具体的目標 >

- 目標① 家族は、時代や社会によって異なる様相を呈する。21世紀社会の家族の在り方を考える
 目標② 専門援助者として、家族の変化にどのように対応すべきかを考える

授業計画・内容

1回目	家族看護の特徴と理念 (目標①) 家族看護をなぜ学ぶのかを臨床実践上のニーズ、家族イメージの視点から述べるができる
2回目	家族看護の実践の場面 (目標①) 家族看護が必要となる場面および家族のライフサイクルのつながりについて述べるができる
3回目	家族とは (目標①) 家族の定義、看護実践の対象としての家族について述べるができる
4回目	家族構造 (目標①) 家族構造の理解と構成要素について述べるができる
5回目	家族機能 (目標①) 家族機能の一つである社会機能について述べるができる
6回目	現代の家族とその課題 (目標②) 現代家族の課題について述べるができる
7回目	家族を理解するための理論 (目標②) 家族発達理論、家族のストレスについて説明できる
8回目	家族に変化をもたらすための介入 (目標②) 家族療養について説明できる
準備学習 時間外学習	自己の家族の在り方について考える機会としましょう
評価方法	課題レポート(100%)
受講生への メッセージ	疾患だけはおろか、患者だけを診る看護では不十分になる。病院における看護では、家族成員に、療養上必要な協力を得たり、患者の安心のために協同する必要があります。目の前にいる患者の家族は、普段どのような家族であるのか、そして現在どのような状況であるのかを把握したうえで看護することが必須です。

【使用教科書・教材・参考書】

< 教科書 >

系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 : 石川 ひろの 《医学書院》

2024年度 授業概要

学 科 : 看護科

科目名 (英)	文化人類学	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	中村 晋介
	Cultural Anthropoligy					実務経験	×
コース		授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 1	開講区分	後期
						曜日・時限	月・3

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

自分の住む社会の文化を理解するとともに世界の人々の様々な文化・生活・価値観を学び幅広い視野で人間をとらえることができる。

【到達目標】

- 1.人間の多様な生き方を社会や文化の側面を通して理解する
- 2.人間の健康・病気・治療の認識は文化によって規定されていることがわかる

< 具体的目標 >

- 目標①人間が生きる社会において、文化を多角的に捉える
- 目標②ハンセン病について学び病気と文化について考えを深めることができる

授業計画・内容

1回目	イントロダクション (目標①)文化人類学とは何か・人間と文化・歴史について考える
2回目	文化の進化と伝播 (目標①)個人・家族・社会・ライフサイクルの側面から文化を見つめる
3回目	宗教と世界観 (目標①)身体・病気・経済の側面から文化を見つめる
4回目	人間の死と文化 (目標①)人間の死を通して、人類の文化を多角的に捉える
5回目	ハンセン病問題 (目標②)ハンセン病についてわかる
6回目	ハンセン病の歴史 (目標②)ハンセン病患者が社会からどのようにみられていたか、そしてどのように変わってきたかがわかる
7回目	ハンセン病のこれから (目標②)現在のハンセン病患者の生活について分かる
8回目	まとめ これまでの講義を振り返り自己の考えをまとめることができる

準備学習
時間外学習

ハンセン病について、事前に学習しておいてください。

評価方法

課題レポート(100%)

受講生への
メッセージ

日本の歴史の中で、人類の文化がどのように変化してきたかを考えるとともに、これから人間が生きていくための文化を創造してください。

【使用教科書・教材・参考書】

< 教材 >
講師準備

2024年度 授業概要

学 科 : 看護科

科目名 (英)	社会学	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	中村 晋介
	Sociology	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 1	実務経験	×
コース						開講区分	後期
						曜日・時限	月・3

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

社会構造や人間と社会の関係とその相互作用を学び、人間の環境としての社会を理解する。

【到達目標】

- 1.物事を社会の中で多角的・批判的に捉えることができる
- 2.先人たちによって得られた社会に対する知識・見識・事象の成り立ちやあり方を理解する

<具体的目標>

- 目標①社会人・看護専門職者としての具体的な知識を身に付ける
- 目標②社会における看護という職業の位置づけを明らかにすることができる

授業計画・内容

1回目	(目標①)健康、病気、医療への視座から、社会学の概念がわかる
2回目	(目標①)社会学の視点とモデル・保健医療と社会学について考える
3回目	(目標①)社会調査の理論と技法を身につけることができる
4回目	(目標①)健康・病気の社会格差について考える
5回目	(目標②)「働き方」「働かせ方」について考える
6回目	(目標②)地域社会と地域保険について考える
7回目	(目標②)現代的变化の位相について考える
8回目	(目標②)社会と医療を念頭に置いて:社会の新しい地平を追究する

準備学習 時間外学習	社会情勢に興味を持ちあらゆる分野の情報を取得してください
---------------	------------------------------

評価方法	課題レポート(100%)
------	--------------

受講生への メッセージ	社会の変化を知ること、実習においてコミュニケーションの一助となります。今社会がどのようになっているのか、常に興味を持ちましょう。
----------------	------------------------------------------------------------------

【使用教科書・教材・参考書】

<教材>
講師準備

2024年度 授業概要

学 科 : 看護科

科目名 (英)	教育学	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	北崎 正則
	Education Studies	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15	実務経験	×
コース					1	開講区分	
						曜日・時限	金・1

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
人間の可能性を引き出すための教育の意義・方法を理解し、生涯教育や看護活動に役立つ基礎知識を身につける。

【到達目標】

- 1.教育意義が理解できる
- 2.教育の種類・方法・実践・評価までの一連の流れを理解することができる
- 3.教育技術を看護活動に活用することができる

<具体的目標>

目標①教育学を学ぶことを通じて役に立つ考え方や方法を見出すことができる
目標②教育という視点から社会や人の営みを学び、それまでとは違う角度を持って考えたり、見たりすることができる

授業計画・内容	
1回目	社会の中の看護と教育・教育とは何かー「教育」の概念 (目標①)教育と看護の関係について、社会の中での役割や働きかけの意味を考える
2回目	教育の対象ー子ども間と発達・社会変動と教育 (目標①)歴史・社会と発達(観)との関係について考える
3回目	教育の組織化ー学校 (目標①)社会における看護と教育の共通点について説明できる
4回目	教授一人を教えるということ・訓育ー他者とのかわりを導く (目標①)教えることの専門職としての学校教師の役割を考える
5回目	養護ー教育の受け手を見守る (目標①)医療行為としての治療・看護という働きかけと、教育を比較する
6回目	発達ー教育を受けて成長する (目標①)「教授」「訓育」「養護」「発達」について説明できる
7回目	学びの場ー学校と家庭・教育の目標と評価 (目標②)教育の営みを考える
8回目	教育のメディアー教育をデザインする (目標②)指導・教育の方法を考える
準備学習 時間外学習	(目標①)臨床では、患者とその家族への治療的教育と後輩育成のための教育を担うことになります。 まずは、教授される者としての態度を身につけることです。 (目標②)あらゆる角度から教育について思考を広げ、考えを深めてください。
評価方法	筆記試験(100%)
受講生への メッセージ	看護・医療にかかわることを目指す学生の基礎教養として、教育学の考え方や知識を身につけてください。 医療職者となった後も教育学に関心を持ち、看護に役立ててください
【使用教科書・教材・参考書】	
<教科書> 系統看護学講 基礎分野 教育学 : 木村 元 <医学書院>	
<参考資料> 看護学生のための教育学ー自己の再建のためにー 改訂3版 : 高谷 修 <金芳堂>	

2024年度 授業概要

学 科 : 看護科

科目名 (英)	論理的思考	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	国越 道隆
	Medical Logic					実務経験	×
コース		授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	15 1	開講区分	前期
						曜日・時限	木・4

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

何か判断した場合、なぜそう判断したのかが問われます。つまり、判断の論拠(理由)です。そして、判断が、必要な論拠を前提としてそれら前提から、結論として導かれる議論を提示することができます。論理学は、そうした議論の正しい筋道について考察する学問です。論理学が明らかにした議論のための正しい筋道はひろく学ばれています。それは判断するために正しく考える方法であり、また他の人にわかりやすい仕方でも議論を提示する方法でもあります。
看護師は、医療者間で専門的な情報を正確に理解しまた伝達すること、また患者にわかりやすく情報を伝達することが求められます。ですから、こうした論理学を学ぶことは必須です。この講義では、最終的に正しい議論を提示できることを目指し、そのために必要な論理的スキルを練習問題を通じて段階的に修得していきます。

【到達目標】

- 1.わかりやすい仕方でも議論を提示できること
- 2.誤解の生じにくい仕方でも情報を発信できること
- 3.判断の誤りについてその原因を分析できること
- 4.正しい議論を提示できること

< 具体的目標 >

- 目標①接続詞の使い方、主張と主張、パラグラフとパラグラフの論理的関係に敏感になる
- 目標②他人の主張に対して、また自分自身の主張に対して、「なぜそう言えるのか」と問うことができる
- 目標③日常の日本語に潜む論理性に目覚め、言葉の厳格さを求める姿勢を身につける
- 目標④ディベートや小論文執筆を実際に行うことができる

授業計画・内容

1回目	相手のことを考える (目標①)相手にきちんと伝わる議論をすることができる。
2回目	事実なのか考えなのか (目標①)論理的思考で検証することができる
3回目	言いたいことを整理する (目標②)きちんと伝えられる文章を書き、話す力、そしてそれを的確に理解する力を身につける。
4回目	きちんとつなげる (目標②)接続の構造を学ぶことができる。
5回目	文章の幹を捉える (目標③)ある主張に対する否定の形を検討し、整理し、演繹的推論を正しく行い、適切に評価できる。
6回目	そう主張する根拠は何か (目標③)議論の組み立てを学び、論証の結果として導かれた結論が、どのようにして、またどの程度までその論証によって正当化されるのかを吟味することができる。
7回目	的確な質問をする (目標④)これまで検証してきたことを踏まえつつ、特に批判的観点から議論を組み立てることができる。
8回目	反論する (目標④)ある主張に対する否定の形を検討し、整理し、適切に評価できる
準備学習 時間外学習	教科書を下読みしておく。そして、わかりにくい部分を見つけておく。 教科書の学習章をもう一度通読する。練習問題が理解できたかよく確認する。
評価方法	筆記試験(100%)
受講生への メッセージ	主体的に学習することが大切です。 手始めに、自分が理解できにくい部分を見つけ、授業中に挙手して質問することから始めてください。

【使用教科書・教材・参考書】

< 教科書 >

思考力改善ドリル 頤草書房.2020.植原亮